

山 ぎ ら

第48号 平成29年11月
関東氷上郷友会



三協運輸 株式会社

本店住所 埼玉県桶川市坂田字向990-1

創立30周年を迎え、お陰様でつつがなく発展しております。

東海道を中心に大型トラック約200輛

最新鋭設備を備えた物流センター及び倉庫約12,000坪
を軸に毎日フル稼働の体制で活動して参ります。

[安全・安心・朗らかに]を旗印にご期待に応じて参ります。



本店 新社屋(敷地面積4,000坪、建物面積2,000坪) 平成23年10月1日完成



関東発一関西行の風景
出発直前の大型トラック部隊

毎日200台の車輛群が東海道を
中心に走っております。

[主要取引先] 順不同

三井化学(株) 味の素(株) ダイキン工業(株) アサヒビール(株) 三菱商事(株)
キリンビール(株) 沖電気工業(株) 古河電工(株) ハウス食品(株) 帝人(株)
新神戸電機(株) (株)東芝 キューピー(株) (株)ブリヂストン 江崎グリコ(株)

三協運輸 株式会社

代表取締役会長 岸本 勲(氷上町出身)

本 店 埼玉県桶川市坂田字向990-1 TEL. 048 (728) 9380
E-mail : sankyounyu_saitama@h6.dion.ne.jp

本店配車センター 埼玉県桶川市坂田字向990-1 TEL. 048 (729) 0466
大阪支店 大阪府大東市新田中町3-3 TEL. 072 (806) 2821

物流倉庫所在地 東京・埼玉・神奈川・名古屋・大阪



山
ぎ
る

第48号

山ぎる 第48号 目次

〈表紙〉笹倉鉄平画「障子の葉陰」／〈扉〉写真Ⅱ徳田八郎衛

ご挨拶……岸本 勲 5

平成28年度「ふるさとの会」開催……6

近藤和行氏 新聞・テレビの現場から見た現代の世相……8

平成28年度「ふるさとの会」出席者……12／会計報告書……13

懇親会スナップ……14／新役員一覧……18／祝寿の方々ご紹介……19

《ふるさと随想》

CNFと蜘蛛糸シルク・丹波の将来に思いを馳せて……丸川宥次郎 22

福知山教育隊から出征した学徒兵 南方に征き、そして帰らず……木呂子恵美子 27

元満州国皇帝溥儀の実弟・愛新覺羅溥傑と丹波の偉人との奇縁……足立敏晤 31

《近況・エッセイ》

鬼瓦巡り……岡 吉明 34

転勤地の思い出……芦田美代子 43

テニス旅行のこと……三木 亮 45

丹波市青垣町大名草からスター誕生！……足立正美 47

高齢者と目の病気……足立和孝 48

《私の職場》

「今」を精いっぱい生きることが何よりも大事……芦田純子 52

《インタビュコーナー》

高岡正人さん 丹波は私の原点です……編集部 55

《丹波から》

はしり……竹内牧人 80

世界に飛び出た私が、今、丹波に戻った理由……中川ミミ 87

《丹波ブランド紹介》

〈その8・氷上つたの会〉郷土料理守り特産加工品つくる……足立智和 91

《丹波通信》

丹波市の舞台文化―3団体を中心に……荻野祐一 96

《丹波人物記》

井上 秀 女子高等教育の先駆者 その2……徳田八郎衛 101

泊雲と泊月……西山裕三 109

《丹波のまつり》

延喜式内社高座神社……梅只敏幸 115

青垣町のまつり……小寺昌樹 116

青垣小学校の開校……小田繁雄 120

青垣翁三番叟……足立 元 122

祭と太鼓……田村公平 124

佐治川まつり……高橋妃登美 125

佐治のまつりの思い出……鴻谷正博 127

命の神熊野神社由緒……金子峰代 128

はだか祭り今昔……山中利樹 129

神楽の祭り……下野美彦 131

《山ざる文芸》俳壇・詩座・歌壇・川柳座……60

《MYギャラリー》大城戸しず代／小西允子／富田貞子／藤原ひさ子……67

《簡単レシピ》上田道代／安井孝之……71

《丹波を撮る》……徳田八郎衛 73

ふるさとトピックス（丹波新聞から）……79 BOOKS……134

会員だより……139 同窓会だより……144 インフォメーション……146

寄付者芳名……150 《協賛広告》……151 編集後記……164

青垣小唄

作詞 稻積 久
作曲 橋本 喬雄

一 兵庫青垣恋しゆてならぬ

山の青さと人の好きさ

咲いたさくらのうす紅よりも

うれし人情の工、花がさく

二 佐治の川風川瀬の音が

明日へ伸びゆく夢を呼ぶ

見やれちらほら堂の灯り

墨絵ばかりの工、つりの人

三 三国山やら粟鹿の峰が

衣替えして 綾 綿

秋が来たきた豊年ばやし

なびく稲穂は工、黄金色

四 ここは炭どこしんそこ熱い

あつい想いの十九、二十

待つております繁昌の春を

ほんに青垣工、よいところ

ご挨拶

会長 岸本 勲



での会合にて織田信親子爵を会長に戴き、今日までの歩みのスタートを切ったのでした。先輩たちの残された資料によりますと、実際にはその前年の秋に設立の会合が開かれるはずが、何らかの都合で一年延びたのだらうということです。これには明治二十七・八年の日清戦争の混乱があったからだらうと考えられますが、以後日露戦争、支那事変(日中戦争)、大東亜戦争(太平洋戦争)など騒乱の時代に、幾多の盛衰を乗り越えて、関東以東に住まいされる丹波人たちの心の拠りどころとしての集まりが続けられてきました。太平洋戦争中

および戦後の活動中断を経て、昭和二十八年一月二十八日に、新橋の日本食堂で開かれた会合には、百名を超える同郷人たちが、嬉々として集まったといわれます。それから十三年後の昭和四十一年六月に本誌「山ざる」が創刊されました。題字「山ざる」の揮毫は、当時の会長石橋次郎八氏(日本絹糸業界の恩人)、編集は松山幸逸氏(元報知新聞記者・現東京放送設立功勞者)によるものでした。第三号からは、渡邊隆男氏(二女社創業者・第九代本会会長、現名誉会長)が編集を引き継がれ、毎年発行されるようになり、今日の姿になっています

さて、こうした誇るべき歴史と数々の遺産を持つ本会の会長を、平成二十八年度総会にて、拜命いたしました。先達の残された様々な実績を考えると、改めて身の引き締まる思いですが、会員諸兄弟のご支援を得て、この負託に応えるべく、およばずながら職責を全うする所存です。そこで、取敢えずは今年の総会を、百二十年を超えた会に相応しい集まりにしたいと考えています。十一月二十五日の学士会館での総会には多勢様のご参加を、心からお待ちしています。



平成28年度「ふるさとの会」開催

平成28年度の「ふるさとの会」は11月12日（土）11時より、昨年引き続き東京都千代田区の学士会館で行われました。

総会に先立つセミナーでは、「新聞・テレビの現場から見た現代の世相」と題して新聞&テレビという、今日の2大メディアの表舞台でご活躍の丹波人・近藤和行さんに、双方の報道の現場にいるからこそ見えてくる世相の変化や高齢社会の課題について語って頂きました。（8頁参照）

総会では坂上勝朗会長の挨拶と報告、引き続き、谷口副会長（会計担当）よりの会計報告、監査報告があり、拍手で了承頂きました。引き続き、今年郷友会の役員改選の年に当たり、坂上会長より役員会で推薦された新理事さん、退任となる理事の皆さんの紹介があり、新年度の役員さんについて会場の賛同を頂き新役員が決定されました。8年の長きにわたり会長としてご苦勞頂いた坂上会長に代わり新会長は現副会長の岸本勲さんにバトンタッチ、坂上会長、岸本新会長よりそれぞれ挨拶と抱負を頂きました。坂上会長は今後も顧問として引き続き側面よりお手伝い（アシスト）頂けるのご挨拶は新会長以下今後の運営に心強いお



岸本新会長

言葉でした。

その後、満80才を迎えられた郷友の方にお祝いを申し上げる「祝寿会」に移り、ご案内を差し上げた

23名の皆さんのうち参加頂いた足立明子さん、荒木輝雄さん、鶴田ゆき子さん、高尾久子さん、高見秀史さん、藤田千治さんに坂上会長より祝辞と記念の似顔絵を贈りました。何時もながら皆さんお若くとても年齢を感じさせない見事な容姿とお話に感心するばかりでした。(なお今年も似顔絵の制作は、ふるさとひょうご「道草」句会の宗匠住田道人氏にお願いしました)。
懇親会は岸本副会長の司会で開会、御来賓の丹波市長の辻重五郎さんには丹波市の現況を交えたご挨拶と併せて乾杯の発声も頂き、宴会がスタート、御来賓のご挨拶では、兵庫県東京事務所の大角次長(県知事よりのメッセージ含む)、丹波新聞社小田会長より丹波市近況報告も詳細にいただきました。

今年は講演の他、パームアイランダーズの大野光男



様以下7名によるハワイアン音楽の演奏と石原ひな子さんのフラダンスもご披露頂き例年にも増して和やかな楽しい会となりました。

何時もながらあつという間に予定時間が終わってしまうという楽しいひとときを過ごし、恒例のお楽しみ抽選会は参加者全員にチャンスがあり、空くじ無しで「丹波黒豆」、「丹波産古代米赤米」、「丹波乳業のヨーグルト」などがそれぞれ全員に渡るようされ、全員何かのお土産を頂いて帰ることが出来ました。総会の締めくくりは笹倉強先生の指揮で「故郷」の大合唱になり大いに盛り上がりを見せました。

和やかな会も来年又元気に会えることをお約束し閉会となりました。

(岡 吉明)

近藤和行氏 講演要旨

「新聞・テレビの現場から見た現代の世相」



「プロフィール」春日町出身。一九六二年生まれ。柏原高校（三十二回）卒業。東京大学経済学部卒業後'84年読売新聞社入社。東京経済部で大蔵・通産・外務など官庁、日銀、財界、自動車・電機などの企業取材を担当。バブル経済のピーク以降の日本経済転落の軌跡を取材。'07年2月から編集委員'16年4月から論説委員兼務。'13年9月からはBS日テレ「深層NEWS」(月々金22時～23時)のキャスター。番組は、読売新聞と日本テレビの取材力や解説力を活かし、視聴者の関心の高いテーマを掘り下げた本格報道番組として人気が高い。その他、日本中央競馬会（JRA）経営委員会委員、NPO「ふるさとテレビ」顧問など多方面で活躍中。愛読書は川上弘美、井上荒野、角田光代らの純文学。

「新聞の苦境」

新聞の読者が減っています。「新聞育ち」にはとても気がかりな時代です。

失われた二〇年といえます。厳しい経済状況が続いたからでしょうか。「新聞は読みません」「そんな高価なもの購読するなと親がいいいます」。新聞販売の

現場からはそんな声さえ聞こえてきます。

報道面もわかりです。近年、朝日新聞による「従軍慰安婦報道」が世間の不評をかいました。もちろん朝日新聞に限りません。新聞の生命線である「信頼」を揺るがすような、虚報・誤報が目につく時期がありました。

新聞離れは、そんなことも影響しているのでしょうか。堅い話をすれば、知識や文化水準にさえ影響が出そうな「活字離れ」は何とかなければと思います。新聞や雑誌等の世界の人たちには共通の危機意識だと思います。

「テレビの悶絶」

一方で、3年ほど前から、BS日テレ「深層NEWS」という報道番組に週2回ほど出演しています。新聞がモノクロなら、テレビは演出にせよ、人やモノの使い方にせよ、とても華やかな世界です。

テレビの世界は、かつて視聴率50%超えという番組がゴロゴロしていました。懐かしいところでは、ドリフターズの「8時だよ全員集合」。プロ野球の巨人戦

も人気番組でした。テレビが広く支持されていた時代です。

今は多チャンネル化が進みました。私が10代だった頃の丹波は地上波7チャンネル。今は、BSやCSも含めれば数知れません。それだけ皆の関心も分散され、それに伴い視聴率も分散されました。今や10%超えれば人気番組です。

テレビは残酷な世界でもあると思います。テレビマンは視聴率のため、「数字を持つている」といわれる人を多用する。同じような顔ぶれが、一日中、各局の番組に出る。その分、「消費」も早い。数字が取れなくなれば、そのタレントはいつのまにか画面から消えて行きます。

視聴者におもねる、という意味では、報道番組も大差ないような気がします。数字が取れるテーマ、例えば、嫌中嫌韓、北朝鮮、小池劇場などなど。地味だけでもっと大切な、自然エネルギーや財政再建問題などはどうしても後回しになりがちです。なぜなら、やはり大衆受けしないから。

テレビの影響力は今でも絶大だけど、そんな傾向が

少しづつ、視聴者の信頼を損ねているのではないのかなあ、と思っています。

新聞もテレビも雑誌も、それぞれ果たすべき役割は、まだまだあるはず。それがなんなのか、考え、取り組み続けたいと思っています。

関心事は「老い」

そんな新聞やテレビの現場に身を置いて、痛感するのは「老後」問題への関心の高さです。

情緒的な媒体といわれるテレビに対し、視聴者が求めるのは「激論」か「納得感」といわれます。「激論」の代表格は、政治家や学者が政治生命、学者生命をかけて自分の意見を戦わせる、文字通りの激論です。感情がむき出しになり、怒りの表情が映し出されること、視聴者を納得させるといいます。こちらは政治討論という形です。

もう一方の代表格である「納得感」は、「そうだったのか」「そうすればいいのか」という新たな発見、気づきを得られることです。

例えば、「プラス3万円で豊かな老後」とか「寿命

を3年延ばす暮らし方の知恵」など、マネー、健康、人付き合い、趣味——などの分野での納得感が望まれているようです。こちらはなかなか難しく、ゲストの人選やテーマの立て方、フリップの工夫……などが必要で、かなり苦労しています。

話は変わりますが、「文学界」という文芸雑誌に載った石原慎太郎・元東京都知事の対談が、仲間内で話題になっています。何が書かれていたかという点、石原さんによる「告白」です。

——「(何年前かに)軽い脳梗塞を起こしてから、死のことばかり考えている。怖い」

——「鏡の前で、『もうおまえ、ダメだな』なんて(自分に)いうんだ」。

強気で、やや右寄り、さっそうとしたイメージしかない石原さんに、似つかわしくない告白内容に驚きました。高齢社会の真相を映し出しているかのようです。

「終わった人」と故郷への想い

私ごとですが、「老い」とともにつるものがあります。私は55歳をまもなく迎えますが、65歳定年時代

とはいえ、60歳まで5年を切ると思えば、第二の人生やこれからのこと、故郷のことなど、思いをはせる先に随分、変化が出たなあと感じます。

内館牧子さんの近著「終わった人」を読みましたか。出世競争に敗れ、銀行を去った主人公が、「まだまだやれる」とあがく姿を描いた小説です。

その中で、内館さんは主人公に2つの印象的なフレーズを言わせています。

——「定年って生前葬だなあ」

——「散る桜、残る桜も散る桜」

前者は、著作冒頭、定年退職する日に花束をもらい、後輩から投げかけられる慰労の言葉に、主人公は「会社員としての葬儀」を連想します。表向き、功績や人格をたたえる言葉のオンパレードは、まさにそんな儀式を感じたのでしょうか。

後者は、退職する主人公が出世競争に生き残り、さらなる出世を果たすライバルに心の中で投げかける言葉であり、ひんぱんに自分を慰める言葉でもあります。そのころは、「俺は会社員として散って行く。おまえは残るが、それもしばらくの間のこと。そう時を置

かず、おまえも散って行くのだ」——。なんとも哀しいものを感じました。

かつては敬遠していた、大学や柏原高校、進修小学校の同窓生との会合も、最近は進んで出るようになりました。そこでの話題は、おのずと第2の人生に及び、上記のような話題も良く出ます。

迫る定年、「散る桜」に代表される現役会社員の終わりが近づいたことを共感し合い、それに加えて、共通する思いのひとつに、何の恩返しもしていない「故郷への後ろめたさ」もひしひしと感じます。

工作上、いろいろな取り組みを取材することがありますが、全国でさまざまな模索がされています。

最近見聞きした事例で、おもしろいなと思ったのは、ベンチャー企業・ユードレナです。ミドリムシを石垣島で培養し、化粧品や健康食品にして売る。話題の企業ですが、そこと沖縄・石垣島、目黒区の自由が丘商店街、産業能率大学の4者が提携して町起こしに取り組んでいます。詳細は省略しますが、石垣島はミドリムシの培養のための土地などを提供、その代わりにユードレナから税収が、自由が丘商店街で観光や名産物

の 프로모ーション活動ができる。商店街は石垣から目玉商品やイベントが、産業能率大学は新しい産業連携の研究材料ができる。みんながウイン・ウインになるという思惑です。成功するかどうかは別として、「知恵者」はさまざまなアイデアをひねり出そうとしているのだなあと感じました次第です。

工業団地を作り、製造業の工場誘致で雇用と税収を生み出すという、これまでの地域振興策は残念ながらもう立ちゆかなくなっていました。どうすればいいのか。完全に散る桜になる前に、なにか故郷に貢献できないか。そんなことを考えている同世代が多いようです。自分自身も何ができるのか、これから良く考えて行きたいと思います。(了)



撮影・岡田昌子

◎平成二十八年度「ふるさとの会」出席者

(順不同・敬称略)

来賓

辻重五郎 丹波市市長

大角真一 兵庫県東京事務所次長

平谷英明 東京兵庫県人会幹事

小田晋作 丹波新聞社会長

沖永朝裕 神戸新聞社東京支社長

大野光雄 パーム・アイランドス

講師

近藤和行 読売新聞社編集・論説委員

祝 寿 昭和11年生まれ(一九三六年)

足立明子 荒木輝雄 高尾久子

高見秀史 藤田千治 鶴田ゆき子

会員

青垣町 田村公平

市島町 荒木司郎 荒木輝雄 石橋順子

柏原町

高見秀史 鶴田ゆき子 藤田千治

藤田純 藤田純子 丸川有次郎

丸川寛子 山本喜則 吉見弘文

足立和子 池畑廣士郎 岡吉明

岡洋子 岡田昌子 小田晋作

可部美智子 久保田元子 河本幸子

瀬々妙子 高尾久子 徳田八郎衛

三贅洋子 森田栄子

山南町

大野義昭 久保良雄 下井源治郎

勢川武彦 仲一聰 野村節三

原谷洋美 藤原ひさ子 若森敏郎

形田恒夫

水上町

足立明子 足立和孝 足立謙悟

足立義雄 井上巖 上高子

上田道代 上野忠明 岸本勲

岸本敏子 坂上勝朗 谷口捷

谷口浩章 藤田玲子 山岸幸子

荻野禎一

春日町

木呂子惠美子 久下善生 近藤和行

西脇市

笹倉強 笹倉郁子

会 計 報 告 書

(平成28年7月1日～平成29年6月30日)

関東氷上郷友会
 会計理事・谷口 浩章
 原谷 洋美

(単位：円)

収 入 の 部			支 出 の 部		
科 目	金 額	摘 要	科 目	金 額	摘 要
繰 越 金	1,721,776	郵便貯金 921,776	出 版 費	854,308	『山ざる』47号
		定額貯金 800,000	通信・印刷費	163,531	総会・役員会案内等
		振替貯金 0	総 会 費	626,264	総会関係支払
年 会 費	394,000	延197名	会 議 費	141,804	役員会等
総 会 費	498,000	62名	支 払 手 数 料	210	振替手数料
会 議 費	137,000	40名	消 耗 ・ 備 品 費	75,232	事務品・広告費・慶弔費
寄 付 金	222,500	延62名	繰 越 金	1,704,489	郵便貯金 904,489
広 告 料	575,000	延46名			定額貯金 800,000
冊 子 代	17,559				振替貯金 0
そ の 他	3	利子			
合 計	3,565,838		合 計	3,565,838	

以上

監査の結果、上記のとおり相違ありません。

平成29年 8 月 4 日

会計監査

中 原 篤 子 中
谷 敬 三 谷



懇親会 スナック

撮影：岡 吉明









関東氷上郷友会役員名簿

(平成28年11月改選)

理事	顧問																		常任理事							副会長	会長	名誉会長
				会計担当																会計	山ざる・編集	事務局						
足立和孝	坂上勝朗	山本喜則	本城英明	原谷洋美	仲一聰	徳田八郎衛	高見秀史	勢川武彦	木呂子惠美子	上田道代	上高子	植田茂樹	足立義雄	足立謙悟	谷口浩章	岡田昌子	岡吉明	岸本勲										渡邊隆男
氷上町	氷上町	市島町	氷上町	山南町	山南町	柏原町	市島町	山南町	春日町	氷上町	氷上町	柏原町	氷上町	氷上町	氷上町	柏原町	柏原町	氷上町										氷上町

	監事																																							
中居篤子	谷敬三	安井孝之	八木敦子	八木信行	丸川宥次郎	前田武彦	藤原ひさ子	藤田純	千種倫幸	谷垣邦夫	田邊浩文	近藤和行	近藤仁司	川端真澄	金出一郎	大野義昭	上田正文	井徳正吾	井出恭子	石橋順子	足立知佳子																			
山南町	柏原町	氷上町	柏原町	氷上町	市島町	春日町	山南町	市島町	山南町	柏原町	氷上町	春日町	春日町	青垣町	春日町	山南町	氷上町	氷上町	市島町	市島町	春日町																			

祝寿の方々ご紹介

郷友会では毎年の総会で80歳を迎えられる会員に祝寿のお祝いをしておりますが、今年その記念の年に当たられる17名の方に、以下の項目でアンケートを依頼しました。そのうち、5名の方から回答頂きましたのでご紹介します。(誕生日順)

- ① 生年月日
- ② ご出身地
- ③ 上京の年月日
- ④ 上京の動機
- ⑤ これまでに最も印象に残ることは
- ⑥ 祝寿を迎えられてひと言

生まれた年Ⅱ昭和12年・丁丑・1937年 第1回文化勲章授与式、長岡半太郎、佐々木信綱、幸田露伴、竹内栖鳳、横山大観等9人が受賞。双葉山が35代横綱昇進。ヘレンケラー来日。虚溝橋事件勃発。「露宮の歌」(勝つてくるぞと勇ましく)が大

ヒット。その他、人生の並木道、青い背広で、別れのブルースなども。国宝名古屋城金の鯨雄の鱗が58枚盗難にあう。郵便封書4銭、はがき2銭の時代でした。

(編集担当 本城英明)

出町京子(西崎祥)様



- ① 昭和12年2月19日
- ② 柏原町
- ③ 昭和30年2月
- ④ 本格的に日本舞踊を学ぶ為には、先ず自立して都会の生活

の中で、どこ迄目的が達成出来るものか自分を試してみようと思った。

- ⑤ 20歳になる直前、恩師の逝去という不幸に見舞われたこと
- ⑥ 自分の好きな事を仕事として、今日迄続けて来られた事を感謝し、子供達に日本の文化(和の作法)を教えることで、まだまだお役に立ちたいと思っています。

鈴木 智丈様



- ① 昭和12年3月29日
- ② 山南町
- ③ 昭和38年
- ④ 昭和38年縁あって浜松市に転籍(僧籍)。旧・井谷英勝よ

祝寿の方々ご紹介

り鈴木智丈（智英）に改める。

⑤右記に同じ

⑥平成29年6月、中国四川省に行つてきました。趣味の野鳥撮影が目的のグループツアーでした。高山病など、多少の不安もあつたが、4000mを越える峠を越えて、オグロツルの生息する大湿原の光景に感動しました。自分自身に対しても乾杯です。『行けるときに行きたいところに行く』

藤田 玲子様



①昭和12年8月31日

②氷上町（旧幸世村御油）

③昭和40年2月18日

④結婚のため、初め国立のアパートに住み、三鷹の社宅に移る。主人の転勤で北海道へ行き、昭和48年、武蔵小金井へ帰る。その後入間市に住むが、又転勤で仙台に行き、14年後に又東京へ帰つて来ました。そして現在の入間市に住んで25年です。

⑤私は今から55年前（1962年）に氷上町（旧成松の常楽）にある小さな教会（伝道所）で洗礼を授けて頂きましたが、その後何処に住みましても教会が与えられませんでした。

⑥平成21年9月に胃の手術をしました。今のところ転移もなくすごしています。大きな事は出来ませんが、少しでも頂いた御恩返しがしたいと思つています。

足立 勝様



①昭和12年9月3日

②氷上町伊佐口

1日

④旭化成水島支社から旭化成東京本社へ転勤した為

⑤60歳で定年退職した年に株式投資を開始しNTTドコモ株を5株を3750万円で購入。5分割で1株450万円に高騰。その後、ストップ高で1日で1250万getしたことはその後じり貧になった私としては今となつては忘れられない思い出です。

⑥閉鎖性動脈硬化症、糖尿病、腎臓病を長年持病に持ちなが

祝寿の方々ご紹介

らも毎日2・2万歩いて健康増進に努めております。お陰で体調も至って快調で三病息災、卒寿迄をモットーに後10年は元気に暮らしたいと思っております。

高松 常太郎様



①昭和12年10月

8日

②春日町黒井2

449番地

③昭和32年4月

④東京に憧れ広い日本を見たい
⑤中央大学の二部に入學。クラス

スメートに円谷幸吉君がいて
クラス60人仲良くしていたら
彼は昭和39年東京オリンピック
のマラソン代表になり応援

やらテレビ出演やら私も一緒に出演。現在親友の君原健二さんと共に各イベントに参加しています。

⑥上京後現役のサラリーマンで苦戦してきましたが、ミス大丸の女房と知り合い（妹のグループ）青春時代はスキーやハイキング、旅行と好きな事を出来た時代でした。子供夫

婦は目の前の一軒家で暮らしていて孫と共に毎日豊かに好き勝手に満喫しながら過しています。今現在4000人会員のさいたま市シニア大学連合会長と名ばかりですが、ゴルフ大会、コンサート、ウォーキング、演芸発表会と飛び廻っています。



撮影・岡田昌子



撮影：徳田八郎衛

ふるさと随想

CNFと蜘蛛糸シルク・
丹波の将来に思いを馳せて

丸川 宥次郎（横浜市）

昨年（2016年）の6月鴨庄中学の同窓同級会をするので来いとの案内が来た。



なにもこの梅雨の最中にする事はないだろう、近くの者は車で送り迎えしてもらえないから良いだろうが、何百キロも離れた横浜から行く者の身にもなってみると少々不満ではあったが、案内状の最後に「皆、高齢になったから今回が最後になるかも知れないので是非来い」との添え書きが有ったので腹を決めて行くことにした。

当日は案の定、朝から雨と風それに土曜日なので始発のバスが遅い時間のため利用できず、いらいらしながら空と睨めっこ、と急に雨が止んだ。少し早かったがこの時とばかりに飛び出した。幸い雨に遭わずに駅に着いた。その後は乗継のロスも殆ど無く京都回りで

予定より約1時間程早く福知山に着いた。時間調整をしようとした表を見て驚いた。福知山線は1時間に一本しか無い。早いけれど遅れるよりましだしコーヒーでも飲んで時間を潰せば良いと列車に乗った。市島駅に着いて駅を出て自分の考えの甘さを痛感した。駅前には喫茶店どころかお店なるものは一軒も無かった。散歩でもと思ったがあいにくの雨。しかたなく駅の待合室の硬い椅子に腰かけて一時間待つ破目になってしまった。

そして宴会で親しい仲間上記の話をしたら、彼らは口々に田舎の過疎化と衰退を嘆き将来の希望などまったく無いと言いつつ。私は一瞬啞然とした。そこで私は今迄考えて来たことを彼らに提案した。以下はその話の要点をまとめたものである。

現在の社会（文明）は地球が数億年もかかって作り、貯めこんできた化石燃料及び地下資源（金銀 銅 鉄 等）という遺産を消費することで発展し維持してきた。しかしそれは無限ではない。

化石燃料（石油 石炭 天然ガス等）や地下資源（金属加工品は回収しているがもちろん100%では

ない）は何十年、何百年か分らないが、何れは無くなる。特に資源の乏しい日本は高い値段で買わされることになり（現在でも石油は高い値段で買わされおり電気代はアメリカの約3倍）、競争力は低下する。特に石油を主原料としているプラスチックが問題になり、それに代わるものがセルロースナノファイバー（CNF）であり、リグニンである。材料は田舎で邪魔になっている間伐材や雑草で、これらは持続型資源である。田舎には技術もお金もないが、誘致をし大手企業を呼び込めば過疎化に歯止めもかかる。市や県を動かして早い段階から進めればと思う。政府もこの分野に力を入れている。

政府が閣議決定した「日本再興戦略2016」には林業の成長産業化の具体策としてCNFとリグニンの製品化に向けた研究開発が盛り込まれた。

この関係に力を入れている企業及び大学は以下の通りだ。

京都大学 東京大学 王子ホールディングス DIC
（株）三菱化学 アドバイザー トヨタ車体 スズキ
日産自動車 デンソー 日本製鋼所 パナソニック

日本ペイント 住友ゴム工業 日本製紙 等々。

次にセルロースナノファイバー（CNF）とは何かについて述べたい。

まずセルロースとは、学術的にいうと、グルコースが結合して生じた鎖状高分子化合物であり、植物の細胞壁及び繊維なのである。因みにグルコース（C₆H₁₂O₆）とは単糖の一種でブドウ糖である。

セルロースは全ての植物の細胞壁の骨格成分で、樹木の細胞壁は鉄筋コンクリートと同じでリグニン（セメント）の中にセルロース（鉄筋）が埋め込まれている状態である。その割合は樹木を例にとると

セルロース 50%

ヘミセルロース 20〜30%（ヘミとは半分の意味

セルロースとリグニンを繋ぐ役目をしている）

リグニン 20〜30%

そのセルロースをナノ（10億分の1m）単位まで細かくした繊維がセルロース・ナノファイバー（CNF）である。特徴は、「重さは鉄の5分の1」「強さは鉄の5倍」「熱による変形はガラスの50分の1」植物由来であるので、持続型資源でしかも環境負荷が少な

い。

<利用可能な世界の植物資源量>

世界の植物資源	利用可能量 (百万トン/年)
木材	1,750 (17.5 億トン)
藁 (稲 麦 他)	1,145
茎 (トウモロコシ 綿花 他)	970
砂糖キビのバガス (搾りかす)	75
アシ 葦	30
竹	30
綿	15
ジュート ケナフの茎芯部 (麻の様なもの)	8
ジュート ケナフの茎繊維部	2.9

次にセルロースナノファイバーの用途について。

透明フィルムで熱による変化が少なくまた曲げに対しても柔軟性が有るのでフレキシブルコンピュータ・有機薄膜太陽電池・有機ELディスプレイ材料、プラスチックのように成形材料として自動車部材・航空機部材・建築材料・包装・容器材料、その他医用材料として紙力増強剤・化粧品・など幅広い分野での利用が見

参考；世界の2015年の石油輸出量は20億トン



込まれている。又樹木に含まれているリグニンに付いてもセルロースノブファイバーと同様の用途が期待されている。

今田舎で邪魔になっている間伐材や手入れがされない土地に生えている雑草（ススキ）などは、資源であり資産なのだ。田舎―農業―お米、その次が観光。これでは田舎は疲弊して行く。無論稲作も観光事業も大事だ。しかし今の日本は人口減少と米離れが進んでおり、それにしがみ付いているわけにはいかないし、観光事業も一過性の物であつては駄目で、継続して採算

に乗るだけの客を集めるのはかなり難しい事だと思ふ。今世界は特に日本は化石燃料からの脱却を目指している。都会は世界情勢の変化や株と為替の変動に一喜一憂していてそこに生産性はない。それに比べ田舎には土地と資源が有る。かつては石炭がその地域を活性化させたように、それを活用すれば将来的に発展する可能性が多分にある。

次に養蚕についての提言。

丹波はもともと養蚕の盛んな地域だった。村の随所に桑畑があり桑の実を食べた記憶と地域のお堂に子供達が集まり桑の木の皮を剥いだ記憶もある。高校時代には柏原に製糸工場があり、一度訪ねた記憶がある。また丹波の古い家には養蚕の道具が必ずと言えるほど有った。現に私が住んでいた鴨庄の家の屋根裏には、蚕が繭を作る時の道具が沢山有った。

しかし私が提案するのはその様な昔に帰れと言う事ではない。まず恒温恒湿でしかも無菌に近い部屋（工場）を作る。蚕は非常に弱い生き物なので出来るだけ外部から病原菌が入らないようにしなければならない。次に餌については桑の葉を与えるのではない。桑の葉

で飼育すれば桑の葉が有る時期にしか飼育出来ない。今は蚕専用の人工飼料が有るのでこれを与えれば桑畑も手間も要らない。しかも一年中蚕を飼育する事が出来る。そして飼育する蚕は蜘蛛の糸を作る遺伝子の一部を入れた蚕である。約4億年の進化の歴史ある蜘蛛の糸は以下のような素晴らしい特性を持っている。

柔らかくて強い／引張り強度(タフネス)は鉄の約20倍／耐熱性は250〜300度まで耐える／紫外線に強い／シルクなどは劣化する／シルクよりも伸びる

現在この研究をしているのは茨城県つくば市にある農業生物資源研究所である。現段階では蚕が作る「蜘蛛糸シルク」には蜘蛛の糸の基になる蛋白質は全体の0.4〜0.6%の重さしか含まれていないが、強度がシルクの1.5倍になったという。将来はもつと蛋白質の量を増やせばより丈夫で劣化しないシルクが出来るようになるだろう。用途は洋服(丈夫で熱に強く劣化しない)や手術用の縫合糸に応用できる。

設備投資の面からも年間を通して養蚕が出来ると言うことは、一年間の生産量を設定しそれを12で割りタイムラグを設け毎月繭が出来る様にすれば、製糸工場

も一か月分が処理出来るだけの設備でよく、しかも一年中仕事が出来ないので「でかんしょ節」にならず会社として成り立ち、安定した雇用が見込める。

以上がその時私が提案した内容を要約したものである。すぐに出来る事ではないが、将来を見据え早い段階から手を挙げて準備してはどうだろう。

(注：本文中の図表・数字は読売新聞他より)

(昭和10年生、市島町、音響関連機器の開発設計と工場管理)



撮影・岡吉明

福知山教育隊から出征した学徒兵 南方に征き、そして帰らず

木呂子 恵美子（清瀬市）

私は来年八十歳になる。このところ何年ぶりかのひどい喘息発作や高血圧からか、もう終りかなと思う故障が何度もあるので、今の内にぜひ今の時代を生きている人に伝えたいと思うことを記してみる。

私は木呂子と歳が離れているので、義兄は大連中学の一回生、弟は三回生。一回生の中では戦死者が何名も居る。大連三井物産勤務の義父が妹芳子と共に福知山に会いに来ている。

昭和19年8月、義兄木呂子友親ともちかは京都府福知山市中部軍教育隊に居た。昭和18年、早稲田大学在学中、学徒出陣で出征し、甲種幹部候補生11期生として南方軍移動準備中（注・「ルソン戦・死の谷」より）「陸軍予備士官学校等に入った11期生の主力が卒業を待たず事実上、陸の特攻隊として南方決戦に投入され、北部ルソンで悲惨な最後をとげた。徴兵延期の停止により18

年12月、大学高専在籍のまゝ入營」。義兄が福知山市中部軍教育隊から19年8月10日に出した二通の葉書がある。最後の別れであった面会は、せわしなく一時間半だった事、昌福（弟）にも是非会って下さい（彼は静岡の隊に居た模様）、煙草の香も懐かしい。矢張りあちらのはいいですね。（検閲済の印が押してあるが、ひっかからなかったのかしら？ と私）。もし帰連（大連に帰る）される途中に一度寄って頂けたらと「出家とその弟子」「賢者ナーターン」「赤彦歌集」等の所望があった。南方に出発する日時はまだ解らない模様。義父は大連で五人目の女の子が産まれた時、三十三歳の妻を亡くしている。手伝いの者は何人か居たらしいが、男手一人で育てたに等しい子供等の中の男二人に最後の別れに大連から来ていたのだ。別便の手紙の中に、数首の歌が有る。その中から、

○我は征く南の海の涯遠く

仇なす國を うち鎮めんと

○筆を捨て剣をとりて起ちしより

八月鎌へて今征かんとす

○幾歳か蔵められにし傳刀の

威をば振はん時ぞ来にけり

○我が幸を神に祈るとのたまひし

祖父の御ことば身にぞしみけり

祖父は出征する三人の孫に、伝家の刀を渡した。月の砂漠の作曲家佐々木すぐるの長男（南方の戦地で戦死）、木呂子の二人に。脇差しか軍刀に仕立てたものが解らない。

手紙の最後に「出発前の今の気持、全てのものに感謝致したい気持で一杯です。芳子（妹）よ、父上を頼みます。俺達の分もどうか」。

その後、義父の元に一枚の戦死公報があり、あらびあ丸でマニラを出港し、マニラ西方沖で雷撃を受け船体と共に海没戦死。23歳。10月18日と記されていた。約四十年後の昭和58年、静岡の新聞社を経由して、日記、友親兄の戦友、大分の古川明夫氏の遺筆、陣中日記を戦地で発見したアメリカの人が日本の新聞社を通して持ち主を探し返してくれたものだ。同じ学徒出陣の仲間で福知山から比島上陸まで行動を共にした人、その中に木呂子の名前が度々出て来るので、静岡方面

の親戚から判明し、日記は大分の古川氏の妹さんの元に返されたと聞く。その写しがここに有る。

九月二日出陣。九月三日征途次列車より、海辺の子供達手を上げふれり、余、この美しき国土と人情のためにも敵を討たむかな。

九月四、五日の記より。門司で、大分近し母妹知るよしもなし。只門司の海を眺むるのみ。幸ひあれ父なき者へ（母妹のみの一家）。

九月六日乗船。船内寢室頗る狭し、とある。

ぎつしりの寢室に十人もつめ込まれ、下の厩舎が一頭一仕切、通気筒もあり、馬の方が余程将校級なりとある。大雨が降れば寝る所をもとめ、「皆、雨を避け兼ね、寢室内に厩うまやに或は船員の室の廊下に横はると頑張れり。然れども、雨流れこもしめり、腰冷やかになり、まぎらわさん為語らんと、甲板上の初恋の物語りなり。中学生時代を想ひ懐かしむ。

ためてある飲み水もひどく、古川氏はマニラ上陸時は猛烈下痢の為、歩行も出来ず入院。セレベス、ボル

ネオ、ルソン島と友出發す とある。木呂子他戦友に親身に世話になったと礼を記している。その後10月17日、友親兄はあらびや丸にてマニラ出港、18日電撃を受け船体と共に海没する。

その後の日記は20年1月19日、リングエン湾に上陸、その後の戦いは、悲惨を窮める。敵の砲と戦車砲に、陣地を焼かれ、弾もなく、食料もなく、最後は口から頭にかけて受けた砲撃破片が丸い玉だったので腫れて、かき傷如き傷を負い、マリアアで頭がもうろうとする中、泣きながら歩く。そのあと2月17日で日記は終わっている。

私はこの日記を見る度、涙が止まらない。木呂子の家でも「兄は優秀だった」といつも弟は言っていた。私は戦争を恨む。何故こんなに優秀な心優しい若者たちが、ボロ切れの様に大切な命を奪われるのか。

山ざる44号「ハルピンの思い出」に続く

ハルピンの花蘭国民学校、19年6月から20年夏まで、私のがびのびと通っていたこの学校は、その後、生命からがらハルピンにたどりついた人たちの収容所にな

り、日本人会の人たちも貧しい中から物を持ちよったりしたらしいが、寒くなると私たちが校庭で氷の小山をそりですべった所だ。亡くなる人が大勢居て、凍った校庭に埋めることが出来ず人の山が出来ていたと聞く。その後私は学校に行っていない。級友達の話は解らない。ライラック他、花いっぱいハルピン、祖父の家の庭で初めて「花の夜」という作詞作曲をした。お気に入りの庭で、その後悪い兵隊のピストル乱射の侵入事件や一家心中未遂事件、略奪等のこわい事も多かったが、ロシア司令部になる為、追い出される前のほんのひととき、束の間の音楽の交流があった。堂々としたアンドレイという将校が若い三人の兵隊と朗々とロシアの歌をうたい、私たち子どもは母のピアノで、賛美歌や童謡を歌った。良い兵隊と呼んでいた人達。

中二の昭和25年から高卒31年始めまで、父の診療所勤務で春日町多利に住み、春日部の校歌そのままの

「ああ春日部の美まし郷 人勤勉に物豊か 文化は日毎進めども、平和は大古さながらに」激動の戦中戦後で初めての穏やかな五年間だった。二番の様

に「よき師の君に導かれ、互いに励み励ましつ」春日部

中から明徳中三まで担任の和田猛先生。高校では高一、高三担任の荒木逸郎先生。お二人の恩師に恵まれ、ずっと年賀状など文通のお付き合を頂いた。今は亡くなられ、先生と宛名を書く年賀状の無いのがさびしい。春日部小中学校の同窓会にも呼んで下さって心暖まる交流が続き有難い。唯いつも世話役だった土屋郁夫さんが亡くなり、さびしく残念。最後の会からたった一ヶ月後だった。柏高の同窓会にも度々出席させてもらっている。

姉は丹波市市辺に住み、一つ上の義兄と引揚げ前後の苦労を共に経験した元先生同志、特に義兄は朝鮮北部からの引揚げで帰国も遅れ大家族を支え、大変な苦労をしたらしい。さき頃、曾孫ヒヤゴが生まれた。私の所は独り息子の孫娘はまだ七歳。曾孫はのぞむべくもないが息子夫婦が元気で末長く、この子を見守ってほしい。幸い、72年間も戦争なしにきた日本。ハルピンで一度なくしかけた命である。姉はメールで「十歳で終っていたかも知れない命が、娘、孫、曾孫と四代も続いた事を思うと、命の不思議、大切さが痛感され、テロや戦争を憎む気持ちも強まります。恵美ちゃんとは、あの

大変な時代を共に生きた戦友と言っては大袈裟かな？」と言っている。

シベリアで、満洲で、沖縄で、長崎、広島で多勢の人たちが塗炭とたんの苦しみの中、生命を落としたことを時の上に立つ人たちに考えてほしいと心から思う。

（昭和13年東京生まれ。春日町多利に25く31年まで在住。父の診療所勤務で。旧姓河内）



撮影・岡田昌子

元満州国皇帝溥儀の実弟・愛新 覺羅溥傑と丹波の偉人との奇縁

足立敏 晤（茅ヶ崎市）

1 はじめに

姓を「愛新覺羅^{あいしんかくら}」と称し、この聞き慣れない苗字を即座に理解される方は、昭和二十年八月の終戦までに生まれた方に多いと思われる。昭和六十三年に公開された、清朝最後の皇帝の数奇な生涯を描いた映画「ラストエンペラー」と申せば元・満州国皇帝・溥儀^{ふひぎ}のこともであり、今の若い年代層にも記憶が蘇るのではないだろうか。その溥儀の実弟・愛新覺羅溥傑^{あいしんかくらふけい}は、日本の陸軍大学校を卒業した軍人で同人の歩んだ人生、さらにはその娘が描く日中友好への夢が、奇しくも次の2人の丹波の偉人と重なるのである。

2 元・陸軍大将本庄繁かつとめた媒酌人役について

故・本庄陸軍大将は、篠山市の出身で昭和六年八月から約一年間、関東軍司令官の経歴を有する軍人であ

る。その経歴の故であろうか愛新覺羅溥傑と嵯峨侯爵令嬢・嵯峨浩^{さかやまこう}が結婚するにあたり、本庄夫妻が媒酌人をつとめている。勿論、当時のことであるからその結婚は、日本による王道楽土・五族協和の美名のもとに、関東軍が仕組んだ政略結婚であったことは申し上げるまでもない。結婚式は昭和十二年四月三日、旧・軍人会館（現在の九段会館であるが、東日本大震災被災により閉鎖）で本庄夫妻媒酌のもとパレードも含め盛大に執り行われた。浩は終戦直後から約一年五か月、まさに生死をかけた艱難辛苦の故国・日本への母子逃避行、また溥傑は、十五年五か月に及んだ戦犯管理所での収容を経て、昭和三十五年十二月、撫順戦犯管理所から釈放された。翌昭和三十六年二月に浩が日本から中国へ渡り、再度寄り添うことが出来た。本庄夫妻が媒酌した結婚式が政略結婚であったとはいえ、夫婦の間は人間と人間の結びつきで、互いに信頼し深く愛し合い、昭和六十二年六月二十日、浩が永眠（享年七三歳）するまで仲睦まじく北京で暮らした。溥傑は、文化大革命による荒波を受けながらもこれをくぐり抜け、平成六年二月二十八日死去（享年八六歳）し、妻のも

とへ旅立っている。

浩の生前の歌詞には

ふたぐにの とわのむすびの かすがいに

なりてはてたき わがいのちかな

があり、浩の愛を貫く強い意思と日中友好への誓いが表れている。

溥傑と浩が新婚時代に、六か月間過ごした建物が、当時のまま千葉市地域有形文化財（建造物）に登録され、千葉市稲毛区に「愛新覚羅溥傑氏の仮寓」として、一般公開されている。



上：1937年4月3日、婚礼衣装に身を包んだ溥傑と浩。濱口部の正面玄関前で

下：結婚式は軍人会館で行われた。前列右端に浩の祖父の嵯峨公勝侯爵と南加、前列左端に潤朗（婉容の弟）、一人おいて媒酌人の本庄繁、中列中央に浩の両親の嵯峨実勝と尚子、右に弟の公元、伯父の濱口吉右衛門、後列左に浩の妹たち

なお、溥傑夫妻には二人の子女があり、長女は、愛新覚羅慧生^{えいせい}、次女は愛新覚羅媯生^{こせい}と称し、慧生は昭和三十三年十二月学習院大学二年生当時、世間の耳目を集めた「天城山心中事件」で命を絶っている。媯生は日本国籍を選び日本人男性と結婚し、今も西宮市に住み健在である。

（筆者注・本庄繁Ⅱ極東国際軍事裁判でGHQから戦争犯罪容疑者として指定された翌日、昭和二十年十一月二十日、自決した（享年七〇歳））。

3 武庫川女子大学創立者・公江喜市郎と「日中友好の庭」について

故・公江喜市郎は、丹波市青垣町栗住野の生まれで、昭和時代の偉大な教育者の一人と申せよう。昭和十四年に武庫川高等女学校を創立し、戦後になって、中学・高校・大学を擁する女子総合学園の学校法人・武庫川女子大学に発展させた校祖である。

福永媯生夫妻（結婚により福永姓となる）は、五人の子宝に恵まれ、そのうち末娘が武庫川女子大学附属中・高・大学に籍を置いたことが縁となり、媯生は永

遠の日中友好を願い、自宅の庭を「日中友好の庭」として平成二十年春、武庫川女子大学へ寄付を申し出た。以前から中国との交流が深い武庫川女子大学はこれを快諾し、附属中学・高校の敷地内に黒松をはじめとする樹木、鞍馬石などの庭石が婿生の念願どおり「日中友好の庭」として移築保存され、一般公開もされている。（筆者注：公江喜市郎＝勲二等旭日重光章受章（昭和四十八年）、昭和五十六年九月六日死去、享年八四歳）

また、婿生は「愛新覚羅家の資料」が将来分散してしまうことがないようにと願って、一家の貴重な写真、原稿、書、書簡、書籍などを平成二十五年秋、関西学院大学博物館に寄贈し、一般公開されている。



武庫川学院に「日中友好の庭」として再現された福永家の庭

4 おわりに

以上、述べたことは、故・本庄繁陸軍大将と故・公江喜市郎武庫川女子大学理事長・院長の死没後に現れた事象であるが、その根底に流れるのは一衣帯水の地・中国との友好促進である。両国の間でどのような困難な問題があろうとも未来永劫、両国は隣国同士であり善隣友好に徹し良好な関係が深まることを希求してやまない気持を表わしている。私の思いも願わくは、「日中友好の庭」と「関西学院大学博物館」へ足を運び、その意義ある想いに触れたいと願っている。（文中、敬称略）

参考文献

満州怪物伝 西原和海ほか4名による執筆 洋泉社による編集
 流転の子最後の皇女・愛新覚羅婿生 本岡典子著 中央公論新社刊

（昭和十七年生、青垣町出身／元国家公務員／平成二十五年春の叙勲・瑞宝小綬章受章）



近況エッセイ

鬼瓦巡り

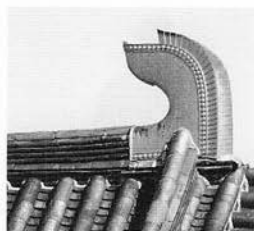
岡 吉明 (朝霞市)

数年前、テレビの特集で見た唐招提寺平成大修理事業で完成した鴟尾しびを見たく、訪ねる途中の道筋のお寺で割と背の低い山門の屋根に珍しい鬼瓦が目にとまり、その鬼瓦に何となく興味を抱き、その後京都の他行く先々で注意深く見ているうちに色々な鬼面に出会い、これは面白い！ 集めてみようと思ったのが始まりです。全国はとでも大変なので取り敢えず東京から始めてみよう……。

そもそも鬼瓦とは、大棟おおむねや降り棟くだの端に飾り雨仕舞いの役割を兼ねた装飾瓦で、一般的に鬼瓦といえは、鬼面の有無にかかわらず棟瓦の端部に付けられた役瓦のことで鬼の顔を彫刻したことから、シンブルな造形の蓮の華をあらわしたものの、また、家紋や福の神がいたものなどがあり鬼面がなくても鬼瓦というように

す。

ルーツはバルミラで入口の上にメドゥーサを厄除けとして設置していた文化がシルクロード経由で中国に伝来し、日本では奈良時代に唐文化を積極的に取り入れた。頃急速に普及し寺院は勿論、一般家屋など比較的古い和式建築に多く見られますが、平成期以降に建てられた建築物には見られることが少なくなっています。鬼瓦を作る職人は鬼板師や鬼師と呼ばれます。



又寺院・仏殿などによく用いられる鴟尾もあり、沓

形がたとも呼ばれ、後漢以降、中国では大棟の両端を強く反り上げる建築様式が見られますが、これが中国などの大陸で変化して三世紀から五世紀頃に鴟尾となったと考えられています。飛鳥時代に日本へ伝えられたと考えられており、火除けのまじないとして魚を模して作られたともいわれ、時代が下るに従ってしやち鯨にも変化したようです。

東京の有名寺院を訪ね歩いていこううちに、いよいよ

色々な形状に魅せられ、宗派によって変わるのかとも考え、写真を撮るのに合わせ宗派も記録してみました。東京の地図より寺院を探し、そこをマージング、最寄りの駅からのルートを決め、車より徒歩の方が訪ねやすいのと、折角だから体力維持の為にということ、一日に多い地区では二十カ寺、少ない地区では数カ寺を訪ね歩いた。台東区の谷中のように隣り合わせのお寺の多い地区は瓦を撮って、帰ってから整理するとその瓦がどの寺だったかが分からなくなり、改めて撮影し直しに行ったりする羽目に。その後は、まずお寺さんの門札を撮影してから瓦の撮影をするようにしました。又殆どのお寺は山門を入れて正面に本堂があり、大棟の左右の端部についている鬼瓦は本堂の下から見えないものも多く、隣接の墓地があればそこから、一旦道路に出て撮るのも多くありました、当然距離も遠くより超望遠のカメラが必要になります。

長谷川平蔵、服部半蔵やお岩さんの墓など、境内に入ると他に色々歴史上の興味深いお墓もあり鬼瓦でなくとも十分に散歩として楽しいものがあります。

大小合わせ四力寺程訪ね歩いた中で駅名になっているお寺とか、江戸五色不動からきている駅名とか、散歩するのも興味深い所を紹介したいと思います。

池上本門寺

日蓮宗大本山 東急池上線 池上駅



日蓮宗大本山の一つ、日蓮入滅の地。慶長年間、徳川家康から寺領をうけるなど、徳川家や諸大名の信仰をあつめました。全国に旧末寺を持つ大寺院で境内には、加藤清正の供養塔や徳川家墓所、幸田露伴や力道山の墓などがあり、小堀遠州の築園と伝えられている松涛園は、西郷隆盛と勝海舟が見した場所といわれ、都の指定旧跡となっています。国の重要文化財の五重塔は、慶長十二年（一六〇七）二代將軍秀忠が、乳母正心院の願いで建立したもので、関東では最古のものです。

（大田区教育委員会掲示より）

目黒不動尊 泰叡山龍泉寺 天台宗 東急目黒線 不動前駅



大同三年（八〇八）に慈覺大師が開創したといわれ、不動明王を本尊とし、通称「目黒不動尊」と呼び親しまれています。江戸時代には三代將軍徳川家光の帰依により堂塔伽藍の造営が行われ、それ以後幕府の厚い保護を受けました。また、江戸五色不動（目黒・目白・目赤・目黄・目青）の一つとして広く人々の信仰を集め、江戸近郊における有名な行楽地になり、門前町とともに大いに賑わいました。江戸時代後期には富くじが行われるようになり、湯島天神と谷中感応寺と並んで「江戸の三富」と称されました。境内の古い建物は、戦災でその大半が焼失しましたが、「前不動堂」（都指定文化財）と「勢至堂」（区指定文化財）は災厄を免れ、江戸時代の仏堂建築の貴重な姿を今日に伝えています。その昔、境内には「銅造役の行者倚像」、「銅造大日如来坐像」（ともに区指定文化財）があり、仁王門左手の池近くには「山手七福神」の一つの恵比寿神が祀られています。

裏山一帯は、縄文時代から弥生時代までの遺跡が確認され、青木昆陽の墓（国指定史跡）があります。

（目黒区教育委員会）

九品仏浄真寺

浄土宗 東急大井町線 九品仏駅



延宝六年（一六七八）、珂碩上人が開いた寺で知恩院の末寺です。寺の結構がコの字型になっており、総門と本堂が反対を向いて並んでいるのは珍しい。

本堂には上人が彫り上げた釈迦牟尼仏を中心に善導大師、法然上人の像が安置してあり堂の隅には、ぴんずる尊者像があります。本堂は総櫓造りで、昭和四二年修築し、かや葺屋根を銅葺にかえました。

本堂前にある三つの堂には、それぞれ三体の丈六の阿弥陀如来九体があり、右から中品、上品、下品の位があるので九品仏といわれ本堂の此岸に対して彼岸をあらわしています。山門は紫雲楼といい、楼上には二五菩薩の像があります。鐘は、宝永五年（一七九三）

寄進で、堂屋も櫓造りで欄間には十二支がはられ、北に子、南に午が彫られています。寺宝には国宝級のものも多く、飛び茶釜は有名です。境内の周囲の土塁は、旧奥沢城の城塁といわれています。

（せたがや社寺と史跡より）

明顕山祐天寺

浄土宗 東急東横線 祐天寺駅



享保三年（一七一八）祐天上人を開山と仰ぎその高弟祐海上人が創建した寺院です。将軍吉宗の浄財喜捨や特別の保護を受けるなど、徳川家と因縁のある寺として栄えてきました。本堂

には、「木造祐天上人坐像」が安置されています。この尊像は、将軍綱吉の息女松姫の寄進で、享保四年大仏師法橋石見の名作です（都指定文化財）。また、祐天寺第二世「祐海上人の木造坐像」（区指定文化財）等が安置されています。境内には、将軍綱吉息女竹姫寄進の「仁王門」（区指定文化財）および阿弥陀堂や稲荷堂、将軍家宣夫人天英院寄進の梵鐘と鐘楼、地

藏堂など江戸時代の遺構を伝える建造物のほか、江戸消防ゆかりのもの、かさね供養塚などがあります。墓地には、「祐天上人の墓」や柳原愛子（大正天皇生母）の墓等の名墓及び「白子組並びに灘目の海難供養碑」などがあります。

（目黒区教育委員会掲示より）

豪徳寺 曹洞宗 小田急線 豪徳寺駅



世田谷城主吉良政忠が、文明十二年（一四八〇）に亡くなった伯母の菩提のために建立したと伝える弘徳院を前身とします。天正十二年（一五八四）中興開山門奄宗関（高輪泉岳寺の開山）

の時、臨済宗から曹洞宗に改宗。寛永十年（一六三三）彦根藩世田谷領の成立後、井伊家の菩提寺に取り立てられ、藩主直孝の法号により豪徳寺と改称し堂舎を建立寄進し、豪徳寺を井伊家の菩提寺に相応しい寺観に改めました。仏殿とその三世仏像、達磨・大権修理菩薩像、及び石灯籠二基、梵鐘が当時のままに現在に伝えられています。境内には、井伊家代々の墓所が

あり、井伊直弼の墓は都史跡に指定され、ほかに近代三大書家の随一日下部鳴鶴の墓、桜田門殉難八士之碑があり。又同寺の草創を物語る、洞春院（吉良政忠）と弘徳院の宝摩印塔が残されています。（世田谷区教育委員会掲示より）

（豪徳寺と招き猫）

招き猫発祥の地とされ、彦根藩主の井伊直孝が鷹狩の帰り道、猫により門内に招き入れられ、直後の雷雨を避け、和尚の法談を聞くことができたことを大いに喜び、後に井伊家御菩提所としたといわれています。



豪徳寺では「招福猫児（まねぎねこ）」と称し、招猫観音（招福観世音菩薩、招福猫児はその眷属）を祀る「招猫殿」が置かれ、招猫殿の横には願が成就したお礼として数多くの招福猫児が奉納されています。ちなみに、招福猫児は右手を上げており、小判などを持たない素朴な白い招き猫です。

泉岳寺

曹洞宗

触頭

都管浅草・京急

泉岳寺駅



慶長十七年（一六一二）に徳川家康が外桜田に創立した寺院、寛永十八年（一六四一）の寛永の大火によつて焼失。現在の高輪の地に移転してきました。

時の將軍家光が高輪泉岳寺の

復興がままならない様子を見て、毛利・浅野・朽木・丹羽・水谷の五大名に命じ、高輪に移転して泉岳寺は出来上がりしました。浅野家と泉岳寺の付き合いはこの時以来のもので、一般的には赤穂浪士のお墓があることで有名ですが、創建時より七堂伽藍を完備して諸国の僧侶二百名近くが参学する叢林として、また曹洞宗江戸三ヶ寺ならびに三学寮の一つとして名を馳せていました。その家風は引き継がれており、人数は少ないものの、大学で仏教を学びつつ泉岳寺で修行を勤めるといふ若い修行僧が現在もいます。

（泉岳寺案内より）

護国寺

真言宗報国派大本山

有楽町線

護国寺駅



天和元年（一六八一）五代將軍綱吉が、生母桂昌院の願いを入れ創建したのが始まりです。堂宇は天和二年（一六八二）完成。現在の観音堂（本堂）は元禄十一年（一六九七）新営の幕命があり、

約半年あまりの工事日数で完成、元禄時代の建築工芸の粋を集め結実した大観音堂であり、その華麗さ雄大さは都下随一と賞されています。將軍綱吉も、生母桂昌院と共に参詣し、寺領も二二〇〇石に増。明治、大正と火災で堂宇のいくつかを焼失しましたが、観音堂（本堂）は元禄以来のもので、薬師堂、大師堂、仁王門、惣門、鐘楼など、創建当時のものと考えられています。（史跡さんぽ平成一〇年度実施報告書より）

西新井大師総持寺

真言宗豊山派

東武線大師前駅

八二六年弘法大師が創建したと伝えられ、本堂の西側に加持水の井戸があったことから当地周辺が西新井と呼ばれるようになったといひます。慶安元年（一六



四八) 寺領二五石の御朱印状を
拝領、近郷に数多くの末寺・門
徒寺を擁する中本寺格の寺院
だったといえます。

(西新井大師縁起より)

新井山薬王寺 梅照院 真言宗豊山派 通称新井薬師

西武新宿線 新井薬師前



天正年間(一五七三—一五九
三)に創建されたと伝えられま
す。第六世朝曇を中興としてお
り、この頃には「子育薬師」と
して江戸では著名であったとい
います。(新井薬師縁起より)

柴又帝釈天 題経寺

日蓮宗 京成金町線 柴又駅

寛永六年(一六二九)開創、その前から草庵の如き
ものが有りましたが、墓域の内外からは南北朝・室町
時代の題目板碑が多数発掘されています。延宝年間法



華経寺の塔頭正善房日遼が当寺
を兼務して中興開山となり、安
永八年(一七七九)九世日敬の時、
本堂改築に際して、梁の上から
日蓮聖人自刻と伝えられる帝釈
天像の板木(板本尊)を発見し
て本堂に安置しました。以来発見の日に因んで庚申の
日をもって縁日とし、「柴又の帝釈天」として、江戸
や近郷からの参詣者多く、今日に及んでいます。総門
には持国・増長二天の古像を安置し、板本尊を安置し
た本堂の法華経説相図浮彫は、客殿の南天の床柱とと
もに著名です。(葛飾区教育委員会 葛飾区寺院調査
報告より)

宿鳳山 高円寺

曹洞宗 中央線 高円寺駅

弘治元年(一五五五)開山された寺です。本尊は観
音菩薩像で、室町期の作と伝えられる阿弥陀如来坐像
も安置されています。かつてこの地は、周辺に桃の木
が多くあったことから桃園と称され、本尊は桃園観音、
寺は桃園の名で呼ばれていました。当寺が広くその名



を知られるようになったのは三代將軍徳川家光の知遇を得たことによります。現本堂裏の高台が「御殿跡」と呼ばれるのは、家光が遊獵のおり当寺に立ち寄り休息した茶室跡に由来するといわれ、付近には「御殿前」の名称が残りました。境内にある茶園の名残も家光の寄進と伝えられます。また、それまで小沢村と呼ばれた村名を寺名をとって高円寺村と改めさせたのも家光といわれています。寛保二年（一七四二）、弘化四年（一八四七）、明治三十三年、昭和二十年と四度も罹災し、堂舎と共に古記録類の多くを焼失しました。現在の本堂は昭和二十八年に建立したものです。

（杉並区教育委員会揭示より）

高幡山明王院金剛寺 真言宗智山派別格本山

京急本線 高幡不動

古来日本一と伝えられる木彫の丈六不動三尊像を安置する寺で、高幡不動尊と呼ばれて親しまれています。

す。古文書等に大宝以前の草創、行基菩薩の開基と記されていますが、平安時代の初期に慈覚大師（円仁）が清和天皇の勅願によって当地を東関鎮護の霊場と定め、山中に不動堂を建立したのに始まります。後、建武二年の大風によって山中の堂宇が倒壊し、時の住僧儀海上人が麓に移建したのが現在の不動堂で、室町時代再建の仁王門も関東有数の古建築です。鎌倉時代以降の高幡不動尊は十院不動堂とも呼ばれ、真言宗武蔵方の名だたる談義所（学問所）でした。



江戸時代安永八年の大火で大日堂を始め多くの伽藍と重宝を焼失しましたが、尚約二万点の古文化財を蔵しています。新撰組の副長、土方歳三の菩提寺でもあります。境内は三万坪余り、史蹟・文学碑も多く桜、あじさい、もみじの名所で、山内に八十八カ所の弘法大師像がまつられ巡拝できます。

（境内揭示より）

三縁山広度院増上寺浄土宗大本山

浅草線・大江戸線 大門駅 三田線 御成門駅



浄土宗七大本山のひとつ、江戸時

代には寛永寺と共に徳川将軍家の菩提所となり、関東十八檀林の筆頭として隆盛しました。駅名になっている大門は、増上寺の総門・表門にあたり、地名の由来になっている門です。又、御成門は増上寺の裏門でしたが、将軍が参詣する際にこの裏門がもっぱら用いられたので、御成門と呼ばれるようになりました。

(追記)

吉祥寺駅 中央線 この駅にちなんだ 吉祥寺は駒込



にあり、諏訪山吉祥寺といえます。明暦の大火の折、江戸本郷元町(現・水道橋駅付近)吉祥寺の門前町一帯を幕府の命で武蔵野のこの地に疎開させ、住民

が土地の名前を愛着のある吉祥寺とし現在に至っています。その折吉祥寺は焼け残り元の場所にありました

がその後の火災でお寺は駒込の現在地に移転しています。(文京区教育委員会掲示より)

品川駅 東海道線



にも海照山品川寺という寺院がありますが、これは「ほんせんじ」と呼びます。歴史は古く、品川では最も古い寺院で真言宗別格本山です。寺伝によると、弘法大師空海を開山とし、大同年間(八〇六一八一〇年)に創建。長祿元年

(一四五七年)、太田道灌により伽藍が建立され、寺号を大円寺と称しました。その後戦乱により荒廃するも、承応元年(一六五二年)に弘尊上人により再興され、現在の寺号となっています。スイス・ジュネーヴ市と深い縁を持つ梵鐘を始め、江戸六地藏の第一番にあたる地藏菩薩像や東海七福神の毘沙門天などがあります。

江戸五色不動

「江戸五色不動」は寛永年間の中頃に徳川三代将軍家光が天海の具申(江戸を巨大都市に変えるため、江戸



の町を風水的に加工）
 によって、江戸の鎮護
 と天下泰平を祈願して

江戸城の周りに五ヶ所の「不動尊」を選抜したものだと言われてい
 ます。すなわち、目白不
 動（豊島区金乗院）自
 黒不動（目黒区瀧泉
 寺）目赤不動（文京区

南谷寺）・目青不動（世田谷区教学院）・目黄不動（江
 戸川区最勝寺）の五つです。なお、目黄不動は台東区
 永久寺という説もあります。
 「五色不動」の由来にはほかに「徳川吉宗が造った」、
 「江戸時代ではなく明治の世になってから初めて登場
 した」など多くの説があり、実際のところは不明です。
 しかし、これらの不動尊を巡ることで、不動尊のいわ
 れに思いを馳せ、江戸、東京の街を見つめ直すことも
 また楽しいのではないのでしょうか。

（昭和18年生、柏原町南多田出身）

転勤地の思い出

芦 田 美代子（川越市）



転勤族の夫と結ばれて五
 十年。転居は夫が八回、私
 が六回、夫々の土地で楽し
 い思い出が色々あります。

新婚時代は、盛岡市。関
 西から行き成り三月初旬の
 岩手山麓での暮らしの寒い
 事。夫が出勤している昼間
 は私一人になり「石油ス

トープをつける暖かいからね」と言われていたけれ
 ど、今迄ストープをつけた暮らしの経験はなく、色々
 重ね着をして届いた荷物の片付けをしていました。牧
 草畑はまだ雪が積もっていたので早速スポーツ店でス
 キー板と靴を買ってきて一人で直滑降を楽しんでいま
 した。夏は家庭菜園の野菜を収穫し、ご近所さんとギ

プアンドテイク。お肉は週一回注文した品が売店に届き、お魚、果物はおじさんが三輪車で売りに来てリングは石炭箱で買っていました。

盛岡暮らしは二年で、京都伏見桃山御陵に転居。大阪万博中で両親や親族が楽しんで泊まりに来ました。神戸の伯母は旅好きで、一人で来て私と伏見稲荷、嵯峨野、宇治平等院、市内の神社、仏閣等々、色々散策しました。転勤二年目にもなると夫も気持ちに余裕ができ、四季折々の京都を楽しむ事が出来ました。

京都暮らしは二年で東京転勤になり、官舎は川崎市五年目にやつと子宝に恵まれ、翌年元旦に長女を、七年目のお盆に長男を出産し子育ての明け暮れでした。ママ友に木目込み人形サークルに誘われ、その先生が優れた技量のある方で、私は教授免許をいただき、手の込んだ作品を沢山創りました。

川崎暮らしは五年で佐久市に転勤。娘は年長、息子は二才。広い一軒家で「お家の中でいくら走ってもドンドンしてもいいよ」と言うとお喜び。キャツキャツと大騒ぎ。娘は慣れた水洗トイレからポツチャントイレに馴れる迄可哀想でした。牧場では種畜の山羊を育

ていたので希望者は山羊乳を購入出来、夫が毎日一升瓶で昼休みに持って帰り、沸かして子供達は毎食ガブガブ水替わり。限られた時間に昼食を間に合わせるのは大変な事。当時流行の走りだった電子レンジを購入しすごく助かりました。牧場暮らしは車がないと不便で、雨の幼稚園送迎、子供が病気の時の医者通い、スーパーでの買物等に必要で軽の中古車を購入。私は娘の時に母の反対を押し切って得たタンス(?)免許が役立つ時が来たものの、単独運転経験はゼロ。牧草畑の農道で初乗り練習をし、やつと車道を走れるようになり、運転先を限定して友達やお客様の送迎は小海線の北中込の駅迄のみ。旅に出る時も駅に駐車、列車を利用。小学生になるとお田植え休み、稲刈り休みがあり、子供と旅先を歩いていると平日なので「アラ？学校は？」と聞かれ、「〇〇休みです」と話すと大ビックリ。三才になった息子は近所に子供がいないので、朝、夫が出勤前に幼稚園迄一緒に歩いて送り、帰りは園バスの最終便の出発前に私が自転車を迎えに行き、目一杯幼稚園で遊ばせていただき親も子も幸せでした。盛岡ではダルマ型薪ストーブを購入し重宝した

ので、佐久でも購入。薪は近くの製材所の木屑を四トトラック一台分？円で運んで頂き重宝しました。夏は畑仕事を家族で楽しみ、ドロンコで家の中には上がりず庭先でおにぎり昼食。夕方になると落葉松の小枝を焚き付けに桶作りのお風呂を沸かし、入浴は賑やかな事。佐久は浅間下ろしで冷え込みが厳しくも雪は降らず。小一、二年はプールに水を張った手製スケートリンクで、三年以上は田に水を張ったスケートリンクで、最後の仕上げは軽井沢のスケートリンクへ全校生でスケート遠足。私も市主催のスケート教室に初参加。ところが池に水を張ったスケートリンクでは手摺磨きセンターの関西人の私は歩く事も出来なくて、買ったスケート靴は友人が活用。

私達は佐久の牧場が縁で結ばれ、娘は大学卒業後佐久の中学に就職。そこで転勤族の婿殿と結ばれ、息子は幼児体験が気に入ったのか親の話は聞く耳持たず北海道一校のみ大学受験。変化に富んだ思い出多い学生生活を楽しんだようです。佐久は家族の人生の節目節目にいい影響と思い出を与えてくれました。

佐久暮らしは三年半で東京転勤になり、官舎は都内

板橋で七年、終の住処を川越市に見つけ二十数年になり、JR、東武東上線、西武新宿線、各々駅迄歩ける距離で都心迄三十分、奥多摩、奥武蔵、秩父にも近く、住み心地も満点でお気に入りです。気心の合う山友が出来、六十才で槍ヶ岳登頂。一座づつ増え、百名山七十八座登頂を最後に今は四季折々体力相応の山歩きを楽しんでいます。

(昭和十六年、柏原町出身)

テニス旅行のこと

三 木 亮 (多摩市)



17年間続いている横浜の大学時代の軟式庭球部卒業生の、年に一度の合宿に私が参加するようになり7年が経ちました。この会の中心は5、7年先輩のグループです。10年間続いている催しに7

年前に参加したのがきっかけです。年一回の一泊二日の観光を兼ねたテニス旅行に最初は軽い気持ちで参加したのですが、当初知らない先輩が過半数居て、大いに戸惑いました。しかし、回を重ねるごとに病み付きになり、毎年参加するようになりました。柏原中学入

学から始めた軟式テニスは高校、大学と下手の横好きで10年間続けましたが、その後はサラリーマン時代にたまにラケットをにぎる程度で、この会に参加するまでの30年はほとんどテニスをする機会もなく、これを機会に、今では体を動かさずスポーツとして唯一夢中になれる時間を楽しんでいます。私が最初に参加したのが箱根、その後千葉、伊豆。江ノ島。小田原と回を重ね、今では最年長の先輩は八十歳に、最年少の私も七十一歳となりました。集まれば皆、学生時代にタイムスリップし懸命にボールを追いかけて、翌日筋肉痛に悩まされるのも忘れてボレーだ！スマッシュだ！と張り切ってしまう。毎回集まるのは二〇名前後ですが、遠くは岡山、大阪からの参加もいて年に一度の集まりを楽しみにテニスコートを駆け巡っています。現役時代のスター選手、補欠選手、今では関係なく皆

爺さん・ばあさんプレーヤーとして和氣藹々、おおいにテニスを楽しみます。

テニスの後は恒例の親睦会。学生時代のように酒量はイキませんが、時を忘れて昔話に花が咲きます。皆同じ大学の同じテニスクラブに在籍しましたが、7、8年の幅があり、同じ時を全員が過ごしたわけではありません。しかし昭和三十年中盤〜四十年代序盤を大で過ごし、その後、世に出て高度成長期〜バブル崩壊までのイケイケ時代をまっしぐらに突っ走ってきたある意味で「ノリの良い世代」が、年一回の集まりに人生の余韻を楽ししむもまたよし。宴会の後にはカラオケを楽しむグループ、囲碁を楽しむグループ、二次会に繰り出すグループとそれぞれに夜の更けるのを惜しむように楽しいひと時を過ごします。遊びつかれた翌朝も元気な年寄り達はその大半が宿泊地近くの観光地を巡り、昼食を楽しみ解散。また翌年の再会を約しそれぞれの自宅に向かいます。この集まりも第一回から数え十七回、毎年春5〜6月開催ですが、今年は一いつ上の先輩幹事が体調を崩され秋に延期になっています。何分高齢七十代の集まり、やがては八十代へと更なる

高齢化を余儀なくされる集まりなのでいつまで続くかわかりませんが、最後は最年少の小生が幹事を引き受けることになりそうです。これもまた楽しからずや。

(柏原町出身 旧姓原田)

丹波市青垣町 大名草から スター誕生！

足立正美(浦安市)



二葉ゆゆへの応援歌です。今年の正月宝塚音楽学校の制服姿の可愛い少女から年賀状が届きました。足立ゆゆとあり、私の出身地

に多い足立姓なのでとても近親感を持ちました。その後、初舞台の便りがあり活躍の様子。芸名が二葉ゆゆとなりややがっかり。住所はTEGUSUSUSU 宝塚市栄町一―一―五 宝塚歌劇団 花組 二葉ゆゆ 何か歌劇団の情報等お持ちの方、アドバイスが出来る方、便



りをして上げて下さい。ちなみに今年の入学倍率は二十六倍との新聞報道がありました。すごいですね。私の出身地ではひかえ目な人、恥ずかしが



り屋が多く、芸能人等居ませんでした。時代は変わって居ます。私はテレビ界で仕事をしていて関係で各界の名士、芸能人等、一緒に仕事をしたりして多少のかかわり合いがあるのですが、スターとして長く活躍している人達は、個性、才能を持ち合せているのに加え、凡人の何倍もの努力、更に才能を研く等、それを感じる風格、品格、オーラを感じました。三〇四十年前、機会がありフランク・堺さん、ハナ肇さんの家に招かれた事があり都心の特等地にプールあり、スタジオあり、

富士山の描かれた風呂あり、成功すればこんな家が建てられるのだ、と驚いた事がありました。ゆゆさんにも早くこんな事に気が付き、自分なりの成長を願って居ます。話題の少ない丹波のためにも活躍される事を、成長を祈って居ます。私の応援歌です。

(青垣町出身／82歳・元NHK職員)

高齢者と目の病気

足立和孝(加須市)

1999年8月に埼玉県加須市^{かぞし}で「あだち眼科」を開業して約18年になりました。

加須市は埼玉県の北東部に位置

し利根川を境に群馬県・茨城県・

栃木県に隣接し、こいのぼりの生

産数日本一であり、加須うどんが名物としてあります。



また私に関わる医療の分野においては隣接する自治体と医師会による、IT技術を活用した複数の医療施設にまたがる診療情報等を共有化し、住民(患者様)を中心とした一貫性のある切れ目のない医療サービス「とねっと」という利根保健医療圏における地域医療再生計画が取り組まれており、全国モデルになりつつあります。

ご縁あつてこの加須の地で延べ約8万人以上の患者様と接して感じることは、全国の地方都市がそうであるようにこの地域も依然として車社会であり、自動車の運転において視力は非常に重要であるという点からも眼科医療のニーズが非常に高まっているということです。今回は「白内障」・「緑内障」・「加齢黄斑変性症」の3つの目の病気、治療の方法等を紹介させていただきます。本文がより多くの方の目の健康にそして認知症予防に少しでもお役に立てれば幸いです。

【白内障】

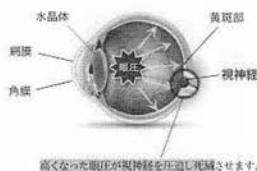
一般には昔「しろこそひ」と言われ、眼の「ひとみ(瞳孔)」の後ろにある透明な水晶体が白く濁って光がうまく通過できなくなり見え難くなる病気です。

白内障となる原因は代表的なものとして①加齢②全身疾患に併発するものとしてアトピー性皮膚炎や糖尿病③放射線④外傷性など様々あります。

白内障の症状は①かすみ②ぼやける③まぶしくなる等見え難さに現れてきます。

白内障の治療方法は白内障が軽度であり視力に影響がない場合は点眼薬で進行を予防しますが、進行した場合には手術を考慮します。白内障手術を受ける時期は、白内障が進み過ぎても合併症が多くなり良くありません。患者さんに合わせたちょうど良い時期がありますので、まずは眼科専門医の診察を受けて白内障の程度を知り、自覚症状とのバランスをみて手術時期を決めるのが良いと思います。

白内障手術では水晶体と呼ばれる眼の中のレンズを人工のものに置き換えるのですが、近年は従来の「単焦点眼内レンズ」以外に「多焦点眼内レンズ」という遠近両用レンズも登場しています。手術が決定した際はご自身の状態や手術後の見え方について担当医とよく相談するのが良いと思います。



【緑内障】

眼圧（がんあつ）が高くなると視神経が圧迫され、視神経障害をおこし、視野（見える範囲）が狭くなる病気です。現在わが国では失明原因の第一位です。緑内障には多くの病型があり、特に正常眼圧緑内障Ⅱ眼圧が正常のタイプが日本人に多いこともわかってきました。緑内障により障害された視神経は治療を行っても元には戻らず、失われた視野も回復しませんので、早期発見・早期治療を行うことが重要となります。

緑内障の診断には、眼圧だけではなく視神経の数や形、感度、視野欠損の有無などを検査し緑内障であるかどうか、またその傾向があるかどうか分かれます。緑内障の治療には主に眼圧を下げる薬を用います。症状を完全になくすることは出来ませんが、進行を遅くして例えば40代後半に発症した人の視神経を点眼によって80代まで維持させることが可能になりました。

視野障害は初期では気付かないことも多く、10年、15年と長い年月をかけて進行していくため定期的な検査が必要でです。

近年の緑内障の診断と治療の進歩は目覚しく、以前のような「緑内障Ⅱ失明」という概念は古くなりつつあります。緑内障は、早期発見・早期治療によつては、充分失明しないで済む病気になっているのです。

【加齢黄斑変性症】

加齢黄斑変性とは、モノを見るとときに重要なはずらきをする黄斑という組織が、加齢とともにダメージを受けて変化し、視力の低下、中心視野障害、歪視などを引き起こす病気のことです。黄斑は形や色などを見分ける視細胞が多く集まるところで、モノを見るうえでもっとも重要な働きをしています。特に黄斑の中心窩といわれるくぼみは視力と一番かかわりの深い部分です。

黄斑が変化すると、モノがゆがんで見える、視野の中心が暗くなる・欠ける、視力が低下するなどの症状が出ますので、時折片目を手で隠して片目ずつ見え方を確認してみることが早期発見に繋がります。

加齢黄斑変性症は「萎縮型」・「滲出型」の2種類に分類され、「萎縮型」は加齢とともに黄斑の組織が萎縮し、進行はゆっくりです

「滲出型」は網膜のすぐ下に新しい血管が（新生血管）でき、この新しい血管は非常にもろい為、血液成分が漏れ出てたまる、あるいは出血しやすいという特徴があり、これにより視覚障害を起こします。

加齢黄斑変性症の治療「萎縮型」は経過観察が一般的ですが「滲出型」への移行する場合もありますので、定期的な受診が必要です。一方「滲出型」には抗VEGF注射療法という、眼球内に新生血管の発生を阻害する薬剤を注射する方法等があります。

加齢黄斑変性の予防としては、

①禁煙習慣・喫煙している人はしていない人に比べて加齢黄斑変性になる危険性が高いことが分かっていますので、禁煙が原則です。

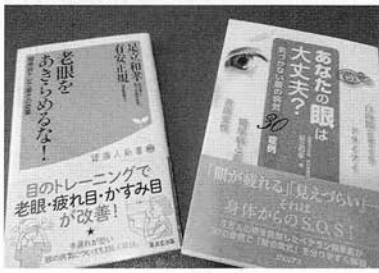
②栄養補助食品・ビタミンC、ビタミンE、βカロチン、亜鉛などを含んだサプリメントを飲むと加齢黄斑変性の発症が少なくなることが分かっています。加齢黄斑変性の発症が少なくなりますが、完全に抑えるこ

とはできません。加齢黄斑変性になっていない人にも勧められますが、一方の目に加齢黄斑変性が発症した人にはサプリメントの内服が勧められます。

③食生活…緑黄色野菜はサプリメントと同様に加齢黄斑変性の発症を抑えると考えられています。肉中心の食事より、魚中心の食事のほうがよいようです。

高齢者に視力障害が加わると認知症の進行が早まることが分かっています。ご紹介した3つの病気を予防することは認知症予防にも大事です。

各病気には専門医がおります。各々が各地域に存在しておりますが、その正確な情報は錯綜したり、状況により変化します。当院ではこの病気はお近くではどの病院がよいかご相談を受けておりますので、目のことでお困りの方は是非当院にご相談ください。



近著の2冊

また小生は昭和天皇の心臓の手術をされた天野篤教授と同門の順天堂大学出身

です。

目以外の全身の病気としては、心臓病、糖尿病、脳腫瘍、リウマチ、パーキンソン病、小児の病気、肺、消化器など世界的にも有名な同級生が居り無料で相談可能ですので下記にご連絡下さい。

(1958年生れ 氷上町生まれ)

あだち眼科 TEL: 0480-65-5988 (眼科代表)

時間12:00～16:00 休診日: 日曜・祝日

担当: 萩原が折り返しご連絡いたします。



撮影・岡吉明

私の職場

ジュンアソシエイツ代表
芦田 純子

「今」を
精いっぱい
生きる
ことが
何よりも
大事



現在、私は人材育成のコンサルタ
ントおよび研修講師という仕事をし
ております。また、PHP研究所の
ゼミナール講師・日本ベビーコーチ
ング協会の理事も務めております。
ビジネスマナー、コミュニケーション、
コーチング、メンタルヘルス、
チームビルディングなどの研修を通
して、組織の中で一人おひとり
輝きながら、互いに貢献し合い強い
組織になっていくためのしかけ作り
をサポートしています。

仕事を始めて今年で18年になり
ますが、私にとって研修講師は、最
初はとてもハードルが高い仕事でし
た。

現在は横浜在住ですが生まれは青
垣町。柏原高等学校を卒業後、すぐ
に大阪の会社に就職しました。実は
私の学生時代の夢はアナウンサー。
もちろん、そのために役立つ大学や
専門学校へ進学をしたいという思い
は猛烈にありましたが、経済的な理

由で大学進学を諦めざるを得ない状
況でした。

クラスの中で就職するのは私一人
という状況でしたのでモチベーショ
ンもかなりダウンした状態で働き始
めました。

でも、「人間万事塞翁が馬」とい
うことわざがありますが、本当にそ
の通りだと思えます。会社では販促
セクションに配属され、受付でのお
客様対応、エレベーターなどのご
案内、社内アナウンスなどの業務で、
先輩からの指導はかなり厳しかった
ように記憶しています。応対時の表
情や丁寧な所作、言葉遣いや話し方
を徹底して教えていただきました。
その甲斐があり、お客様から「丁寧
な応対で感じがいいね」「笑顔が素
敵ね」とお褒めをいただくこともあ
り、それが後々ビジネスマナーをお
伝えするときの自信につながったの
です。

とはいえ、ビジネスマナーに自信

がありますので研修講師をやりませす！と言ったところで、すぐにお仕事をいただけるわけではありません。独り立ちすると決めたものの何から手をつければいいのか分からない状態でした。そこで、最初にやったことは名刺を作ることでした。社名を考え、いろいろと学んでは来たが自信を持って提供できることは何か……私は本当は何をやりたいのか、それを通じてどんなことを成し得たいのか、これからどんな生き方をしたいのか、など……しつかりと自分を見つめ直す機会になったと思います。



間もなく、大手人材派遣会社でビジネススクールの講師を募集している友人が紹介をしてくれました。独り立ちして初め

てのお仕事で、いきなり年間200近くのコマ数の講座の契約をいただき、本当に恵まれていたと思います。ある程度の収入が確保できたのは本当に心強いです。でも、もし1年後に、この契約が終了すれば収入もゼロになってしまいます。その可能性はありますから、仕事がない時間とにかく学ぼうと思いました。

ビジネスマナーだけではなく他の研修も担当できるようにしないといけないという思いがあり、心理学を始めキャリアや、コーチングなどのコミュニケーションスキルを学び始めました。ひとりで仕事をするといいことは、誰も守ってくれないということ。誰かの依頼がなくなるかもしれないという心配はもちろん、研修講師をやると思い切ったことをしたわりには自分に自信が持てない不安もありました。

しかし、翌年、今度は違う友人から、PHPR研究所のゼミナール講師

に興味があれば紹介するよというお話をいただきました。でも、先方の担当者からマナー講師はたくさん登録者がいますから、どんな経歴ですか？ この大学を出ていますか？ どんな実績がありますか？ それがないとね……と、いう反応だったそうです。やはり……という思いでした。

このころ研修講師は大卒以上の学歴は必須というイメージがありました。私はよほどのことがない限り大手の研修会社とお付き合いすること難しいのだろうと感じていました。しかし、友人はその言葉を受けて、こう言ったそうです。「まずは彼女と会ってください！ 私が責任を持ちますから。」と、……そのまま言ってくれるなんて思ってもみないことでした。

そのお蔭で、プレゼンを見ていただけの機会をもらえました。「あなたには他の人にならない熱いものを感じ



ますね！」
 と言っていた
 いただいた方
 はその当時
 P H P 研究
 所の常務取
 締役でした。
 P H P ゼミ
 ナールの公
 開コースで
 講師を務め
 させていた
 だくように
 なって13年
 目になりま
 す。本当に
 嬉しいご縁
 でした。

過去のことを悔んだり、これから
 どうなるか分からないことに心を悩
 ませたり、心が揺れることが多かつ
 た私ですが、ある時から、とても心
 が落ち着くようになったのです。未
 来は「今」の積み重ねだから、「今」
 を精いっぱい生きるだけ！ という
 気持ちになれたのです。講師として
 も経験を積めたこともありますが、

何より大きかったのは心理学（交流
 分析）とコーチングの学びでした。
 今まで多くの人に助けられてきた
 人生ですから、今度は私が少しでも
 多くの方に勇気を渡す番だと思つて
 います。

ここ数年、多い研修のテーマは「コ
 ミュニケーション」です。なぜ、コ
 ミュニケーションにゆがみが生じて
 しまうのか、人は自分とは違うとい
 うことを認識し、相手を尊重する心
 の足りなさだと思えます。こうある
 べき！ という自分の考えや価値観
 が強いと、自分と違った考え方や価
 値観を認められないのです。また、
 業務に追われて部下を指導できる余
 裕がない、関係性が悪くなることを
 恐れて何も指摘できないという上司
 も多く、組織のあちらこちらでコミ
 ュニケーションの断絶が起こってい
 ます。その結果、多くの人の中に「あ
 きらめ」という最悪の感情が多発し
 ている組織を何社も見てきました。

その打開策として、組織をチームに
 するための関わりを提案しています。
 まずはトップが本気になる事が必要
 です。会社の他の取り組みと連携し
 ながら、複雑になったコミュニケーション
 ションのゆがみを緩和する取り組み
 です。

そこには心理学（交流分析など）
 とコーチングの融合（T A コーチン
 グと私が勝手に名付けています）が、
 効果を加速する役目を果たさせてい
 ると感じています。

これからも組織で働くお一人おひ
 とりがもつときらきら輝けるための
 お手伝いをしていきたいと思えます。
 研修を企画担当することはもちろん
 ですが、さらにダイナミックな組織
 の活性化をもたらすために経営幹部
 の方々へのエグゼクティブコーチン
 グを担当したいと思っています。

（昭和33年生、青垣町出身）



— 丹波は私の原点です —

モンゴル駐劄特命全權大使

高岡正人さん

●インタビューア—

坂上勝朗
安井孝之

(撮影上高子)



《プロフィール》 昭和32年山南町坂尻生まれ。柏原高校、東京大学教養学部（国際関係論）卒業。昭和56年に外務省に入り、ハーバード大学ケネディスクールで修士号取得。ウイーン日本政府代表部、在インド大使館、在英大使館勤務を経て、外務省経済局参事官、財務省国際局審議官を歴任。平成24年に駐イラク大使、平成25年在シドニー総領事、平成28年11月から駐モンゴル大使。

— 昨年11月、モンゴル大使に就任されました。モンゴルと日本は大相撲をはじめ太いパイプがありますね。大使としてどのようにご覧になっていますか。

高岡 日本が好きなモンゴルの方が大変多いのに驚いています。日本での留学経験者が多く、日本語が上手な方によくお会いします。日本政府もモンゴルが1992年に民主化して以来、国として積極的に支援しています。安倍総理も現職として、3回モンゴルを訪問され、モンゴルとの関係を重視しているところです。

— 丹波市とも交流がありますね。

高岡 首都のウランバートルで「丹波市で働いていた」という人に出って、びっくりしました。20年ほど前から氷上町の東小学校などとの間で国際交流事業の取り



モンゴル儀仗隊に見守られながら日本国大使としての信任状の捧呈に向かう高岡さん

わけではありませんね。

高岡 東大には理科一類に入学しました。入学後も一応の成績でしたので物理学科への進学が内定したのですが、実は「物理は難しすぎる」と痛感したのです。1、2年生の教養課程ではよくわかっていた物理も数学も専門課程を前にして、ホンマモンの物理や数学の授業を受け始めました。そのとたんに分らんようになったんです。授業がわからん、という経験は初めてでした。それなのにすらすら解いている同級生がいました。これはいかん、と思いました。

組みがありました。

そのような草の根活動の交流が広がっていることを肌で感じていきます。

——日本の外交を最前線で支えていらっしゃるわけですが、最初から外交官を目指された

——それでどうされたのですか。

高岡 もう一回、自分を見つめなおそうと思い、1年留年しました。本当に自分は何がやりたいのだろうかと自問自答しました。その時、一か月ほどヨーロッパを自転車で回りました。部活は自転車部でした。自転車を飛行機に乗せて運ぶため、着替えをあまり持たずに荷物を減らした貧乏旅行でした。汽車を乗り継ぎ、自転車を漕いで、パリやロンドンなどヨーロッパの主要な都市はほとんど回ったでしょうか。ロンドンに夜中につき、ヴィクトリア駅の構内で寝たことを鮮明に覚えています。まだ英語は十分にしゃべられなかったので、片言の英語とドイツ語で通しました。



イラク大使として、イラクのマリーキ首相（当時）に首相の名前入りの日本サッカーチームのユニフォームをプレゼント

——欧州を回ったことが外交官へとつながったのですか。

高岡 確かに外国への関心は生まれましたが、私は動物が好きだったので、生物を勉強しようかとも



思いました。例えば生きもの地球紀行のような番組をつくる生物ジャーナリストもいいのではないかとかいろいろ考えました。結局、ジャーナリストになろうと思いい、3、4年の専門課程では国際関係論を学ぶことにしたのです。

——いったんはジャーナリスト志望だったのですか。

高岡 教養学部で国際関係論を学び、外交問題に興味を持ちました。学ぶにつれて、ジャーナリストの立場で第3者として外交を論じるよりも、政府の中に入って、政策決定にかかわる方が面白いのではないかと考え、外交官への道を選びました。

——入省以来、半分ほどの期間が海外勤務ですね。

高岡 海外勤務は半分を超えたかもしれないですね。最初は入省2年目のハーバード大学への留学でした。しんどかったです。物理よりはまだ良かったけれども、大変でした。レポートをたくさん書かされましたが、タイプが下手でした。

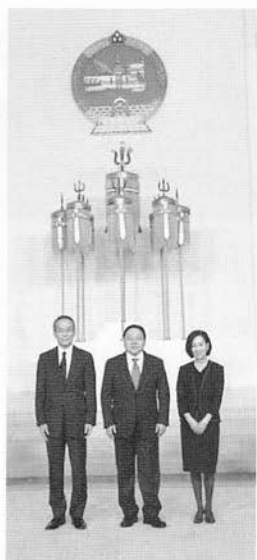
スペルミスが多くて注意もされました。そのためまず手書きをして、自腹でタイピングを頼んで、レポートを書き続けました。留学中は本当によく勉強したと思えます。

——思いつ深い国はどこですか。

高岡 インドでしょうか。私が赴任した2003年から05年の頃はインドとの関係が良好ではありませんでした。1998年の核実験後に日本はインドに対して経済制裁をしましたから関係が冷え込んでいました。またそのころインドは新興国として脚光を浴び始め、BRICS（ブラジル、ロシア、インド、中国）という言葉も生まれました。日本はインドとの関係を見直そうと、小泉純一郎首相が訪印されました。国連の安保理改革やアジア地域の安全保障を考えれば、インドとの関係はとても重要でした。日印関係に転機をもたらすことに仕事のやりがいを感じました。

——インドとの経済連携協定（EPA）も担当されましたね。

高岡 ロンドンから帰国して、外務省経済局参事官としてインドとのEPA交渉のまとめ役になりました。



信任状捧呈後、モンゴルのエルベグドルジ大統領と高岡大使夫妻

インド人はよくしゃべり、頑固で主張も強い。厳しい交渉でしたが、双方の合意点を探り、難しい交渉をまとめられたのは外交官冥利に尽きました。

——交渉を成功させるのに必要なものは何ですか。

高岡 がまんも必要です。それと信頼感。相手国交渉責任者との信頼感は勿論重要ですが、日本国内では、経済交渉は外務省だけでは決められません。いろんな役所がからみます。この点は絶対に守らなければならぬ、でもこの点はそれほどでもない、といった状況を十分理解しているという信頼感を他省庁から得なければなりません。

——国益を背にしているという重圧はありませんか。

高岡 それはあります。国際会議で初めて日本の代表として発言したときは、とてもどきどきしました。ウ

イーンの政府代表部に勤務したころ I A E A（国際原子力機関）などでの会議では日本の代表として発言する立場になっていました。40歳ぐらいです。そのうち会議での発言にも慣れてはきましたが、日本の主張を真剣に聞いてもらい、理解してもらおう努力は欠かせません。一生懸命考えながら話しています。

——イラク大使の頃は防弾チョッキを着て、イラク国内を移動されたようですね。

高岡 イラクでは2003年に奥克彦さんと井ノ上正盛さんという二人の外交官が亡くなりました。その悲劇を繰り返すわけにはいきません。移動するときは防弾車に乗って、前と後ろには護衛の車がつけました。私が赴任した2012年はその前年に米軍が撤退したので、テロリストがうごめき始めたころでした。

——赴任の際はどんな思いでしたか。

高岡 亡くなった奥さんと私は外務省で同期でした。彼の出身校は伊丹高校で兵庫県です。もしもイラクへの辞令が出たら、行かないかん、と思っていました。私に行かせてもらったのはありがたかったし、名誉なことでした。しかも私とイラクとの因縁は1991年、

湾岸戦争のころにさかのぼります。当時外務省の中近東アフリカ局にいました。日本政府は多国籍軍などに90億ドルの支援をしましたが、諸外国では日本外交はお金しか出さないと多くの批判を受けました。しかし当時の日本としてできうる最大の貢献をしようと考え出したもので自分自身もその実施に必死に取り組みました。それだけに、その支援策が否定され、本当に悔しい思いがありました。イラクへの赴任は運命的なものでした。

—— 外交官としてとても貴重な経験でしたね。

高岡 駐イラク大使としての仕事は緊張感にあふれ、外交官としてはすごく面白い経験でした。今もそうですが、イラクは国としての存立自体が問われています。そのような中で、イラクが安定的な国家として発展できるといえるような日本はどのような貢献



ができるのかを考え、私なりに動きました。

—— 丹波への思いは強いですか。
高岡 お陰様で両親が健在で坂尻に二人で住んでいます。丹波

はとても気になりますし、好きです。高校のころまではそこまでの意識はありませんでしたが、丹波人で良かったと思います。休みには子供たちを坂尻によく連れて行きました。丹波で生まれたことは私のまさに原点です。これがなかったら「僕ってだれや」ということになります。都会の人のようにもつとスマートにやっていたら、別の道があつたかもしれないですが、それはやはり私には似合わない、違うやろ、と思っ

インタビューと

安井孝之

高岡さんの口からは随所に丹波弁が出ます。大使になっても飾らない性格は変わらず、ホッとします。高校時代から「超」がつく秀才でしたが、物理で挫折したことが一人の外交官を誕生させました。人生の妙です。

(氷上町出身)

坂上勝朗

「丹波人でよかった。……私のまさに原点……」と仰る高岡さん。痩身・長身の磨き抜かれた外交官でした。でも、親御さん思いで大らかなお人柄が、話の端々に伺えて、とても楽しい二時間を過ごさせてもらいました。

(氷上町出身)

俳壇……………

「投句する事に意義あり」と師から励まされ句作を続けています。NHK大会や俳人協会に入選しました内から、新年・春・夏・秋・冬の好きな句を選びました。新緑から万緑への風美しき好季に、女学校の校歌を唄えることにも感謝しつつ。

久呉 道子(熱海市)

泊雲の直筆掲げ去年今年

蔵三棟三輪素麺の寒晒し

涅槃西風のれんの招く伊香保かな

どの丘も風しろじろと梨の花

曼珠沙華咲きぬ唇を持つごとく

ばら園の芳香纏ふ精気かな

老鶯や私も同じ老の詩

古丹波の壺に活けたる百日紅

爽やかや北京帰りの孫の顔

五十鈴川昔も今も水澄めり

※

終戦の日、中学二年生だった私が、今年五月の「昭和の日」に八十六歳となった。有難いことに昭和びと、まだ健在である。

金子 徹(富士市)

—近況五句—

寒晴や天穹広し富士全し

ビル谷間雪嶺遙けキノスタルジ—

いずこから来し一片ぞ花の昼

師の句碑に詩魂を問わる春霞

春愁の一おもてあり阿修羅像

※

二十五階暮しの友人宅のテラスから地平線はるかに望む花火大会は、わが風物詩。

坂上 勝朗(板橋区)

母の日や思へばなにもせず来たり

青嵐下校のさざめき運び来る

遠花火ほのかに雲を照らしたる

※

齢八十を過ぎて、自らが楽しむ俳句を詠むことが多い。吟行会に参加しても入選を目指すことも

なくなつた。今回は、故里の映像を。

大野 昶(さとし) (俳号・沙年) (丹波市)

をりふしを丸く生きたし春満月

薄ら日に吊橋二つ余花の里

恐竜の幟はためく田植道

寄り添ひて稲扱く音や夜の納屋

紅葉散る庇を借るる仏具商

※

四月中葉に傘寿のクラス会があつて、薄墨桜のある大垣に行つてきました。四十人中十二人が集いました。

藤田 玲子 (人間市)

含みたる新茶なつかし故里の山

目覚むれば白侘助の丹波壺

泰山木小揺るぎもせず在りにける

クラス会傘寿の集い十二人

リングゴ持つ幼児抱く母マリア

(エルミタージュ美術館にて)

※

強風の寒い夜、一人の老女が風に抗うように生

垣にもたれかかつていた。白髪は乱れ、衣服もしどけなく、視線は定まらず……声をかけるべきだったかな、と今も思う。

上田 道代 (目黒区)

大風のパタリと途絶え 蜘蛛落ちる

闇に浮かぶ花ほの白く 風初秋

白髪の風に乱れて 寒月夜

(その老婆どこを目指して)

大つごもりの茶会 香合鞆猿 (申年に列れを)

仏法僧 湿った空気 赤い月



奥入瀬のゆるやかな流れ
撮影・井出恭子

詩 座……………

「物差し」

上 高子 (世田谷区)

「当たり前まえ」と思っていたことが、どうもそうではないようだ。

気づき始めた。一挙にすすむグローバル化という物差しで。

人と同じでなくてもいい。自己主張してもいい。とにかく自分ファースト、と。

半面、日本の美徳がどんどん壊れていく不安がある。

「当たり前まえ」と思っていたことが、どうもそうではないようだ。

気づいてしまった。世界は経済ファーストでお金

が物差し、と。「モノ」に価値を置くことを卑しいとして、ずーつと育ってきたのに。

たてまえでは、まだ多少残っているけど、本音では、「モノ」がもたらす幸せ感を誰も否定しない。

幸せ感是人によって違う、とは思いますが、自分はどうか？

もはや「モノ」でないことは確か。心の「感動」かな。

ではどういふときに感動するか。ぐつと胸を突き上げるような感動は何？

ずっと自分を観察している。私にとつての「物差し」を見つけようとして、ずっと自分を観察している。



撮影・原谷洋美

歌壇……………

一年があつと言う間に過ぎました。リハビリ通
いも二年目となり、新しい仲間もできて毎日を楽し
んでいます。

足立 美都子（春日部市）

何時の間にか無人となりし隣り家の庭を覆い
てやぶからし這う

関東の穀倉地帯見はるかす広域農道ひた走り
たり

ドライブを楽しみながら道の駅へ寄りて地元
の山菜を買う

人住まずなりたる隣家リニューアルされて幟
が風にはためく

おだやかな日差しの庭にもくもくとタイヤ交
換する人を見た

コンビニのポストへ歩く十五分今日のリハビ
リこんな日もある

※

世界のあちこちでテロがあり、北朝鮮ではミサ
イルを打ち上げ、平和から遠退き物騒な世の中に
不安を感じます。

荻野 哲男（狭山市）

人生のたそがれ迫る八十路坂心静かに振りか
えり見る

単調な二人の暮らし今日もまた近くの神社に
足を運びぬ

食べ終り妻は薬を数えつつ手元くるいて転り
て行く

人住まぬ家の庭にも一面に雑草の花生き生き
と咲く

しのび寄る秋の深さにしみじみと命短きもの
達の声

※

こんなことばかりが口をついて出るようでは、
年がしれますね。

坂上 勝朗（板橋区）

父母の^{よわ}齡合せて猶余るわが寿のありがたきか
な

年ごとに席の減りゆくクラス会元気でまたねと強く手を振る

あの人もあいつもそうか聞きたびにわがクラス会の年輪思ふ

※

四月半ば、清瀬に集中雷の夕べがあり、もの凄
い音が響き、どうやら近くに落ちた様でした。独
り「こわい」とすくみながら、孫が二歳の頃、井
の頭の息子の家で雷におそはれた時を思い出して
おりました。

木呂子 恵美子（清瀬市）

「雷はこわい!!」と固まる祖母の身に「守っ
てあげる」と小さき手を巻く

加茂川のしだれ桜を亡き友は術後の身にて我
に見せ給う

蠟梅は香りほのかに咲き初めぬ隣り駅より運
びしものよ

街道ゆけばいにしえよりの桜あり真白き花に
紅葉が映える

（亡き友人の面影浮かぶ桜など花三首）

※
今のところ元気で近くに出かけては、メモ代り
に短歌にし、想い出として残しています。いつま
で出来るか不安ですが……もうしばらくは楽し
たいと思っています。

山本 述子（三浦市）

忘れぬ手摘み手揉みを手伝ひき家族で啜り
し新茶のかほり

正月に妹と会ふそれだけで共に喜び有難かり
き

新緑の寺の庭にて堪能す「六浦」の能に幽玄
の美を

境内の大櫓をも舞台とし狂言「朝比奈」これ
また見事

百株の山紫陽花の可憐なり「伊予の夕立」「酔
湖の緋」

※

旧前山村前山小学校で育った、古希過ぎの女子
四人組で新緑の季節に、奥入瀬の旅をしました。
話題の「星野リゾートホテル」に連泊。まるで修

学旅行の再現。

井出 恭子（川崎市）

ふるさとの初夏を想いて奥入瀬を歩く我らが
丹波路恋し

奥入瀬の流れ見つめる四婆の重ねる人生それ
ぞれなりて

新緑に染まり流れる奥入瀬に負けじと我ら笑
顔弾ける

ゆるやかな流れ阿修羅の渦抜けて今ふたたび
の静けさとなり

新緑の溪流見つめる友の背にエール送りて吾
も励まん



奥入瀬は瀬を速み
撮影・井出恭子

充実した『山ざる』文芸欄の片隅にちよつこし

仲間入りしたくて、ふるさとの思い出を詠んでみ
ました。

田中 一美（八王子市）

ふるさとは遠くにありての日々なれど詩情た
どれば故郷に湧く

畦道にホタルブクロが揺れていた薪木背負る
し母と休めば

篠竹の中の不思議なわが基地は見晴しのよき
堤防となる

校庭に秋桜子の花揺れていたわが手に胡桃渡
したるひと

何が良く何が悪いか悩むたるわがふるさとは
朝霧深く

放課後の雪降り初めし木の根橋叶わぬ思ひ抱
きたる道

身の程も知らず大志のありし日々すぐそこに
山、川、田畑がありて

※

※

猫も外に出でば七人の敵(?)猫にとつて家は安心の場所だと思ふところらも嬉しい。羽生結弦選手の活躍や、「ハサミとクシ」では散髪屋さんと間違われるし……と、家で思い巡らすのも嬉しいことです。

福田 治子(横浜市)

帰るなりゴロリと横になりたるは夫にあらず
猫のことなり

おしゃれな名つけてよかったと思うだろアス
リート達の親達は今

この冬で一番冷える日、部屋の中、物みな冷
たしハサミも手帖も

※

結婚以来同居の姑を見送り、甦りのようにちよ
うど一年後に初孫が生まれました。輪廻転生の不
思議を思い、自分を見直すときだろうかと自問の
この頃です。

原谷 洋美(杉並区)

抱かれて赤子入り来る玄関を去年の花なか柩
出でたり

姑のけはひ消えゆく部屋にあかさんのひと泣
き響き温さ戻り来

夕光はほぐれてゆけりねんころり娘のやさし
き声のトーンに

手の甲にゑくぼが四つまんまるのにぎりこぶ
しを開きて眠る

手の先が触れなば鈴をふらせつつおいでおい
でと呼びゐる手篋

紅蜀葵はなの笑く庭に出づたび寄りて来し十か月
児に外はまぶしも

八重咲きのどくだみの花見つきたりコロんと
甘き金平糖を



撮影・原谷洋美

My Gallery

レイアウト・岡 吉明

大城戸 しず代さん（春日町出身）



定年を迎えた時、ようやく時間のゆとりが持て好きだった刺繍を始めてみました。孫が来たとき、四季の行事を話題に楽しい話しが出来たらなと作成したものです。布の手触りは心が穏やかになりとても幸せな気持ちにしてくれます。

My Gallery

小西 允子さん (山南町出身)



Space—魚(II) S100 (162cm×162cm)

第30回記念日洋展(2016)日洋賞 受賞

絵を始めて30年近くになりますが、相変わらず納得のいく作品が描けず、四苦八苦で制作しております。

この絵は昨年日洋展(於・新国立美術館)で受賞した作品です。魚をテーマにデフォルメし空間を色面分割にて構成した作品です。

現在日洋展の他、銀座、横浜美術協会展(ハマ展)茅ヶ崎美術家協会展etc、又鎌倉市等で種々活動しています。

My Gallery

富田 貞子さん（春日町出身）



カテドラルのベッドカバー 217cm × 165cm



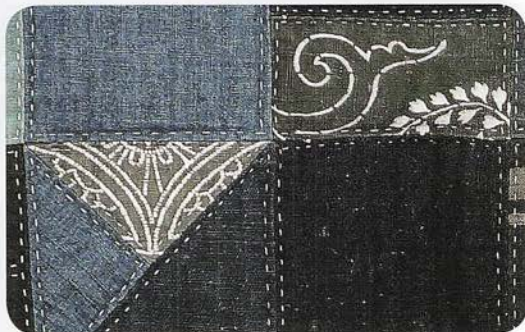
糸や針を持つのが好きでしたが、手芸売り場でパッチワークを知って以来30年余り暇を見て手を動かしています。

写真は母や姉の着物布、丹波古布などを使っています。

私にとってパターンや色を考えるのは難しい作業ですが、出来上がりを予想しながら針を運ぶのは楽しい時間です。

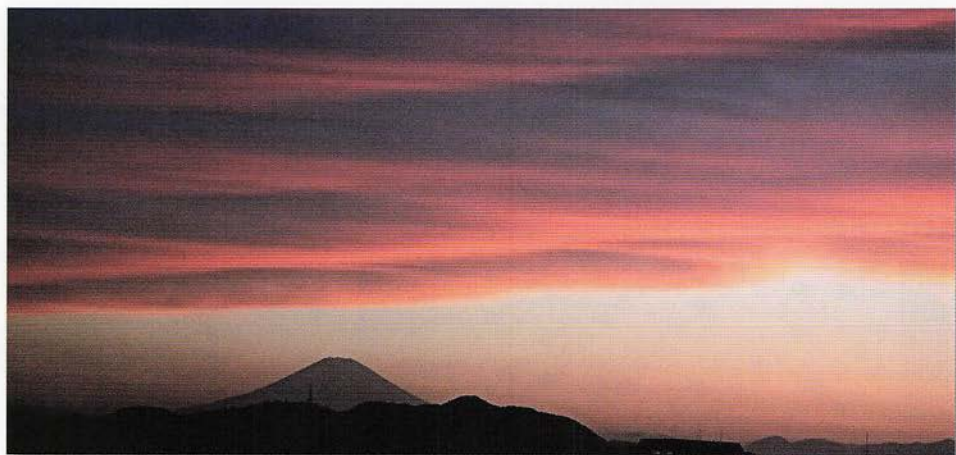


丹波古布のタペストリー
80cm × 75cm



My Gallery

藤原 ひさ子さん (山南町出身)



我が家から見る富士山の夕暮れ (5月末)



バガンのパゴダ群に沈む夕日



インレー湖の漁師



富士山の夕暮れ (4月末)

目まぐるしく変化する太陽と雲の織り成す天体ショー。慌ててカメラを家に取りに走り、慌ててシャッターを切るが、もうそこに在るのは別の空。それでも懲りずにシャッターを切る。例外はバガンの落日。発見、待つ楽しみ。

簡単レシピ 女のレシピ

上田道代



れんこんの変身!

材料
れんこん

卵

塩、砂糖、

片栗粉少々

作り方

おろし金でレンコンをすりおろしたのを材料と混ぜて、フライパンに油を敷いて焼く。

あればチーズをのせてもとろけて美味。

酒のつまみや老人食にもびったり。いわゆる山芋(丹波高級なのではない)を使うと色も卵色になり、食感もよりふんわりする。



人参の甘酢漬け

材料

人参

市販の寿司の酢

作り方

人参を乱切りにして蒸す。

(湯がくより

甘みが増す)

熱いうちに市販の寿司酢をかける。

冷めてから

冷蔵庫に。

何かもう一色

ほしい時にも

便利重宝。



簡単レシピ 男のレシピ

安井孝之



山の芋のとろろ汁

山の芋のとろろ汁は一月二日の昼食のメイン料理だった。丹波の実家で朝から山芋をすり、祖母や母と一緒にだし汁と混ぜながら作ったことを思い出す。山芋は整腸作用があり、滋養強壮の効果がある。暴飲暴食になりがちな年末年始につかれた胃腸をいたわるために食べる生活の知恵だったのだろう。

「三日とろろ」という地域もあるらしい。1964年の東京オリリンピックで銅メダルを取り、その後自殺した円谷幸吉の遺書は「お父様母上様 三日とろろ 美味しうございました」で始まる。円谷のふるさと、福島では一月三日に食べたようである。



殺した円谷幸吉の遺書は「お父様母上様 三日とろろ 美味しうございました」で始まる。円谷のふるさと、福島では一月三日に食べたようである。



作り方

山の芋(約200g)の皮をむき、灰汁を抜く。おろし金ですりおろす。

だし汁は600ccほど。適当に。カツオだしが好きだが、化学調味料で手を抜く。

すり鉢にだし汁を少量ずつ加えながら混ぜる。ゴクツと飲めるほどにするが、これもお好みで。卵を入れてもいいが、私はない方が好きである。



丹波を撮る

写真と文：徳田八郎衛

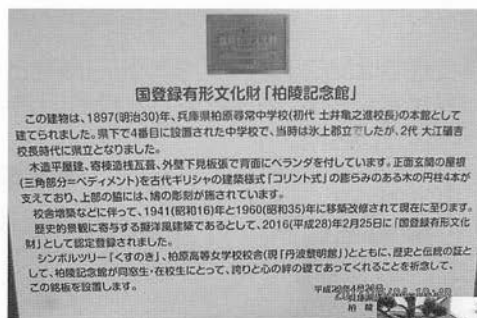
五月晴れの丹波(1)



←間もなく創立120周年記念式典を迎える柏原高校を訪れました。三つの校訓が訪問者を迎えます。

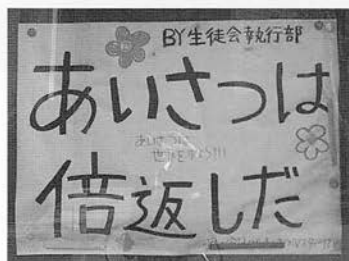


↓→柏原中学校創立時の本部は、国登録有形文化財「柏陵記念館」として今も生徒を見守っています。



↓連休の最中ですが、火の出る練習を続けるのは、吹奏楽部の皆さんでした。

↓4年前の撮影ですが



五月晴れの丹波(2)

→以前は、木の根橋から奥谷川沿いに柏原高校へアクセスできましたが、今は道が封鎖されて近づけません。右手の道を進むと校門前に保健所がありました。今は丹波市国際交流協会と休日診療所が入居しています。



→柏原中学校以来の学校シンボルであるクスノキ。多くの卒業生の献金と樹医の努力で生き返りました。



校庭ではソフトボール部が姫路商業と練習試合に励んでいます。同校も明治44年創立の名門。↓



←同窓会館の展示で一番人気があるのは、昭和36年春の選抜野球出場関連の品々。県下で甲子園出場の実績北限は、今も柏原高校なのです。

丹波を撮る

五月晴れの丹波(3)

→ 柏原住民センターアリーナで柏原高校創立120周年祝賀会が開催され、幕開けを飾った吹奏楽部の皆さんに再会。丹波新聞社の社長さんも来賓席から飛び出し、任務遂行中です。



↑ 石川憲幸同窓会副会長率いる元コーラス部員が「柏中校歌」と「柏原高女校歌」を斉唱しましたが、やや芸術的で繊細。「これではならじ」とパンカラ同窓会員が壇上へ駆け上がり、「柏高校歌」を盛り上げました。大西伸弘校長や谷口進一丹波市長も懸命に歌っています。歌詞は見なくても大丈夫！♪

→ 「柏高応援歌」になると、元応援団長（複数）もはせ参じ、高調感のまま祝宴はフィナーレへ。集いし卒業生は約350名。運営に当たった31回生（昭和54年卒）の皆さん、お世話になりました。



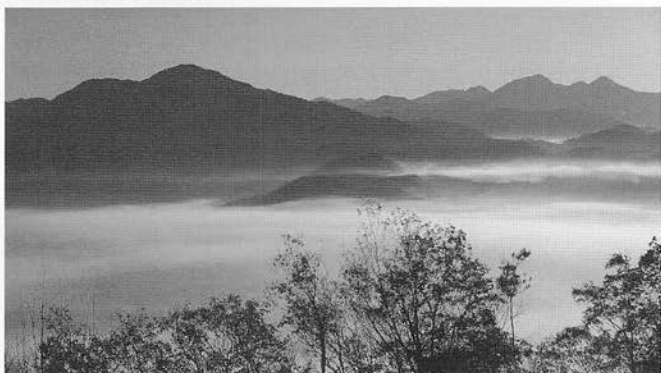
五月晴れの丹波(4) 保月城址 (春日町黒井)

→小学校区単位で町おこしを図るようになり、よく整備された保月城址は登山者で立錐の余地もないほどの人気と聞いて「ホンマカイナ」と駆け上がりました。夕方なので、さほどの人出はありませんでしたが、見事に整備され、二の丸跡も椿山荘か雅叙園の庭園のようです。標高差250mもある山頂なのに。



←山頂から旧船城村、旧生郷村方向を見た眺めです。山頂で出会った柏原町西楽寺住職の滝川秀行さんは、鍛錬のため1日に2回登るとのこと。

→滝川さん撮影の、保月城址から見た素晴らしい雲海の写真を頂きました(2015年12月9日)。

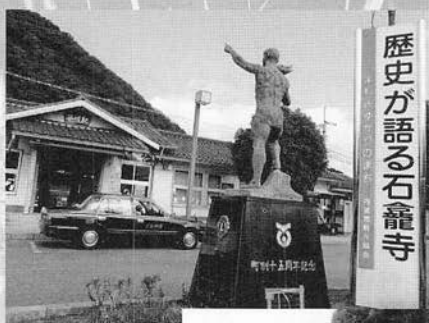


←2000年以来、台風の日も豪雪の日も欠かさず毎日登ってきた滝俊和さんに中腹で会いました。間もなく八十路になるそうです。いつまでもお元気で！雪中登山の雄姿は滝川さんの撮影です。

丹波を撮る

山南町谷川を往く(1)

→谷川駅は、山南町の玄関口。「アレ、町の自慢は丹波竜では？」と尋ねると、「あれは丹波市に差し上げました」という奥ゆかしい返事。そこで駅前の観光案内は従来通りの石籠寺ですが、今は足利尊氏を知らない若者も増えたと古老は嘆く。



→坂尻行のバス路線も1日5往復で健在です。谷川駅発最終便は18:40。柏原―青垣路線に劣らぬサービス。



↑この駅が加古川線への乗換駅であるのも谷川の皆さんの誇りです。但し、以前は待ち合わせのために福知山線が20分以上停車することもあり、「駅前のパチンコ屋で…」という笑い話もありましたが、今は専ら、加古川線の方が「お待ち申し上げる」そうです。



↑玉巻城址と操業停止した駅前の工場です。製造業空洞化の余波は、至るところで見られます。

←一瞬、「アレ？ここは下滝駅前？」と戸惑いました。「上久下少女バレーボールクラブ県大会出場」の応援幕です。旧久下村地区の奥ゆかしさに改めて感激。市内でも屈指の児童数減少地区の一つ、上久下、がんばれ！



山南町谷川を往く(2)

→谷川大橋から見た篠山川上流。

↓これは池谷駐在所ですが、この場所は長野！谷川駅近くの集落は池谷、長野、玉巻、岡本などで、やや離れて谷川という大集落や谷川駐在所があります。昔から11区に分かれ、全体をまとめるのは谷川区長。旧生郷村石生のような大字です。



↑谷川は広い。谷川駅から2キロも歩いたところに市役所の山南支所がありますが、ここも谷川です。他にも住民センター（以前の山南町中央公民館）、山なみホール、チータンの館があります。

↑庁舎から見た常勝寺方面の山々

→山田川にかかる吹屋橋周辺の風景は50年前とさほど変わりません。



丹波がロケ地の映画「恐竜の詩」が撮影スタート

兵庫県丹波市を舞台にした映画「恐竜の詩」の撮影が今年4月から始まった。「兵庫県の美しい原風景を100年後の子どものために残したい」という近兼拓史監督の思いで始まった映画。「下町シリーズ第3弾」となる。山間の小さな町で発見された世界的な恐竜の化石。それを契機に始まった街おこしプロジェクト。そこでひたむきに生きる人達の生き様を、美しい風景とともに描くというストーリー。青垣町にセットも組み上げ、快調に撮影はスタートした。この夏休みには撮影がいつそう本格化する。主演、とみずみほ・澤田敏行。丹波の子どもたちもたくさん出演予定です。完成は2018年3月。ぜひ皆さん、劇場でご覧あれ。美しい丹波の原風景がわんさか映し出されま

女子野球がブームの中、水西西高にも女性選手が

女子の野球チームが誕生している今、丹波・水西西高にも実は女子選手が在籍している。男子に混じってノックを受ける。男子に混じってノックを受けたり、バッティング練習を行ったり。公式戦には規則で出場できないが練習試合には出場している。3人の女子選手はいずれもソフトボール部の出身。だから守備は手慣れたもの。いつか規則が改定になり、公式戦に出させてあげたいものだ。

氷上町石生に県立丹波医療センター建設着工

県立丹波医療センター(仮称)と丹波市地域医療総合支援センター(仮称)の建設起工式が行われた。完成予定は2019年3月。氷上町内にはそんなに大きな病院はない。この病院ができることで丹波の医療環境も大きく改善すると期待したい。

丹波篠山市が誕生するか？

丹波市の隣の篠山市が、市名変更にも動いている。篠山市から「丹波篠山市」に変更したいという。丹波栗の生産者でつくる「丹波ささやま栗振興会」と、栗の剪定士でつくる「篠山市栗剪定士協議会」が、名称変更の要請書を市長と市議会議長に提出したのだ。丹波市の誕生に伴い、「丹波」のイメージが「混乱している状況」にあるとし、「地方の時代にあつて、将来のために『丹波篠山』というブランドを生かすことが大事」と意見した。市名変更は以前から篠山市では問題になっており「丹波篠山」が丹波市の一部であるかのような誤解を与えることを問題視している。「丹波市」と「丹波篠山市」。両方が存在することのほうがよくは紛らわしいと思うのだが…。はたしてどうなる？ ちよつと気になる丹波市の将来。

青垣小学校開校へ

青垣地域の佐治、芦田、神楽、遠阪の4小学校が統合し、丹波市立青垣小学校が開校した。児童数279人。市内で崇広、東に続き3番目の児童規模。それに応じて4小学校は廃校。

黒井城跡完全容解明へ

丹波市黒井に城があつたことは広く知られている。築城は建武年間。赤松貞範が造つたと言われる。天正年間の城主赤井直義の時、明智光秀に攻められ落城した。関ヶ原の戦いの後、川勝秀氏が城主となり、その後廃城になった。黒井城は春日、市島両地域にまたがっている。しかし国史跡に指定されているのは春日地域のみ。今、その黒井城が市島地域と合わせて広域的な完全容解明に挑んでいる。市が今年度設置した「黒井城跡整備委員会」の今後の活動に注目したい。(井徳正吾・横浜市)

丹波から



撮影：徳田八郎衛 大岡橋から下流を見る

はしり

竹内 牧人（丹波市）



まさに「はしり」であったように思う。柏原高校の国際交流は戦後まもなくの昭和二十二（一九四七）年（二十三（一九四八）年にそ

のきっかけがあった。残念ながら、指導者の突然の死によって、その後二十年がブランクとなってしまった。東京オリンピックを経て、戦後も随分と落ち着きを取り戻した昭和四十一年（一九六六年）、アメリカ・ワシントン州の高校と交換留学制度が締結され、第一回留学生として吉田勇司君がセントメリアン高校へ。翌四十二年には藤原（旧姓・橋間）ひさ子さんが第二回留学生としてセントメリアン高校へ、キャサリン・スコット（ヘンダーソン）さんが柏原高校へ、お互いの家にステイする第一号の交換留学となった。佐々木邦弘校長の時代。有田喜一文部大臣（旧中十八

回卒)が来校のうえ創立七十周年の祝辞を述べた頃である。

その後、柏原高校は、これまでアメリカ・ケント市のケントメリディアン高校、オーバンの高校、西オーストラリア州のオーシャンリーフ高校やスワンビュー高校、あるいは韓国の高校やモンゴルの高校などと交流を重ねている。ケントメリディアン高校との交換留学は一時期(二〇〇七〜二〇一三年の七年間)途絶えていたが、復活して現在に至っている。

拙稿のきっかけは、至って私的なことであった。弱った母を看てやることを含めて、いくつかの事情があり、柏陵同窓会の副会長を辞して三年が経った平成二十五年の六月に母が八十九歳で死んだ。すかさず會長にとの誘いがかかり、固辞を続けたが敢え無く落ちて引き受けた。母の遺品整理をしていると、あちこちに父の遺品をも発見することとなった。

父は戦中、中部第四十五部隊に入營して、ビルマ戦線に赴いている。通訳であったようだ。陸軍軍曹で終戦を迎え、翌昭和二十一年七月に帰還。二十二年二月に柏原高等女学校に英語の教員として奉職したが、マ

リアの再発に腸潰瘍を併発して、兵庫県立氷上高等学校から旧中と統合されて兵庫県立柏原高等学校と校名の変更なつてすぐの昭和二十三年十月三日に死去した。その二十六日前の九月八日に私は生まれた。

母も、わずかの間だがスタート直後の柏原高校に勤務し、数年新制中学校で勤めて、あとは退職まで小学校で教員生活を終えた。伯母(父の姉)が嫁がずのまま同居して母親役を務めてくれたお陰で、母は勤めを続けることができた。いずれにせよ、すでに物故の母には苦勞をかけた。



さて、父の残した「PPC」と名付けた一冊のノートを見つけたのは昨年春のことである。綴じ糸も外れ黄ばんだノートの表紙をめくると「昭和二十二年十二月一日 P・P・C (Pen・Pail・C lub) 結成す」とあり、十二月五日からカナダの友達との文通記録(出した生徒や手紙が来た生徒

の記録、新聞記事など）がつづられている。二十三年九月二十六日で終わっているのは、先に述べた理由で仕方がない。以下に、ノートに貼り付けられた新聞記事のいくつかを紹介する。

平和の使徒「大洋をこえて」

くカナダのお友達と文通く

柏原高女のPPC

純真な少女の友情が大洋をこえて世界を一つに結ぶ。縣立柏原高等女學校では遠く海を隔てた異國のお友達と文通し共に手を携えて平和への道を歩もうと同好會PPC（ペンパルクラブ）を組織し同校教授竹内常男氏の恩師関學院長アウトターブリッチ博士の紹介でカナダの女學生と楽しい文通を始めているが、此程その第一回の通信が同校三年生酒井玲子さんや中辻政子さんらに寄せられた。次は酒井玲子さん宛カナダ、オンタリオ州ベバリークリダマン嬢の書信で異國の友の優しさが文面に溢れている。

親愛なる玲子様

私はあなたがカナダからペンのお友達をほしがっていらっしゃると聞いて非常に嬉しく思いました。私は十二才で身長は五フィート三インチあります。私たちはCGITと呼ばれる一つのグループをもっています。それはカナダの宗教的訓練という事を意味しております。私はそのCGITを通じてあなたのお手紙を受取りました。私たちは歌を歌ったり遊戯をしたり又他の國の傳導について學ぶところの禮拜の時間があります。私は學校では七学級におります。水泳、氷滑りやボートを漕ぐのが大變好きです。又ピアノの練習をしています。私は以前アメリカのお友達にお手紙を書いたことがありますがお返事はありませんでした。あなたは私にお返事を書く時間を見つけて下さるだろうと願って居ります。私の外に数名の少女達が私と同じ様に日本のお友達に文通をしております。私の父さんはメモリアル全国教會の牧師です。若しあなたの身近に幾枚かの日本の切手があればどうかそれを私にお送りくださいませ。私も若しあなたが切手がほしいとお思ひになるならば、カナダの素晴らしい切手をお送りいたし

ましようね。ではどうかお返事を下さい。待つて居ります。

生れて初めて異國の友の便りを受取った玲子さん達は大喜びで御注文の日本の切手や絵葉書や映画俳優のブロマイドを澤山集め、「お正月には日本の振袖を着た寫眞をとって送りました」というような事を書いたお手紙と共に發送したが、クリスマスには此のお手紙がカナダに着くだろうと楽しんでゐる。

【昭和二十二年十二月二十六日（金）丹波新聞】

（私注）旧漢字・送り仮名・句読点等は、すべてそのまゝにしている。（以下、同じ）

仲良しになつた異國のお友だち

く 兵庫縣立柏原高女のお便りく

兵庫縣立柏原高女では、外國のお友だちはどのよ
うに勉強や生活をしているかを知り、一しよに明かる

い平和な國をつくりましよう、同校の竹内先生が教えていただいた関西学院長アウターブリッジ博士が二度目に日本に來られるのを機会に博士におたのみして、カナダの女学校や女學生を紹介していただいて、このあいだ数人の生徒が手紙を出しましたが、待ちかねたお返事の手紙がまいりました。カナダのバトン・エバンスさん（十四）から同高女三年生の中辻政子さんとどいたお便りはつぎのとおりです。

親愛なる政子様。私の住んでゐるところはナイヤガラ附近で、くだものや、花や、耕作物は何でもできます。くだものは「いちご・メロン」などいろいろあります。この夏、私は「なし」や「いちご」「さくらんぼ」「ぶどう」「もも」などの実をつみとる仕事をして、おかあさんと同じように、少しばかりのお給金をいただきます。日本では、万聖節（※）をお祝いになりますか。私は今年黒猫のふんそうをしました。子供たちは、家から家を走りまわつて、「鬼は外」と呼びまわります。すると、その人たちは、いろいろのお菓子や、お金や、くだものをくれるのです。私は、マス

コットに、とび色の犬と、白黒まんだらのねこをもっておりませす。あなたは、どんなものをおもちですか。

【昭和二十二年（金）十二月二十六日 毎日新聞 小學生新聞】

（私注）万聖節 II ハロウインのことだと思われる。「万聖節」はハロウインの翌日で、カトリックの国では最も大事な祝日。

海渡る女学生の友愛

くカナダの友達と結ぶ柏原高女く

縣立柏原高女では海外の心の友を求めて廣く海外の知識を吸収、わが國の文化を海外に紹介して平和と愛の國際親善につとめようと英語科担任竹内常男教諭を中心に百余名の生徒がPPC（ペンパルクラブ）を結成。昨年末からカナダの女学生と文通をはじめ、すでに百通以上の手紙に絵葉書、切手などを封入して発送したが、これを受取ったカナダの女学生たちは大喜び、

なかでもオンタリオ州オッタワ市カナダ基督教少女連盟委員長ディマンさんから竹内教諭宛航空便で十字架を形どった美しいイースターカードや芦田首班指名の写真入り新聞記事を同封した返信が届けられた。（以下その抜すい）

親愛なる竹内様、本週あなたのお便りをいただき楽しく拝見しました。貴校の通信で毎日新聞の切り抜きをととても面白く読みました。カナダを紹介するために私達の町が國外へ送り出している小さな冊子をお送ります。（中略）日本の民主党首芦田氏についての記事が当地の新聞にのっておりましたがそれを切り抜いて同封致します。生徒さんの中には芦田氏と同姓の方が時折見受けられますが、みんな親類なのでしょう。まだ春には遠いのですが私たちはみな春の訪れを待ちのぞんでおります。そちらはこちらよりも早くうらかな春がやってくる事でしょう。イースター（基督教復活節）は今年はとても早いのです。合同教会もバプテスト教会も全てが毎水曜日の夜4句節（復活祭前四日間）の礼拝をとり行います。

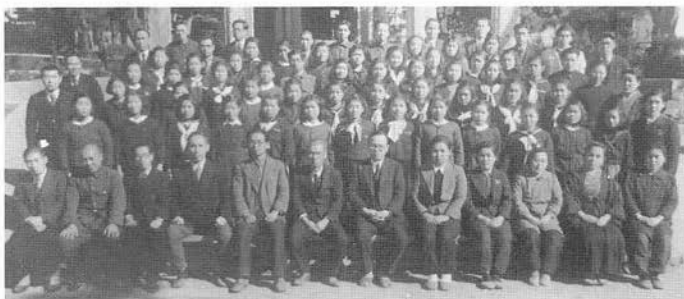
二月二十九日ディマンさんよりこの便りを受けた竹内教諭はこのほかCGTT（カナダ基督教少女連盟）からも共によりよい世界を建設しようと詩集、賛美歌歌詞、新聞などを添えた書面を数多く手にして、海を越えた友情の温かさに心うたれ、このささやかな企てが一層国際親善のお役に立つよう祈っていますと語った。

【昭和二十三年三月二十六日（金）毎日新聞】

（私注）旧柏原中第三回卒の芦田均氏は、昭和二十三年（一九四八）年三月十日、第四十七代内閣総理大臣に就任。

新聞の切り抜き記事は当時のざら紙（わら半紙）で茶色く変色していたが、何とか判読できる。

記事中の中辻（山下）政子さん（高校三回）、酒井（樋）玲子さん（併中一回卒から柏高へ、高三時に西脇高校に転校されている）は、まだお元気で、昨年夏にコピーをお送りすることができた。ご兩人とも大層な驚きようで、さっそく返信をいただいた。



写真の裏書には「柏原高女併設新制中學校第三學年五組（昭和二十二年（度）二十三年三月寫す」とある。前列左から6番目が河津啓太郎校長、5番目が父竹内常男。

山下さんは寝屋川市にお住まいで、「先生の残された品をお送りいただき、八十三才六ヶ月になりました私は、いろいろなことが懐かしく、終戦後のご帰国が遅く、戦争中のご病気が出たとかでお亡くなりになりました日、日赤で遺体を見て大泣きしたことも憶えています。

温厚な先生は、やさしく丁寧にご指導下さいまして、英文法などもよくわかり、英語の成績はめきめき上達いたしました。希望者はESSクラブに入り、先生が英語でご質問される内容を考えて、生徒がその答えを英語で言うという勉強も面白かったです。カナダとの文通も先生がご

計画下さいました。英語の手紙に、時には日本の扇子やかわいいお人形なども送った記憶がございます。(以下略) (平成二十八年八月) といった長文をいたした。

樋さんは埼玉県にお住まいで、「先生のところに通い、カナダ、オンタリオ州の女学生と文通をはじめ、お陰で私の英語力は、敗戦後間もない頃としては大変よかつたらしく、主人と金沢で生活を始め、何の気なしに金沢放送(ラジオ)を受けました。会場いっぱい受験生の中、たった一人遅れて行ったのですが、第一次、第二次と受かりました。残り数人の中で、結婚しているのが大きな理由で落ちましたが、英語力がすごいと放送局の方が言われていたと聞きました。長男(今年の四月で六十才)が生まれた時は埼玉に暮らしていました。ずっと文通を続けていたのですよ。クライダーマンさんと。竹内先生が冗談で「叫ぶ男」なんて仰っていたのを覚えています。もう本当に遠い遠い昔のことと忘れておりました事をたくさん思い出させていただきました。私も、この手紙が届くころ、満八十五才になります。(以下略) (平成二十八年八月)

樋さんのもの、「最近では書類等に住所、氏名等を書くのすら億劫で、年賀状くらいしか出しません。久しぶりに長い長いお手紙が書けました」と言われるほどの長文の便りだった。

山下さんから、この春大阪で開かれたミニクラス会でP.P.Cコピーを見せると「自分の名前もある、よくも今まで残しておいていただいたなあ」と感動する男性もいたと知らされた。その後、その男性(高校三回、山南町にお住まい)には、柏原高校創立百二十周年記念祝賀会の場で直接声をかけていただいた。その他、同窓会各支部の会などで多くの方々から話を聞かされ、古稀近くなつて、知らない父への思いが今更ながら複雑に湧いてくる。

そして、指導者が早世することがなければ、あの戦争がなかったら「国際交流のはしり」が「はしり」で終わっていなかったであろうという悔しい思いとともに、今の柏原高校の国際交流、国際親善の取り組みが確かなものとして、ますます盛んになってくれることを祈りつつ拙稿を閉じたい。

(柏原同窓会長)

世界に飛び出た私が、 今、丹波に戻った理由

中川 ミ ミ (丹波市)



農家や料理人や大工のように、生きることに直結した「手に職」があったわけではなかった。でも、住まいを起点に街のあり方を考えた経験や世界中の人々と一緒に活動してきた知見には自信があった。そして何より、地域資源としての空き家が秘めた可能性を感じている。2年前、新たなチャレンジを求めていた私は、その感覚だけを信じ、積み上げたキャリアも住み慣れた環境も捨て、地域に飛び込むことを決めた。いま少しずつ、自分が丹波に戻った意味も、これからも丹波で暮らしていく理由が見えてきた。

生い立ち

エチオピア人の母と日本人の父の間に生まれ、1歳

になる前に父親の仕事の都合で現在の丹波市青垣町へ。幼いころから両親に連れられ海外に出向くうち、丹波で暮らしながらも地球の裏側には目の前の現実とは全く異なる世界が広がっていることを体感。同時に、世界中にはびこる絶望的な貧困の現状を目の当たりにし、いつしか国際協力の道を志すようになった。世界の舞台に立つため中学卒業とともに単身丹波を出て、高校は大阪のインターナショナルスクールへ、そのままアメリカへ渡り大学進学。卒業するときには、国際NGO（国際協力などを専門に行う非政府組織）のスタッフとして働くこと以外の選択肢を考えていなかった。その後、紛争や災害から立ち上がりとする人々を住宅の建設と修繕で支える国際協力NGOに就職、東京を拠点に国内外各地に赴きながら10年間余り、貧困撲滅に向け最前線を走り続けた。

世界に飛び出て、見えたこと

限られた時間・資金・人員を駆使して最大限の効果を上げるため、社内でも様々な支所オフィスや部署と連携し、現場でも現地政府、関係団体、住民、日本に



いる支援者などとの調整が不可欠だった。現代の複雑な社会課題を解決するためには、個人の力や一企業の力の無力さを目の当たりにすると同時に、様々な背景の人が持ち寄る多角的な視点に立つて協働することが不可欠であることを痛感した。現場では、全てができ

ないときに何をすることが問われる。仮にその時の答えが最適でなかったとしても、最善の対処ができるのが支援のプロに求められる責任。相手を認め対等な立場で尊重しなければならず、さらにそのためには相手の立場や他文化を理解できるだけの知識と姿勢も必要だった。地球の裏側で私を救ってくれたこれらのスキルは全て、丹波から世界に飛び出すことを許してくれた両親から与えられたものだった。

休みなく続けた調整業務があったからこそ地球の裏側の家族の安心安全が守られている。終電を逃してで

も打ち続けたメールは地球の裏側に届いて誰かの人生を変える家になる。日々の業務ですらその社会的意義を感じながら、自分にできることを出し切るように正しいと信じる道を突き進み、このおかげでたくさんの人々に支援を届けることができた。大きな仕事や会議の場なども任せられ、私より学歴の高いどの同僚より早く昇進していた。勤続10年が近づいたころには、貧困問題に関する課題意識が「仕事」の範囲を超えてライフワークになり、世界中どこに行っても暮らしていける自信もついていた。

転職、そしてUターン

しかしさらに大きな視点で見ると、世界の貧困や貧困層がおかれた住環境は、改善していないどころか支援を必要としている人が増加傾向にあった。同じ環境で同じ働きを続けることに疑問を感じはじめ、もっと自分が活きる方法を模索し始めた。そんなときGWで帰省した丹波で、たくさんの元気な移住者（I・Jターン）、帰省者（Uターン）、ずっと丹波で暮らす地元住民が地域活性化のために頑張っていることを知り、

直後、丹波市の空き家とまちづくり対策に携わる地域おこし協力隊の募集に応募した。もともと数か年かけて移住を決めようと思っていたところ、約半年後には丹波市役所のデスクに座っていた。

地域おこし協力隊とは、総務省が都市部で経験を積んだ人材を3年の任期で地方に派遣、地域に暮らしながら住民と連携して社会課題の解決に従事するというもの。私は前職の経験と専門性もあり、空き家の利活用による移住促進をミッションに活動を開始した。着任1年目は地域の事情を理解することに専念。人口減少と高齢化が進み地域産業も衰退し空き家が増えていく。東京で暮らしているときには全く見えていなかった。たふるさとの現実に触れ、自分の役割が見いだせる可能性を感じた。丹波市役所の新規事業「住まいるバンク」の立ち上げに携わり、自分なりの分析と改善提案を積み重ねた。住まいるバンクとは、丹波市版の空き家バンクで、市内の空き家の情報収集と調査に基づき、丹波へ移住を検討している人に紹介するしくみ。世界中で家が暮らしを支えるために必要な要素を作り上げてきた経験から、ただ物件を案内するだけでは不十分

と感じ、地域自治会のニーズを聞き取り、移住する人が地域になじみ貢献して暮らせるようマッチングできるようにした。

2年目になった今年からは、任期終了後の独立と定住に向けた事業の準備に着手。住まいるバンク運営で培った地域の情報とネットワークを活かし、空き家をリノベーションし新しい入居者やそこで起業する人が使いやすいように支援する事業を構想している。また、地域のNPOや国際交流協会に関わるなど関係構築にも力を入れ、より多様な人が丹波に移住し地域に貢献していくことで幸せな暮らしを手に入れるお手伝いをしている。

世界に飛び出た私が、今、丹波に戻った理由

ガンジールの言葉に「世の中を変えたいなら、あなた自身がその変化になりなさい」(Be the change you wish to see in the world.)というものをご存知だろうか。変化を「起こす」(make)ではなく、変化そのもの「なる」(be)「こと」の重要性を説いている。頻繁に尋ねられる帰丹の理由を、この言葉がすつきりと言

い表していると気づけたのは最近だった。前職で私はここでいう変化を起こす仕事をしていた。変化を起こすことが私に与えられた役割だったから。しかし時間の流れとともにその限界を感じ、より効率的効果的に自分を活かす方法として変化そのものになる必要性を感じ、丹波に戻ることを決めた。あれからもうすぐ丸2年。自分が体現していききたい変化の輪郭が見えてきた。

今の丹波には、地域に貢献しようとは頑張っている人がとても多く、それに比例するように一年を通して切れ目なく様々なイベントが行われるほど。自治会や行政も少なからずこれを支えるような施策を推し進めているし、民間でもスモールビジネスを起業したり新規就農する若者の知らせを見聞きしたり、市全体に、チャレンジを認め頑張る人たちを支えようとする空気感があるように感じる。それは、自由に暮らすことや、失敗を恐れずに一歩踏み出すことや、多様性が許容されると感じることであり、多くの人にとって暮らしやすい場所に必要な要素。これを呼び水に、私の大好きなふるさと丹波を好きで誇りに思う人が集まり動き声

を上げて、その空気感が増殖される。その結果、地域産業の衰退に歯止めがかかったり、人口減少と高齢化が緩和したりするかもしれないとさえ思えてくる。私は、静かで小さくてもこの空気感を形成する市民の一人として、これからも丹波地域に暮らし働きたいと思う。そうあること自体が、私が体現したい変化であり、今、丹波を選んだ理由だと思う。

(1981年、青垣町出身／育ちが丹波。生まれはエチオピアのアジスアベバ市です／丹波市地域おこし協力隊)

●空き家に関するご相談

「住まいのバンク」<https://reju.info/smilebank/> (丹波市内の不動産情報、所有者向け情報も)

丹波市建設部住まいづくり課 0795-88-5039 (私も在籍しています)

●移住促進に関する窓口

移住定住ガイド「TURNWAVE丹波」<https://reju.info/> (丹波市界隈のイベント情報、移住者インタビューなど随時更新)

移住相談窓口「ワンストップ丹波」090-2705-4110 (移住希望者向け総合相談窓口です)

丹波ブランド紹介

郷土料理守り特産加工品つくる

足立 智和

(丹波新聞社)

丹波のおかさんの味を守った加工品を製造・販売する企業組合「氷上つたの会」。丹波市で収穫された野菜を原料に、素材そのものが持つ味を生かした加工を行っており、「余分なものはいれない安全・安心な加工品」をモットーに、手作りの品物約30品を消費者に届けている。設立当初から、できるだけ地場産の食材を使い、人工調味料や、着色料、保存料は使わないを貫いている。平成5年（1993）に発足した前身の「氷上町つたの会」が、平成19年（2007）11月に法人化し、「企業組合氷上つたの会」と改称。法人化10年目の今年、長らく入居していた丹波市立地方卸売市場（氷上町石生）から、旧葛野保育園（同町上新庄）跡に移転するなど、大きな転換点を迎えている。



氷上つたの会のメンバー。交代勤務のため、全員がそろうことはない。右端の商品を持っているのが秋山佐登子理事長（氷上町石生の加工場で）

従来商品の見直し、新事業実施に向けた準備、新会員の勧誘と、お母さんから、おばあさんの世代になった女性たちは新たな挑戦を始めている。

会の目的は、「安全安心の食品を提供」「丹波市の特産加工品を作る」「丹波市農業振興に協力」「農村女性の生き甲斐づくり」「郷土料理の伝承」「都市住民、地元住民との交流に協力」だ。

氷上町つたの会の母体は、昭和49年（1974）に氷上町に生まれた生活改善実行グループに端を発す。農村女性の生活向上のために、農業改良普及センターが開いた学習で氷上町内にいくつかのグループが立ち上がった。当時は、加工に取り組むのではなく、農村生活、専業農家の生活改善が主で、農繁期の食事改善



「四季菜館」で提供している定食を味わうための喫茶コーナー

や野良着の工夫、生活設計、健康診断の受診、申告の勉強などをしていった。

時代を追うに連れ、生活改善実行グループは下火となり、幸世地区の賀茂グループだけが活動を継続。平成に入り、沼貫地区に婦人会OBで「菜の花グループ」が立ち上がり、その後「成松グループ」もできた（その後、石生グループも）。

結成の直接の契機は、平成4年（1992）の氷上町役場の農林課から、地元農産物を使った特産品を作ってほしいと依頼。グループ間で話し合い、翌年に「氷上町生活改善グループ連絡協議会」、愛称「氷上町つたの会」を設立した。当時の会員の中心は50代半ば。農業の中心になって働いている忙しい女性たちだったが、加工品を作ってみたい気持ちが出た。

まず、加工所も許可もいらぬ漬物から始めた。作

業場所は、大木会長宅の納屋。無臭ニンニクの甘酢漬、あざみ菜漬けなどを作り、文化祭などで販売した。翌年発生した阪神淡路大震災では、現地で炊き出しを行った。

保健所の許可を受けないままでは、漬物以外は製造できないことを学んだ。ちょうど、氷上町清住のカタクリが有名になる時期で、町に観光客が訪れ始めていた。臨時の営業許可だけでは追いつかなくなり、加工所設立の陳情を町と議会に繰り返した。氷上町役場の農林課も巻き込んで物件を探し、平成8年（1996）によりやく卸売市場の空きテナント1室を借りることができ、同年、「氷上町つたの会加工部」として再出発した。

やる気はあるが、物も資金もなかった。不要になった動力杵つき餅つき機を製菓業者から、回転釜などを給食センターから譲り受け、備品を整えた。会員がつんできたヨモギを入れた「草餅」が人気商品になった。順調に推移していたが、1999年9月の台風で加工所が床上70センチの浸水被害に見舞われた。冷蔵庫などの電気機器、ほとんどの商品が泥に沈み、270万円の

丹波ブランド紹介



炊いた小豆、小豆の煮汁、もち米がセットになった「赤飯の素」。県産の「ひょうご推奨ブランド」の規格を満たしている。

平成19年の法人化は、社会的信用を高めようと取り組んだ。一番大きく変わったのは、金融機関から融資が受けられるようになった点だという。有志グループだった先の水害時は、夫の土地建物

被害を出した経営上最大の危機も、おばちゃんの底力で乗り切った。

平成15年（2003）に、加工所の隣の空き部屋を新たに借り、面積が3・5倍に。味噌部屋を新設し、味噌製造を始めたほか、名物の「氷の川弁当」や鯖寿司、巻きずしなど、惣菜製造もやりやすくなった。

翌年には、ひかみ桜公園（氷上町犬岡）に、農産物直売所「四季菜館」がオープン。つたの会は、喫茶コーナーを担当し、日替わり定食（600円）を提供している。「四季菜館」の直売所で加工品を販売しており、寿司や、地元の果実を使ったジャム、ケチャップ、味噌、漬物などを販売している。



季節の果実を使った様々なジャム



阪急ガーデンズでも人気の「氷の川みそ」（中央と右）。青大豆と黒大豆で仕込む。

日本を代表する大納言小豆の産地でありながら、地元では手軽に使うこ

を担保に、というような事を言われたが、法人設立以降は、すんなり融資が通るようになった。

現在の会員は20人ほど。60歳が一番若く、会員の真ん中の年齢が70歳。地方卸売市場と、四季菜館の食堂に分かれて勤務。ほかに、三ツ塚マラソン、もみじマラソン、水紛れまつりなど市内のイベントに出店する。以前は100回を越えていたが、近年は50回程度に抑えている。

法人化後最初に開発した商品が、「赤飯の素」。丹波市特産産の丹波大納言小豆を水煮し、レトルト殺菌。小豆の煮汁もついており、コメに混ぜて炊くだけで、赤飯ができる。丹波市産のもち米2合もついてくる。

とが少ない小豆を家庭で味わってもらおうと、開発に取り組んだ。小豆は一粒ひとつぶ手選別したもの。炊きあがりに、小豆がふっくらするよう、硬過ぎず、軟らか過ぎないように、豆の下煮時間の調整を重ねて商品化にこぎつけた。

かき氷にかける、地場イチゴと砂糖だけを使ったイチゴシロップ、丹波黒大豆のB級品を使った「黒大豆納豆」、「きんつば」などの開発も法人化後に取り組んだ。最近開発したのが、大豆の水煮。水から戻すとないと手間がかかることから、味付けだけすれば良い状態にして真空パックされているお手軽さが、消費者に受けているという。

加工品の一番人気は、「氷の川弁当」。年中、黒豆煮がつく。年中取れる旬の野菜を使った煮しめ、天ぷら、酢の物、なます……。野菜づくしが喜ばれる時とそうでない時があるので、市内で生育された丹波ポークや売り出し中の丹波鹿肉、加工所の目の前にある東兵庫魚菜から購入した魚を使うこともある。

1度の注文でおおむね1万円以上になるように受注しており、子ども会向けの6000円の弁当から、法事



人気の草もちも、移転先の加工所にもちつき機を置く場所がないため終売に。

や集落の会食用の3000円のものまで価格に応じた内容にしており、平均すると、1つ1000円ほどになるという。

丹波市の「ふるさと納税」の返礼品に、30食限定の「おせち料理」にも取り組んでいる。つたの会の最高級品で、1食1万3000円近くになるが、作る手間が大変で、これ以上増やすつもりはないという。

阪急西宮ガーデンズ（西宮市）でも人気なのが、「氷の川みそ」。青大豆と黒大豆のみならず、米と米麴も地元のコシヒカリを使ったこだわりの味噌。青大豆は、農家に委託栽培してもらっている。よく見ると、黒大豆の皮が残っているのが見える味噌は、コクと甘味があり、うまみが強い。「氷の川みそ」は、「赤飯の素」などと共に、化学肥料・農薬を3割以上低減している

ことが要件の「ひょうご推奨ブランド」の認証を受けている。

完熟トマトを使ったケチャップも、濃厚な甘味があり、売り切れる年があるなどファンが多い。

立ち上げ当初の平成7年度(1995) 90万円だった販売額は、直近の平成28年度(2016)では2958万円にまで増えている。ピークは平成23年度(2011)の3222万だった。

「四季菜館」のほか、「道の駅丹波おばあちゃんの里(春日町七日市)、リニューアルオープンしたJA丹波ひかみ本店前の「とれたて市」(氷上町市辺)などにも商品を置いており、集客力のある「JAとれたて市」の売り上げが伸び、経営を支えている。

氷上町石生の加工所は9月末で閉鎖し、移転する。入居するテナントが、県立丹波医療センター(仮称)の進入路用地となり、大家の丹波市に立ち退きを求められた。

新加工所となる葛野保育園跡は、半分がデイサービス事業所と使われており、残りの半分を、所有者の葛野報徳自治振興会から借りる。現在の加工所より狭

くなるため、もちと漬物の製造はやめざるを得なくなる。大梅400^キなどと、仕込む量が多く、ストックする場所も考えると、続けるのは困難と判断した。売上の減少は、新たに手がける葛野地区の高齢者向け弁当で補う算段にしている。もち、漬物製造が担当だった人や、中心部にある石生の加工場から離れるのを機会に、会を去る会員もあり、葛野地区で新たなメンバーを募っている。

氷上町つたの会の立ち上げから、企業組合の設立まで会を引っ張ってきた大木智津子さん(氷上町新郷)が、つたの会が、兵庫県農業賞や「第19回食アメニテイコンテスト」農林水産大臣賞を受賞(ともに平成21年)したのを花道に理事長を退き、2代目理事長に秋山登子さん(春日町棚原)が就いた。

秋山さんは「ここしばらくで、丹波市でも加工を手掛ける人が随分増えたけれど、後発の人と重ならない商品を私たちは作っているので競合はしない。経営は決して楽ではなく、人材確保も難しい面があるけれど、発足した時からの会の目的に沿った活動をし、今後も組織を継続、発展させていきたい」と思いを語った。

丹波市の舞台文化

— 3 団体を中心に

荻野 祐 一

(丹波新聞社社長)

はたと困った。毎号、『山ざる』の原稿を依頼されて書いているが、今年はホットな題材が浮かばない。思案した。その挙句、ひらめいた。地元劇団の「劇研・椎の実」が来年で創立70周年を迎える、と。「椎の実」の現代表を務めているのは、不肖わたし。くし。「椎の実」について書くのは自己宣伝めい気が引けるのだが、寄稿依頼の責を果たすため背に腹は代えられない。それに、丹波の山奥で懲りることなく70年も演劇活動をしているのはそれなりに評価されても良からうと開き直って、「椎の実」を取り上げることにした。でも、それだけでは手前味噌に過ぎると、同じく伝統のある氷上吹奏楽団と氷上混声合唱団「パストラル」も取り上げ、丹波市の舞台文化を俯瞰することにした。

では、まずは椎の実から。

昭和23年、柏原町で旗揚げした。私は昭和33年生まれであり、入団したのは昭和57年。このため椎の実70年史の前半については聞き伝えによるのだが、柏原町内の若い男性6人が結成したらしい。初代代表の川村芳一氏が19歳の時だった。なんでも地元柏原の神社の祭りで芝居を披露し、「芝居って、わりと面白いやないか。ひとつ劇団をつくってみよう」と盛り上がったのがきっかけという。若者特有の無定見な行動の発露と言えようか。

娯楽の乏しい時代。団員たちは夜の1時ごろまで稽古に励んだこともあったそう。芝居の稽古とはいえ、町が寝静まった深夜遅くに若い衆が一室に集まって騒いでいるのだから、ときに怪しがられたらしい。椎の実に集った若者たちは、戦後の荒れた世相に演劇を通して善意の灯をともしたいとの思いがあったそうだが、若者の熱い思いと、周囲の大人の視線が食い違うのは今も当ても変わらない。

旗揚げから長く、椎の実は民話劇を中心に活動してきた。柏原町の名所である鬼の架け橋や、かつて



劇研・椎の実の昨年の公演

の昭和57年。大学時代に演劇をしていたことを団員にもらしたのがきっかけで入団を勧められた。演劇

水不足で悩んでいた柏原町の集落を題材に、川村氏が書いたオリジナル脚本や、既成の脚本を織り交ぜて上演してきた。私が入団する前の話である。先述の通り、私の入り、私の入団は、丹波新聞社に入社した翌年

は大学までと思っていた私だったが、一度、舞台上に立った者は演劇の魅力から容易に逃れられないもので、性懲りもなく入団の誘いを受け入れ、今に至っている。

創立60周年を機に椎の実から身を引いた川村氏から代表の席を譲り受けた。入団以来、出演をするのはもちろん、脚本も書いてきた。代表になってからは演出もしている。

これまでに書いた脚本は24本。圧倒的に駄作が多いが、それでも数打てばあたるで、自分なりに上出来と思えるものも、ほんのわずかだがある。その一つが「丹波越え」という脚本。

近松門左衛門と井原西鶴の二人の大家が、柏原に伝わる「おさん・茂兵衛」の悲恋を題材にそれぞれに作品を書いているが、私の「丹波越え」は、筋書きの全く異なる二人の作品から、琵琶湖での心中偽装（西鶴）、二人の逃避行に立ちはだかる悪役（近松）と、二作品からおいしいところを頂戴して合体させ、そこに友情という新しい要素も加えてつくり出したものだ。ちなみに「丹波越え」という言葉には、「駆

け落ち」という意味がある。

公演は、毎年秋に地元柏原の丹波の森公苑ホールで行っている（今年は10月7、8日）。毎年欠かさずに足を運んでくださる奇特なお客さんもいてくださる。ありがたいお客さんと言えば、5年前の公演は思い出深い。午後2時の開演に合わせるように、その時刻、丹波に台風が最接近したのだ。開演の1時間ほど前から「きょうは、公演があるのですか」という問い合わせの電話が入り始めた。行政は「不要不急の外出は控えるように」との放送を市内に流した。楽屋に備え付けのテレビでは、ひっきりなしに台風情報を流していた。

そんな袋小路に追い込まれた中で、「たとえわずかでも、お客さんがお越しになる限り、上演する」と決め、幕を開けた。

ホールの外は雨風が激しくても、公演自体に差しわりはなく、無事に終演。出演者一同が舞台上並び、代表の私がお礼のあいさつをする最後の時が巡ってきた。上演中は、客席は暗く、お客さんの姿は暗闇に溶け込んでいるのだが、カーテンコールでは

客席に明かりがつく。いつもの定期公演より空席が目立ったが、それでも250人ぐらいおられた。明かりに照らし出されたお客さんたちを目の当たりにして、不覚にも熱いものがこみ上げ、喉を圧し、言葉を発することができなくなった。最悪の気象条件にもかかわらず、私たちの拙い芝居を見ていただいたお客さんたち。ただただありがたかった。私たちの演劇活動は、こうした方々に支えられていると再確認した一幕であった。

椎の実際の公演は、旗揚げ以来、入場無料を貫いている。ホールや練習場の使用料、大道具づくりの費用など、お金のかかる演劇公演だが、なぜ無料でできるのかというと、公演のたびに、たくさんの方々から結構な額の祝儀を頂戴するからだ。私たち椎の実際の活動は、地域の方々に物心両面にわたって支えられていることを痛感する。

現在の団員数は、中学生から80歳代までの30人近く。これまでに岩手県や愛媛県、山口県、秋田県で開かれた国民文化祭にも出演してきたが、私たちのフィールドはあくまでも丹波市であり、地域への感



氷上吹奏楽団のリサイタル

謝を胸に刻みつつ、これからも演劇活動が続けていこうと誓い合っている。

次は氷上吹奏楽団。

結成は昭和62年。今年で30周年の節目を迎える。元プロのトロンボーン奏者、谷垣昌明氏を中心に、「氷上に器楽の灯を」と6人のメンバーで立ち上がり、「氷上金管アンサンブル」と名乗った。2年後、木管メンバーが多数入団したのを機に、氷上吹奏楽団と改めた。現在の団員数は、20歳から50

歳代の約30人。丹波市内をはじめ、篠山市、朝来市、大阪府交野市のメンバーもいる。

平成元年に春日文化ホールで第1回目の演奏会を開催。ホールをいっぱい埋める500人の聴衆を集めた。以来、昨年までに27回を数える定期演奏会を開催（今年は11月26日、丹波の森公苑ホールで）。定演では、吹奏楽のために書かれた曲をはじめ、映画音楽や歌謡曲など、誰もが一度は聞いたことがあるおなじみの曲も演奏。地元ダンス教室や、男声合唱団とコラボするなど、楽しいステージを繰り広げている。

定演のほかに、「地域に愛される楽団」をめざして地域に根づいた活動を行っている。地域の夏祭りなどの行事への出演は、今年3月までに114回を数え、市内外の福祉施設への訪問は33回、さまざまな音楽祭の参加が58回と、人前で演奏するのは年間で5、6回を数える。丹波市の音楽文化を支えるグループのひとつである。

最後に氷上混声合唱団「パストラール」。



パストラールの今年のリサイタル

結成は昭和

46年。当時、

柏原高校の教

諭だった内田

修二氏が中心

となり、社会

人向けの合唱

団として立ち

上がった。

51年に初め

てのリサイタル

を開催。氷

上郡少年少女

合唱団との合

同開催だった。

55年には、組

曲「丹波」を東京六本木のCBSソニースタジオで

レコーディング。その2年後、皇太子殿下・同妃殿

下（現天皇后両陛下）が丹波を訪れた際、柏

原町にあった県立丹波文化会館で組曲「丹波」を披

露した。

現在の団員数は、丹波市内を中心に20歳代から70

歳代までの31人で、発足時からの団員もいる。毎週

1回、練習。合唱曲らしい組曲のほかに、外国語曲

や民謡、唱歌、ポップス、映画音楽など、さまざま

なジャンルの曲に挑戦している。

今年6月に丹波の森公苑ホールで35回目となる

リサイタルを開催した。「汽車ポップ」「七つの子」

などの愛唱歌のほか、イギリスの作曲家の作品を英

語で歌い、「上を向いて歩こう」「明日があるさ」な

ど、坂本九のおなじみの歌を芝居仕立てで披露する

ステージを繰り広げた。

以上、舞台文化にかかわる丹波市の3団体を紹介

した。いずれも歴史のある“大御所的”な団体だが、

これ以外にも新しい団体が丹波市には誕生し活動し

ている。丹波市の舞台文化は元気です。

女子高等教育の先駆者

井上 秀 その2

徳田八郎衛（柏原町）

1 戦後に非難された体制への協力

これほど女子高等教育のために奔走した井上秀であるが、「当時の体制に協力した」とする非難も少なくない。それも学部長や学監時代ではなく、日本女子大学校の校長となつてからの行動についてである。その最たるものは、「警察に協力し、左翼学生退治に乗り出した」という告発だった（林えり子『日本女子大桂華寮』新潮社など）。また終戦直後にも「戦時中の行動の責を取り、井上校長は勇退すべき」と主張する学生もいた。

これらの非難について母の意見を訊ねたら、「非難する人は、虎ノ門事件が全国民、特に教育関係者の心胆を寒からせしめたことを忘れている」と応えた。戦後育ちの人々は、「忘れた」よりも「知らない」であ



1905年秋、落成間もない桜楓会館前での記念写真。中央で椅子に座るのが井上秀。最後列の洋装が広岡浅子。その右横が成瀬仁蔵。

ろう。これは関東大震災の後に幾つか勃発したテロ事件の一つで、大震災直後の1923年12月27日、帝国議会開会式に向かう皇太子・摂政宮裕仁親王が虎ノ門で難波大助に散弾銃で狙撃された事件である。幸い皇

太子には命中せず、車に乗の東宮侍従長が軽傷を負ったが、犯人がマルクス主義に心酔する青年だったことが大問題となる。

山本権兵衛内閣は総辞職し、警視総監や警視庁警備部長（後に新聞界に転じる

正力松太郎)が懲戒免職となる。父の難波作之進代議士は閉門・絶食状態で自決し、難波が卒業した小学校の校長と担任も教育責任を取り辞職した。日本社会は衝動的に左右へ揺れやすい。「国家再建の大事な時期なのに、しかも国民が囑望する若い摂政宮を撃つとは怪しからん」という風潮が、「虐殺された大杉栄の仇を討つ」というアナーキストの動きを封じてしまうが、

教育現場では第2、第3の暗殺者出現の悪夢に怯えていた。インテリ女性を導く日本女子大校長も例外ではない。そして案じた通り、1932年には昭和天皇の馬車に朝鮮人労働者が手りゅう弾を投げつける桜田門事件が起きている。

もう一つの顕著な国家への協力は、男女別だった大日本青年団を1941年に統合し、大日本少年団や帝國少年団も編入して結成された大日本青少年団の副団長就任だ。戦後に公職追放を受ける「罪状」にもなった。だが、これを理由に秀を責め立てる文書や「口撃」は余り多くない。何しろ団長は文相、筆頭副団長は文部次官、次席副団長は教学局の部長だ。職務による指名だから、すぐに交代する。人物指名は三番目の副団

長、井上秀だけである。日本の女性教育者代表として、秀は、当時のすべての女性の誇りであった。

面白いことに、あれほど日本女子大学校の大学昇格を阻止してきた文部省が、ここでは秀の肩書を「日本女子大議長」と記している。文書を重んじる官公庁としては前代未聞の表現であろう。

2 同窓会長としても獅子奮迅

栄誉も非難も担うことになる秀の校長就任は1931年である。前年からの大恐慌は回復せず、秋には東北地方が大凶作で多くの身売りや生じる中、満州事変が勃発する。文部省が穂積重遠、河合栄治郎教授らによる学生思想調査委員会を設けた年でもあり、実に厄介な時期に校長となったのだった。

母にとつて戦中の秀は、校長というよりは同窓会である桜楓会の会長であった。毎週発行される機関誌に秀は健筆を振り、国内外の会員に社会奉仕を呼びかけた。本来、同窓会は共益を目的とする組織であるが、桜楓会は戦前から立派な公益性ある団体で、その陰には秀の優れた指導があった。秀はこれを単なる親睦会

に留めず、婦人教化団体として社会に重きをなすよう努めたのだ。1940年の事業報告では「時局にふさわしい活動を狙いとし、家庭科学・家庭文化方面の研究・向上を図り、余力を挙げて国策に対する組織的協力をなしつつあり」に始まる活動状況を挙げている。

●研究会

女子文化・生活文化・家庭文化等の文化研究会、統制経済下での衣食住方面の新生活研究会、大陸生活での実際的に行う大陸研究会、児童心理・保健教育、福祉等を研究する児童問題研究会など。

●社会的事業

○社会教化的事業

女子大の育児相談所における育児相談（年間約100件）、児童問題の講演会・座談会による母の啓発（月2回）、出版事業など。

○社会奉仕的事业

日暮里での託児所経営（年間延人員2980名）・夏キャンプ・古着バザーによる働く婦人の支援、会員への職業紹介・結婚紹介など。

○社会方面的事業

国策への協力（傷病兵見舞、慰問袋発送）、アパート経営、不用品交換会など。

●対内的事業

会員・母校のための諸事業（機関誌「家庭週報」発行、各地での修養会・軽井沢での夏季大学）など。

対内的事業だけに追われる一般の同窓会には、恥ずかしくなるほどの公益活動である。そして、どの活動にも近隣社会への奉仕・還元が強調され、その指示に母も従っていたのを母の死後に知った。

日英開戦寸前に私たち子供を連れ、米英蘭の経済封鎖と闘う父を残してシンガポールから父の郷里、新井村母坪へ引き揚げた母は、翌年の田植え時に公会堂に託児所を開設した。昔からの農村習慣であろうと考えていた私は、母の葬儀の場で近隣の老女から「あれは母校の指示に従って始められたのです。抑留されたご主人の生死も不明なのに一生懸命で。それまでは農繁期の託児所など村にはありませんでした」と告げられて驚いた。調べてみると前年夏の「家庭週報」に、農繁期託児所と共同炊事を農村で普及させよとの会長ア

ピールが確かに記されている。郷里の先輩で恩師の秀の指示には忠実に従う母であった。

3 学部長時代に国際的な活躍

社長や学長になると、「下」の意見も聞かねばならず、事業部長や学部長時代の華麗な活躍も減速されることが多い。秀も同様であり、大正時代の方が生き生きと活動している。1913年には桜楓会理事長として発案し、同会社会部の仕事として託児所を開設する。自分も次女幽子を出産（38歳）しているから働く母親への共感が強かったに違いない。1919年に家政学部長就任とともに、文部省中等教員臨時検定委員となり、多忙な職務の中を1942年まで務めている。夫の雅二が郷里で衆院選挙に立候補した縁だろうか。翌年に柏原高女で「生活改善の中心点」と題する講演を行い、「もつと合理的な衣食住を」「葬式や婚礼も改善を！東京は進んでいます」「個人がもつと人生を楽しめるように」と郷里の後輩に呼びかけた。

悲惨な第一次世界大戦が終結して4年目の21年、婦人平和協会が設立されるや互選で会長に就任。翌年に

はワシントンでの世界婦人軍縮会議に招聘され、「わが日本婦人がいかに平和を切望するか」と題し、「婦人であり、母という立場から軍備撤廃を希望する」と述べた。これをもつて「秀は平和運動家だった」と持ち上げる人もいるが、当時は、「あの悲惨な大戦がなぜ起ったのか・どうすれば再発を防げるか」というシンポや会議が世界のどこかで開かれ、ロカルノ条約（不戦条約）締結に続き、軍備撤廃も一部で議論されていた。もつともアジア・アフリカの植民地が独立に立ち上がるとなれば、直ちに消滅する性格のものであった。

持ち上げる人は記さないが、この演説での秀のナシヨナリストの面目は躍如たるものがある。「この戦争で日本は大儲けしたとされるが、3000年養った道徳、秩序、習慣が破壊され、金に換えられないものを失いつつある」「日本を侵略主義、帝国主義とそしめる声があるが、19世紀の中国での欧州諸国の行為や遼東半島での三国干渉を見るがよい」と訴え、日本移民の排斥を糾弾して白人勢に一步も引かなかった。

太平洋沿岸諸国の友好を目的とする民間団体「汎太平洋同盟」主催の第一回汎太平洋婦人会議（1928

年・ホノルル)にも秀は日本代表団主席代表として出席するが、代表挨拶はガントレット常(英国外交官と結婚して英国籍を得るが、後に日本へ帰化し、婦人参政権運動で活躍した女性)に譲り、専ら引率者として行動する。もう秀は長老になっていたのだ。これらの華麗な国際的活動を背景に、秀は校長となる。

4 教師としての井上秀

教師としての秀の想い出を母に問うと、忘れられないのが軽井沢の三泉寮での「山上教育」である。これは三井家から寄贈された山荘を活用し、初代の成瀬仁蔵校長が開校当初に始めたサマーキャンプである。牧師でもあった成瀬校長は、信仰を押し付けることはなかったが、倫理・道徳・精神教育(特に実践倫理)を重視していた。通常は触れ合うことの少ない校長や学監と生活を共にしながら、生活マナーから「高度の精神的空気」までを学ぶのである。成瀬校長には聖書が伝える山上の教訓を再現する夢があったのだろうか。1917年などは十回も講義している。

母が入学した時は、麻生勝三が校長だった。時事問



1923年夏、軽井沢・山上教育での家政学部4年生。2列目中央、麻生校長の向かって左2人目が井上秀家政学部長。後ろから3列目、右から4人目が筆者の母、横尾博子。

明治末期に文部省が認可した女子
専門学校と認可の年

1904	日本女子大学校
1904	女子英語塾
1909	帝国女子専門学校
1909	神戸女学院女子専門学校
1912	同志社女子専門学校
1912	東京女子医学専門学校

題などから巧みに高次元の訓話へ導く成瀬に比較すると、麻生はかなり生真面目で、訓話も難解だった。それを後で判りやすく解説してくれるのが秀であった。「もともと生活の簡素化が必要。日本人は衣類も和洋両方を準備しているから無駄が多い」と説く秀が、大正末期から洋装のみに切り替えたと記す「秀先生の想い出」もあるが、母の4年生時の山上教育記念写真では和服姿で写っている。関西出身の母には、白樺に囲まれた軽井沢の風土も新鮮なものだったが、毎朝30分の瞑想には困ったという。だが少女時代に京都で座禅に取り組んだ秀には快適なものだったであろう。秀が校

長になると、常に京都から臨濟禅の高僧を山上教育へ招いている。

母が秀に傾倒したのは、郷里の先輩という地縁などではなく、日本に家政学という学問を導入し、その学問体系を確立せんとする秀の姿勢だった。

それは、軽薄な世間が想像する「花嫁修業学」ではなく、生物、化学、医学、社会学、経済学、法制から心理学、倫理学、教育学、育児学、体操まで含めた「混成学」であり、しかも実地応用を目的とする「術」である。

その頃、母の家政学部先輩で下関高女教諭だった吉田輛子という女性が貞明皇后の女官に抜擢されている。皇太子妃時代に女子大へ度々、ご下賜金を送り行啓した皇后も、病弱の大正天皇を支え、公務も多忙とあつて、気軽に行啓できない。そこで女子大や秀についての質問はすべて輛子に向けられた。そのために女官に登用したのかもしれない。だが「日本へ最初に家政学を伝えたのは誰か」というご下問は、秀に転送された。それに対して秀は、「それは女高師教授で、後に家政学院を創設し、院長となる大江すみ子です。だが、それは英国の家政学で、米国の家政学を伝えたのは私です」と応えている。秀は学生にも「米国の家政学は非常に科学的で、また理論が生活に直結している」と褒めていた。当時の文部省は、家政学関連の教官留学をなぜか英国に絞っている。独仏に代って英国が新時代の王

者と見做され、日英同盟の誼もあつたからだが、米国の家庭建設理念を危険視していたせいもある。なお母は卒業後、7年間の米国駐在体験から「悔しいが20世紀は米国のものになる」と観る父、徳田富二と結婚する。明治末期に認可された女子専門学校は、この表の通りであるが、ほとんどが幅広い教養・リベラル・アーツ、あるいは語学や医学に特化するもので、世間が理解しがたい家政学を基盤とするのは、日本女子大学校だけであつた。

5 数々のエピソード

母が忘れられないのは、常に洋書を携えて教壇に上る秀の姿である。まだ訳語が定着していないので生の英語が講義に飛び出す。カロリーなどは訳語を生まないまま定着していく。世間が想像する花嫁修業学とは大違いである。秀がバタ臭かつたのは、2年間の海外生活も背景にあるが、夫の雅二が絶えず海外へ出ていたことも一因と母は見ていた。秀の帰国を待つように皇太子妃殿下の行啓があつたが、先導役の成瀬校長は、官立大学・高専の管理者のようにフロックコート

とシルクハットを着用した経験がない。そこで秀を師匠として、お迎えの訓練が校庭でくり広げられ、10年後に入学する母たちにも伝えられた。

秀の考えでは、伝統的な「家」ではなく、近代的な家庭こそが社会や国家を形成する最小単位であり、重要な単位であつた。また女性の理想像は、母である女性、母となるべき女性である。「女性は、子供を生み、育てる器械ではありません」とする今の主張からは、古臭い価値観としてゴミ箱へ放り込まれそうであるが、家庭崩壊が社会崩壊をもたらし始めた今日、秀の危惧は現実のものとなつてきた。

どの年にも卒業前の最後の講義で、秀は「家庭の理想について私の考え」を述べている。「男性と同じ教育を受け、男性と同じ仕事に就けるよう要求する女性も多いが、男性と女性は、各々の特性を生かして社会や国家に貢献すべきだ」と説き、「しかし家庭は女性が責任を持つべき」「家庭の崩壊は社会や国家の崩壊となる。女性の教育は非常に重要」と結ぶ。実践倫理の推進者だけに、秀は柏楓会事務局で働く女性や学生寮の賄い婦たちの夜学さえ開いたのだ。

そして「家庭の理想」の最後は、柔らかい話題で結んだ。「結婚したら夫を立てよ。名を取らせて実を取れ。妻は猿回しで夫は猿だ」という持論である。これは卒業式の後の謝恩会の場でも披露された。

秀の思想は「女性を家庭に閉じ込めるのか」と反発されそうだが、秀の真意は「首相や社長、帝大学長になつて世を変えるのも一策だが、家庭も含め女性ならではの役割を果しながら変える方が有効。出産・育児は負担ではなく、特権で武器」というものだった。

6 エピローグ

秀が著名になつてからの演説や寄稿はよく記録されているが、若い時の詩歌は残されてないだろうか、と母に訊ねたことがある。すると「家庭週報創刊号の文芸欄に無署名の立派な詩が載っていたのを見たことがある。初代桜楓会役員で機関誌担当の方々か、あるいは理事長の秀さんの作かもしれない」と母は答えた。もちろん創刊号は我が家には無かったが、ある機会に読むことができた。同時代の「男の子」たちの意気軒昂な寮歌と相通じるものがある。

「我が寮」

起床のベルに 父母の面懐かしと見し 故山の夢覚め
て 朝戸あくれば 今朝珍しき 五月雨の晴れ間

蒼天高く 我が為す業を 助け給はん 朝日の光は
やがて昇らん 東の岳（おか）の杉野木立のあたり
薄紫の横雲 二筋三すじ（後略）

夕べおかしき食卓のまとい 戸外すぐる号外に また
日本の大勝利と 小さき友が 箸捨てて立し騒ぎの後
二階の窓より 見下す雑司ヶ谷の夕暮れの色 小田の
細道 表生の波分けて とぼとぼと帰り行く翁の後姿
御国の為の 愛児を御軍に出て立たしめ 衆隠居の扇
捨てて とる鋤鎌かとあはれがれば いで我も翁に劣
らじと（後略）

（満州奉天市生まれ／浦安市在住／元防衛省勤務／（財）
平和・安全保障研究所客員研究員）

丹波人物伝 ②

泊雲と泊月

西山 裕 三 (三田市)

西山泊雲(本名は亮三)は、明治十年に父膳造と母いへの長男として丹波竹田村で生まれました。小学校卒業後春日部村にあった山東義塾で、その後は成松村の山西義塾で漢学等を学びました。父親は商売一徹の人で文学なんぞは絶対認めない人でしたから悶々として家業の酒造業を手伝っていました。しかし十四歳と十六歳と十七歳の時、三回も家出をしています。最初は神戸に出てコック見習をして米国に渡ろうと考えていましたが、すぐに引き戻されてしまいました。二度目は京都へ出掛けます。堀川の商業学校に入って勉強をしましたが、また父親に連れ戻されてしまいます。三度目は東京へ行きます。退役軍人が南洋探險をするというので小さなスクーナ船に乗り外海に出ましたが、脚気になってしまい千葉県の館山で降ろされ深川の安

宿にいる所へ、また父親が迎えに来て連れ戻されました。しかしどうにも商売一途には馴染めず神経衰弱(現在のノイローゼ)を患って自殺を試みることもありました。

そんな中、明治三十五年九月に亡くなった正岡子規の辞世の俳句にいたく感激します。自分の死というものをかくも客観視できるものかと。その句は次の通りです。

- 一 糸瓜咲て痰のつまりし仏かな
- 二 痰一斗糸瓜の水も間にあはず
- 三 をとといのへちまの水も取らざりき

当時、次弟の泊月は東京の早稲田大学に通っていたので、子規の後を継ぐ人を誰か捜してくれと頼みます。そこで泊月は友達に相談したところ、二人の有力な弟子がいるが河東碧梧桐よりも高浜虚子の方がいいだろうといったので虚子のところへ出向きます。「私の兄が俳句をやりたいといっていますので」と話すと、「それでは一緒に俳句をやしましょう。ところで仲介



西山泊雲

役の貴君が
やらないと
こちらの意
向も伝わり
にくいので
君も一緒に
やってはど
うか」とい

われ、兄弟揃って師事することになりました。

昨年（平成二十六年）八月水害に遭い整理をしてい
たら泊雲と泊月と三弟俊三が神戸の山内友吉という人
のところへ出したはがきが七十枚も出てきました。明
治三十八年に父の膳造が骨ガンになり、京都大病院
に入院して手術をする間のいきさつが事細かに書かれ
ています。三兄弟がスクラムを組んで父親の看病や入
院手続に励んでいます。

この山内なる人は母親の出生の大路村の一族出身で
神戸へ出て茶貿易で財をなして羽振りのよかつたみた
いで、その縁でお世話になったのです。丹波から直接
京大病院へ行くのではなく、一旦神戸の山内の家（元

町五丁目に旅館も営んでいた）に身を寄せたのです。
続いて病院前の「丹波屋」という木賃宿に行き、それ
から入院したという事がこのはがきからよく判ります。
また、商売の方も父が病気のために泊雲が引つ構え
るようになりましたが、資金繰りで汲々としています。
たとえば、舞鶴の福井酒店へ新酒と古酒を売ってお金
を受け取ってそれをすぐ地元竹田銀行へ返済したと
いったことが、綿々と書かれています。これを見ると
俳句をやっているどころじゃないなという気がします。
二代目の父は明治三十九年一月に亡くなり、三代目泊
雲が引き継ぎます。

この間三十一年、黒井村野村家のヤスと結婚してい
ましたが、子供ができなかったために三十九年に離婚
しています。そして四十年、多可郡黒田庄村石原の藤
田のえと再婚して、四十一年一月に長男謙三（小鼓子）
が生まれました。こののえという女性は主人を前面に
出して自分は後ろに控えているという縁の下の力持ち
的な存在でした。しかし商売の方はうまくいかずにと
うとう破産という状態に陥ってしまいました。

大正四年、虚子先生は弟子の泊雲の家をなんとか助



高浜虚子揮毫「小鼓」扁額

けようと。吉野左衛門や山崎樂堂といった俳句や謡の友達と一緒に初めて丹波に來られました。これを機に旧來の銘酒「国の礎」から「小鼓」に変わりました。虚子先生が謡をやっておられた關係から「金春」か「小鼓」のどちらかにしようと考えた末に「小鼓」となりました。

ここに美酒うまさけあり名づけて小鼓といふ 虚子

ホトトギス発行所を通じて小鼓を東京の俳句や謡關係の人に売っていく契約書も作っていますし、先生自身も「ホトトギス」大正四年六月号に「銘酒小鼓の事」の文も書いておられます。そして一頁の広告文には「問屋を通さずに酒造場より直接家庭

へ」のコピーで、「廉くてうまい酒」とあります。文人墨客にお客がつき、当時夏目漱石や鈴木三重吉等も小鼓を飲んでいたという文が阿部能成の「我が生ひたち」にも出てきます。

泊雲は先生の唱えられた「客観写生」を忠実に実行した人で、大正時代を中心に「ホトトギス」雑誌巻頭を二十八回も飾っています。大正十二年にはなんと六回と一年の半分も占めています。商売がうまく行き出すと同時に、俳句も波に乗ってこの様な結果になりました。

昭和九年に初めての句集を出しましたが、画家や歌人で親しく付き合ってきた平福百穂や森田恒友が亡くなり、あなたもそろそろ句集を出したらどうかと薦められて重い腰を上げました。『泊雲句集』は当時影響力のあつた徳富蘇峰（有名な小説家蘆花の実兄）に序文をお願いして、もちろん虚子や親交のあつた小川芋錢にも序文や絵を書いてもらうという豪華な句集になりました。蘇峰が郷里の熊本に帰る車中の京都から神戸の間に乗り込んで頼んだみたいです。こういうところに泊雲の特徴がよく出ています。自分がこの人と

思つたらとにかく突進して行き、目的を達する行動力はすごいと思います。

昭和十四年十一月に妻のえが亡くなり、本人は随分氣落ちしたと思います。十六年に詠んだ、

淋しさに声はり上げぬ山桜

は珍しく主観の入つた句です。息子の長男小鼓子は當時三菱地所に勤めていて、満洲の新京（現長春）にいたのですが、会社を辞めて丹波に帰ってきています。晩年は糖尿病を患つて離れの三三庵ささんあんで三女久美や三男洸三と一緒に暮していましたが、十九年九月十五日に六十九歳でなくなりました。泊雲死すの報に接した小諸に疎開中の虚子先生は次の句を詠まれました。

紫苑咲く浅間おろしの強き日に

終戦となり、虚子先生はいの一番に二十年十一月、泊雲墓参に年尾、立子を伴つて丹波へ来ていただきました。近くの石像寺の句碑の庭に親子三人の石碑があ

ります。

鯉も古いこの寺も古り幾秋ぞ年尾
丹波路も草紅葉して時雨して虚子
時雨来ぬまづ出て見よや雑木山立子

泊雲は生涯自分主宰の俳句雑誌は発行しておりません。小鼓子にも「お前、俳句はほどほどにしておけよ」といつていたそうです。俳句をやり出したらおもしろくなつて、商売がおろそかになつてしまうことをよく知つていたからだと思ひます。自分の二十代から三代にかけて、商売が傾いてすこぶる苦勞したのが身に沁みていたがため、「俳句はあくまで余技たれ」といつていたそうです。

泊月（本名は勇）は明治十五年に次男として生まれました。福知山の高等小学校を終え、京都の同志社中学に入学し、三年の時に東京の早稲田中学三年に転校します。三十四年、東京専門学校（現早稲田大学）に英文科第一期として入学します。教授の坪内逍遙にかわいがられて、英国の詩人ロングフェローの「エヴァ



野村泊月

ンゼリン」を訳した「乙女の操」はすごくいと絶賛されました。

野村くにと結婚すると宣言していて、授業中にそのくの写真を机の前に置いていたのを友達にとられてしまふというようなこともありました。そして三十八年卒業と同時に自分が野村家に養子に入り野村泊月となります。当時野村家は没落しかかっており、なんとしても自分がこの家を再興するんだという気持ちを持っていました。中国杭州へ渡り中国人に英語を教えたりしていました。胸部疾患により帰国します。その間大学同級だった高須梅溪が「乙女の操」をそっくり自分の訳本として出版していましたが、本人はそんなに怒ったりしなかったそうです。四十二年、今度は米国のソルトレイキへ渡り、大陸横断鉄道開通の仕事に就

きます。中国人等が労働に従事するに際して英語力を生かしてお金をかせぎます。先日直孫の赤松さんに泊月のことを尋ねたら、米国から帰ってくる時は下着の上に直接オーバーコートを着たままで服なしだったとのことでした。明治四十三年に帰国し、大阪九条で「日英学館」を開設し英語を教えたりしていましたが、その間俳句は遠のいており、大正三年頃からまた句作活動が始まります。「ホトトギス」雑詠には大正六年九月号に初めて巻頭に入選し、巻頭は計九回飾っています。九年に京都高倉町に住居を移して「千種屋」を始めます。ここでは頼まれた虚子等の半切や短冊をお客に売ったりする生活を送っていました。十一年には「山茶花」を創刊し、「ホトトギス」の関西探題といった立場だったようです。昭和八年に西宮市へ移住し東洋紡の関圭草の勧めで、社内誌「桐の葉」の選者を担当します。十一年「山茶花」は退いています。十九年「桐の葉」廃刊に伴い、丹波野村に帰郷します。二十年阪大病院で白内障の手術を受けましたが、はかばかしい結果は出ませんでした。二十二年「桐の葉」が再刊しますが、二十八年眼病が悪化したため選者を高野素十

に代っています。三十一年とうとう失明に至り、洋画家赤松麟作の子息修に嫁した次女夏子の住む豊中市に転居します。三十二年虚子先生から俳句を続け給えという呼びかけに大きく心を揺さぶられて、再び俳句に励むようになりました。三十四年二月号「ホトトギス」に九回目の巻頭を飾りました。三十四年四月八日虚子先生が死去した際の弔句、

花の雨涙の雨となりけり

が代表として選ばれましたが、それ以降作句できず、昭和三十六年二月十三日に逝去しました。七十九歳でした。

三、四年前にテレビ番組「開運なんでも鑑定団」から電話がかかってくる、「お宅に泊月の写真が残っていませんか」と尋ねられました。「ありますよ」と答えて送りましたが、泊月のは若い時のしかありません。後年目が悪くなったため撮られるのを嫌ったためだと思います。

泊月は髪の毛が黒々と多くて立派な髭を生やしてい

ますが、一方兄泊雲の方は髪が薄くて髭は生やさなかつたみたいです。

現在も生きている久美叔母に聞いた話ですが、昭和十七、八年頃に泊月が丹波竹田の泊雲居に来た際、最初は和やかに話し合っていたのが途中から大口論になつてしまい、泊雲は「もう野村へは絶対行かんぞ」とものすごく怒ったことがあったそうです。それで母の桑子が「それなら私が行っておきますから」といったとのこと。二人とも個性が強かつたから兄弟仲はよかつたが、そんなことも起こつたということです。

素十が丹波に来られて小鼓子に出合つた時に「西山の家にも普通の人がいるではないか」といつたそうです。私の父小鼓子は祖父泊雲や叔父泊月に比べたら、まあ常識人だったということでしょうか。

(俳句史研究より転載)

(昭和18年生・竹田出身・西山酒造場会長)

丹波のまつり

延喜式内社 高座神社 たかくらじんじや

宮司 梅 只 敏 幸 (青垣町)

鎮座地 丹波市青垣町東芦田二二八三

御祭神

おほひるめのむち 大日靈尊 あめのこやねのみこと 天兒屋根命
たけみかづちのみこと 武甕槌命 ふつめしのみこと 経津主命 ちほうあいてんのう 仲哀天皇

由緒略記



社伝によれば勧請年月は不詳にして当社は元高座谷にあり。寛文十年(一七六〇)に現在地に移転する。古記・宝剣並びに嵯峨天皇勅額は弘化三年(一八四六)に当社別当発狂の為に焼失した。古来仲哀天皇長門の穴門に行幸の前年当社に御宇の社と伝え今は俗に「蟻の宮」と称する。慶雲年間或夏大いに旱魃の年、村民七昼夜参籠して祈雨の法を修むる。神殿より巨蟻群集し村

民を誘導する事七・八町余り。村民蟻塚を認め塚跡を掘る。湧水し田畑を潤す。村民歓喜し其の地に神殿を建立し龍王水神社として祭祀する。近年参道を整備して神事を復活する。



蟻の宮

又境内に馬鳴神社と称する社あり。東芦田の住人神の啓示により信州上田村より蚕の種を持ち帰り当地方で領飼する。丹波水上郡は元より近隣の村落には養蚕が浸透して村民を潤す。明治六年十月に村社に加列し昭和三十二年、日清日露戦争より大東亜戦争に到る迄、当地方五村より出征せられし英霊百五十五柱を御祭神となす芳魂神社を建立。以後毎年十月五日御遺族参拝の慰霊祭を奉仕している。尚高座神社例大祭は十月十日前後の日曜日にて神社創建当時より伝承せる古鏡を神輿に祀り東芦田地区を巡幸する例なり。又昭和五十五年の秋暴風雨の為に神社裏山の一部が崩落して、六世紀前半の「須恵器」が多数出土し、鑑定の結果神社裏山は六世紀築造の円

墳である事が判明した。当氷上郡地方の特筆すべきは、当高座神社拜殿にて焼失を免れた寛永六年（一七七七）現四国愛媛県宇和島藩伊達家より奉納せられし金銅燈籠があり、又元禄元年（一六八八）の石川県産にて彫刻せられし戸室石なる狛犬一對が奉納してある。思案するに当丹波氷上郡神社には古来より山陰地方（日本海側）と山陽地方（瀬戸内海地方）の文化合流点であり古文書や多数の史物が在し興味ある地方である。又と東隣に在する田井縄村には大神宮神社・天神社・稻荷神社が鎮座せり、其の一つ天神社の御祭神は菅原道真公であり別雷神を配神してある。明治二年（一六五九）六月二十五日雷火ありて田井縄村過半数焼失する、其の後雷火除の為に京都北野天満宮より勧請し村民崇敬の社として今日に至る。其の後安永七年（一七七八）摂津浪花道修町住人芦田重光（当田井縄村出身）菅原公彩画一軸及び白銀を贈し献金して再建する。火災除けの神事として過半



数の家屋を焼失せる時消火して柴を束ね、その柴にて消火した故実により今日毎年神社例祭日には柴神興を造作して村内を練り巡幸する習わしなり。以上高座神社宮司他四十の社を兼務致しておりますので他祭儀あるも紙面の都合上詳細に申し述べざる事できません。お許し下さいませ。尚高座神社に至っては「蟻の宮」にて検索頂ければ幸甚です。
 （丹波市青垣町 高座神社宮司）

青垣町のまつり

小寺 昌 樹（青垣町東芦田）



高座神社では、元来九月九日（重陽の節句）に「流鏝馬」と「花相撲」が行われていた。しかし、昭和二十三年に「流鏝馬」は休止。三百三十四年の歴史を閉じることとなった。

代わって昭和二十六年には太鼓神興を新調、盛大に練り歩いたが昭和四十年に中止。しかし、昭和五

丹波のまつり

十年には百四十名の大行列にて復活。昭和五十三年には布団神輿新調、昭和五十八年には御供神輿を新調、平成十六年以降は浦安の舞奉納と、社会情勢に翻弄されながらも、できるだけ多くの世代が参加できるよう、また、まつりを通じて地域の絆を保とうと努めてきた経緯がある。

以下、それぞれの内容や変化の過程を述べたいと思ふ。

流鏝馬

古記録に「慶長十九年（1614）十二月、村の若者十三人が馬講を立ち上げた」。

「祭礼は九月九日、馬一疋を出す。花相撲あり。生豆を湯煮して御供とし、神事が済めば杯ことあり、豆を肴にして神酒頂戴。東芦田の株者十三人。」とある。祭礼前日、広前（鳥居前の広場）に「馬出」をし、神馬、馬具類は十三人講の



盃の三重と等・鍔・鞍

家々の者が担当。装束や太刀・弓矢は、他の講が担当した。騎乗できるのは、「八歳の男子」に限る、など条件が定められていた。

当日は、一直線の馬場に設けられた数か所の的を目がけ馬上より弓を引くのであるが、何分にも騎乗者は八歳の子供、馬の歩みは緩やかであったらしい。昭和三十年頃までは、流鏝馬の行われた馬場に沿う真つすぐな土手に、等間隔で植えられた秀麗な松が残っていたが、現在は姿を消してしまった。一方、使用されていた鞍、鍔等の馬具や、神酒頂戴の際に用いた三重の盃は大切に保存されている。いずれも漆塗の華やかなものである。

花相撲

「花」とはご祝儀のことで、相撲をとっていたのは元来成人男子であった。神事であると同時に、一族や同じ集落の代表が勝ち進むのを見るのは、胸躍ることであつたに違いない。

太鼓神輿新調

流鏝馬の休止から三年後の昭和二十六年、太鼓神輿が新調された。流鏝馬は騎乗に種々条件があつた

うえ一名のみの参加だったが、太鼓神輿には小学二年生の男子四名が乗ることができた。白鉢巻きに白タスキ、白粉を塗った顔の眉間と唇に紅を差す。凛々しい姿で伊勢音頭に合わせて打つ太鼓の音が谷々に響き渡り、村人は巡幸に手を合わせた。太鼓神輿を担ぐのは青年団や消防団員。村長・区長宅前では神輿を挙げご祝儀を頂く：

それは農村の秋祭らしい趣を醸し出したが昭和四十年に中止のやむなきに至る。原因は高度経済成長に伴う農村から都市への若者の流出や遠隔地勤務等、青年がまつりに参加できない状況だったものと推察する。

神輿巡行復活

昭和四十年の中止以降の十年間は、時代の激変の中にも新たな農村の基盤が整った時期であった。物心両面の安定が戻り、漸次青年の数も増加。すると「昔のような盛大な神輿を出したい」「まつりを通じ連帯と親睦を深めよう」という機運が盛り上がってきた。有志が集まり復活の主旨を区長や関係役員に説明、懇願。青年たちは節度ある行動と復活主旨を

肝に銘じ、昭和五十年に復活。総勢百四十余名の行列で大いに盛り上がった。

布団神輿製作と昼食当番

昭和五十三年には、児童と青年の狭間で役の少なかった中学生の参加を促すため布団神輿を有志十五名で製作。翌年には、祭礼時の昼食準備や接待の偏った負担を避けるため、当番制を導入。四農会で持ち回ることとした。それでも約百八十人分の握り飯と煮しめをつくるのは大変なことであるが、当番のかたたちは嬉々として参加。また、小学五・六年生が「高座太鼓」を担当して巡幸の先頭を行くようにした。

御供神輿と全世代の参加

昭和五十八年には、御供神輿を新調した。そのきっかけは、私事で恐縮だが、小生が四十二歳の厄年で、一〜二年後に厄年を迎える厄年予備軍の十二名を誘ったことであった。小餅八百個を搗いて区民に配布。四十代の壮年者の参加を促した。

これで、先頭より高座太鼓（小学五・六年生）、御供神輿（四十代の壮年）、御神体の乗る御神輿（十

丹波のまつり

代後半（三十代の青年）、布団神輿（中学生）太鼓神輿（小学一・三・四年生が先引き、二年生が乗り、区の役員が牽引）と全世代が参加できる体制がようやく整った。さらに消防幹部は交通指導を担当、大行列をなすに至った。

浦安の舞

平成十六年、巫女の装束五領の奉納を機に、中学一年生の女子生徒が巫女役となり、まつりに参加することとなった。放課後の練習を経て、見事に浦安の舞を披露。まつりは一層、厳肅で華やかなものとなった。

以上のような経過を経て、現在にいたっている。

東芦田には、十三の谷があり、多少のばらつきはあるものの各々に神社を祀り祭礼を行っている。一方、



浦安の舞

十三人講がかつてそうであったように、地域としての絆を確かめ深めるまつりが必要であることは、昨今かえって実感させられることもある。

残念ながら流鏝馬という伝統は途絶えたが、人々の工夫や努力により「新たな伝統」が生み出されているのは喜ばしいことである。

近年の人口減少の課題から、今後の巡幸を検討する時期も程なくやってくるであろう。その時にはまた知恵をしぼり、まつりを継続できるものと信じてい。

最後に、現在のまつりの様子を記しておこう。

宵宮の子供相撲に始まり、まつり当日には4kmにわたる道のりに笛・鉦・太鼓の音が賑々しく響きわたる。公民館では、区長・総代・巫女を正座に四十余名の賄い担当の協力のもと、百二十名の大食事が催される。食事後さらに神社までの道を四基の神輿を中心に巡幸。無事に到着すると、宮司様や総代より喜びと感謝の挨拶を受け、宮人となる。

同じ地域で暮らす人々が、一つのことをやり遂げる充実感や達成感。多少の疲れも心地よい、この感

覚をいつまでも共有していきたいものである。

(兵庫県神戶市丹波市支部総代会会長、中井権次顕彰
会役員、高座神社代表総代)

青垣小学校の開校

小 田 繁 雄 (青垣町)



青垣地域には、芦田、佐治、神楽、遠阪の4つの小学校がありました。それぞれ明治5年から6年にかけて創立され140年を超える歴史を持ち、多くの卒業生を輩出するとともに、長年に渡り人々の心の拠りどころでもありました。

しかし、全国的に少子化が進行する中で、青垣地域においても児童数が減少し、学校によっては2つの学年が1つのクラス、つまり複式学級となる状況となりました。今後も児童数の減少が予想されることから、平成22年秋に自治会や保護者、学校関係者

等の代表を委員とする「青垣地域のこれからの教育を考える会」が発足し、各地区での話し合いやフォーラムを開催するなど、議論を重ねた結果、子どもたちのより良い教育環境を目指して4小学校を統合する方向になりました。平成23年からは「小学校統合準備委員会」が設置され、市教育委員会と共に、学校の設置場所や校名、校章、校歌、通学方法や教育課程、PTAの在り方などが検討決定されていきました。学校の設置場所は旧佐治小学校とし、普通教室棟が建設されるとともに既存校舎は大改修され、ハード面でも統合小学校開校に向けた準備が着々と進んでいきました。

地域の人々の7年にわたる尽力により、平成29年4月、児童数279人、全学年各2クラスの「青垣小学校」が開校しました。

とはいえ、多くの人々に愛されてきた4つの小



新丹波市立青垣小学校

丹波のまつり

学校の閉校は、卒業生はもちろん、地域の人々や保護者にとっては寂寞の感ひとしおのことであり、それぞれ閉校式には若者からお年寄りまで多くの大人が参加し、涙を流しながら最後の校歌を歌いました。

芦田地区は俳人、細見綾子の生誕の地であることから、芦田小の全校生が俳句を学習しました。冬には地区と学校が一体となつてとんど焼きを行ってきました。佐治地区は丹波市が誇る丹波布を伝承しており、佐治小では丹波布についての学習を行うとともに、校区の支援により佐治小夏祭りを開催しました。神楽小は、神楽川や稲土川の清流や、もみじで有名な高源寺など、豊かな自然、歴史・文化についての学習を行ってきました。また、和太鼓、三國太鼓の伝統を受け継いできました。遠阪小ではゲンジボタルとヒメボタル、絶滅危惧種に指定されているホトケドジョウなど自然環境を活用した環境学習を継続してきました。秋には熊野神社のはだか祭りに小学校も参加しました。各校とも地域性を生かした特色ある教育活動が行われており、まさに「地域を

学び、地域の人々との交流を深め、ふるさと意識を醸成する”ふるさと教育でありました。

校区の人々の支援により継続的に取り組んできた学びを、青垣小学校においても「たんばふるさと学」として継続し、ふるさとに愛着と誇りを持った人づくりを進めるとともに、教育ボランティアの活動拠点とするなど、地域の皆さんに統合してよかつたと言ってもらえる学校づくりを進めていく必要があります。また、子どもたちが祭りや行事に参加したり、伝統文化を継承する活動を行ったりすることも大切です。

そのため、青垣小学校は、学校運営に地域が参画するコミュニティスクールとしてスタートし、地域の絆を深め、将来の地域の担い手を育成するなど、地域とともにある学校づくりをめざします。

また、青垣小学校を青



スクールバスでの通学風景

垣中学校との小中一貫教育校とし、既に実施中の青垣中学校と県立氷上西高校との連携型中高一貫教育校の取組み等とつなげて、1こども園1小学校1中学校1高校という地域の特徴を生かした魅力ある教育を展開していくこととしています。

小学校の統合により、青垣地域の新たなコミュニティづくりが進むとともに、子どもたちの学校生活が実り多いものとなり、限りない未来が希望に満ちたものなることを期待しています。

(前丹波市教育長)

青垣翁三番叟

足立 二元 (青垣町沢野)



加古川の源流である遠阪川沿いに、寺内と小和田の集落があります。両集落合わせて五十戸ほどの小さな集落です。この二

つの集落の村人が、八幡神社を祀り、毎年十月、この神社のお祭りに、天下泰平を願い五穀豊穡を寿いで奉納しているのが「翁三番叟」です。

この八幡神社は、室町時代末期ごろ、丹波・佐治郷の領主足立左衛門尉遠政の次男左衛門尉遠信が、寺内・小和田集落の裏山に山城を築き、その城山の麓に八幡神社を祀つたのが始まりと言い伝えられており、翁三番叟もその時代に始まったと思われるが、根拠となる文献などはなく定かではありません。

お祭りは、毎年十月の第二土曜日、日曜日に行われます。宵宮の夜八時ごろから祭りの神事が始まり、村人達が引くだんじりを先頭に、花笠・高張提灯に囲まれ、化粧をした八人の子供が、笛に合わせて腰太鼓をたたき、「五葉はめでたの若松さまよ枝も栄える葉も繁る……」と歌いながら、集落の端から神社まで練り



翁の舞

丹波のまつり

歩きます。神前でも一通り腰太鼓を奉納し、その後、お庭清めの神楽舞があり、神事の最後が翁三番叟で

す。
翁三番叟の舞は、千歳の舞・翁の舞・父尉の舞・黒式尉くろしきじゆうの舞で構成され、囃子方の笛・小鼓・拍子木に合わせて舞います。「とうとうたらり、たらり、あがりららりとう……」の謡に続き、最初に露払いの「千歳の舞」が舞われます。そして、翁への「面渡し」の儀があり、長寿を祈る「翁・白式尉の舞」、世継ぎの無事を願う「父尉の舞」、そして千歳・黒式尉のかけ合いの後、最後の舞踏として勤労を祈願する「黒式尉の舞」へと続きます。

それぞれの舞に独特の所作がみられ、貴重な伝統民俗芸能として、昭和四十五年（1970年）に兵庫県無形文化財に、昭和四十九年（1974年）には国の選択無形民俗文化財に指定されました。

しかし今、この祭りの継承に深刻な事態が生じています。村人の減少や高齢化にともなって、祭りの維持が困難になってきているのです。昭和三十年代の中頃までは、集落の青年が中心となって祭りを執

り行ってきましたが、時代の変遷とともに青年の数が少なくなり、一時祭礼奉納を中断することもありました。その時は、何百年も続いてきた伝統芸能を絶やすことはできないと、昭和三十八年（1963年）、村人全員が会員となり保存会を結成し、

今日までいろいろ工夫をしながら維持してきました。三番叟の舞は、先輩が手取り足取りして教え、囃子方の笛、小鼓、拍子木も楽譜がある訳でなく見よう見まねで習得するもので、長年の経験と練習が必要です。伝承・継承する人がいなければどうにもなりません。

翁三番叟を、単に集落の祭礼行事としてではなく、後世に伝えていくべき貴重な民俗芸能としてとらえ、その伝承のために、新しい方策を考えていくことが喫緊の課題となっています。



父尉の舞

（前青垣翁三番叟保存会会長）

祭と太鼓

田村 公平（熱海市）



数少ない青垣町出身と言うご縁で寄稿させて頂く事になりました。遙か五十年以上昔の祭の思い出を語るのは至難の業ですが、私の一番の思い出は祭と言うより盆踊りです。

私の父がお盆の時期になると地元のみならず、あちこちの地域に出かけ、盆踊りの音頭を取っていました。私も小学高学年の頃から音頭の合いの手の太鼓が打てる様になり、父との共演を何度かした事を覚えています。当時の青垣町は佐治の街が中心でした。愛宕祭、佐治川祭、川すそさん、厄神さん。花火はスポンサー名が告げられていました。各町内会が競い合う造り物。すごい数の露店。吉住や黒井屋のうどんの味は忘れられません。しかしそれらの思い出が、どの祭のものかの区別がつきません。残念です。沢野小和田にある八幡神社には、青垣翁三番叟とい

う国の無形民俗文化財が残っていますが、小学生の頃に同級生と舞った事があり、同時期に親鸞聖人七百回忌の大法要に加わらせて頂きました。その頃の写真がありました。が、どちらの時のものかは又もや思い出せません。しかし今回の寄稿の為、大昔に思いを馳せたお蔭で、おもしろい体験をさせて頂きました。沢野の神楽神社では二十日頃に、大風を治めて頂く為の風祭り、秋にはその御礼に五穀豊穣に感謝して太鼓神輿で宮入をする太鼓祭りがあったのです。総木造神輿で、真中には大太鼓を、皮面を上にして据え、廻りに私達子供が四名神輿の角々に、着物の上から長い帯でたすき掛けをしてもらい、余った部分の帯で背凭れの柵に落ちないようにしぼり付けてもらうのです。青年団の若衆の皆さんが太い二本のかつぎ棒に肩を入れ人力だけでお宮まで、もみ合いを入れながら巡行して行きます。大勢の村人達が見守る中、神輿



丹波のまつり

に揺られながら太鼓をたたき続けるのです。毎年怪我人が出たそうです。

おもしろい体験はここから。今回の原稿を書き始めたある日の朝、目が覚めると頭の中に「ヨイヤーナ」と言う言葉が突然浮かんだのです。ん？ 何？と考えていると次の瞬間「あつ、神輿の上で太鼓を叩く時のかけ声だ！」と解りました。「ヨイヤーナ、ソーラーヨイサッセ、アラヨイサッセ」びっくりしました。鳥肌が立ちました。こんなに驚いたのは学生の頃、バイトで歌を歌った直後に美空ひばりさんが私に近づいてくれた、あの時以来のビックリです。このかけ声を思い出そうとしていた訳でもなく、かけ声があった事自体を忘れていたのですから。遠い昔の深い記憶の底から、どうやって浮かび出てきてくれたのか、不思議でなりません。こんな驚きの体験をさせて頂いたのは、今回の「山ざる」寄稿の機会を頂いたからに他なりません。感謝申し上げます。私は中学でエレキバンドのドラム、高校でプラスチックバンドの打楽器担当とやはり太鼓に縁があるようです。今でもボランティア活動でギターを弾いたり中

学時代に使っていた骨董もののドラムセットを叩いています。現在、熱海今宮神社の常任総代の末席を汚しています。祭と太鼓の不思議なご縁です。

(柏高24回生、佐治沢野出身、㈱サポートサービスタムラ代表取締役、熱海今宮神社の常任総代)

佐治川まつり

高橋 妃登美 (新潟県妙高市)



今年の春先、大野様より「山ざる」原稿依頼の御電話を頂きました。「青垣のまつり」に関する事で突然のお話にビックリ致しましたが、懐かしいお言葉に故郷のお祭りの記憶が一瞬にして蘇り、何かのご縁とも感ぜずにはおれず、是非書かせて頂く事に致しました。

青垣のまつりで真っ先に思い浮かんだのは「佐治川まつり」です。盆踊りや花火は慰霊の意味を込めて全国で広まったと言われており、今も続くこのお

祭りがいつどのような形で始まったのか詳しい事は分かりませんが、夏のイベントとして多くの人に親しまれています。最近では、帰省客をお迎えするお盆に開催されていて、夜店の他にステージイベントや花火が一日で楽しめる内容になっている様です。

さて、かつては「佐治川まつり」は八月二十日二十一日の二日間開催されてきました。昔から夏の天災はつき物でもあり、農作業の慰労の要素も含めこの時期に実施されていたのではないかと推測致しますが、花火大会の日は私の誕生日でもあったので何よりも楽しみなお祭りでした。お盆を過ぎた頃から近所の方達と提灯を付け始め、いつもとは違う華やいだ雰囲気心躍る気分だったのを思い出します。

小学生の頃には地区ごとの展示物もあって、一つ一つ見て回るのも楽しみでした。貝殻で出来た恐竜やヤクルトの容器で制作した機関車、木のチップで作られた五重塔など、色々なお仕



事をされている皆さんの知恵と技で完成した手作りの作品は、佐治の商店街のあちこちに飾られました。毎年違う作品だったので今から思えばその準備で大人たちは大変だったのではないかと思います。喜ぶ子供たちの為にまた祭りを皆で盛り上げようと、ご近所のおじさん、おばさん方や今は亡き父の頑張っていた姿を思い出し、改めて感謝の気持ちで一杯になりました。

二十日は日中に子供神輿、夜は佐治の町中を盆踊りで練り歩きました。八柱神社そばの公民館広場から出発し、盆踊りはもちろん「青垣音頭」の歌声に合わせて、踊りの列は先が見えないくらい人の数でした。そして花火大会。黒井屋さん辺りから川に向かう通りと川沿いに夜店が所狭しと並び、行き交う人々で溢れていたように思います。佐治川から上がる花火はかなりの数で、河川敷は沢山の見物客でいっぱいだったのを覚えています。

夏、ひぐらしが鳴き始める頃、



丹波のまつり

薄暗くなるまで外で遊んでいた子供時代を思い出します。丹波を離れて気づいた故郷を慈しむ心と感謝の気持ち。素敵な宝物を私にくれた「佐治川まつり」が、これからも子供たちを育んでくれることを願っています。

(榎オービック勤務を経て新潟へ。妙高ライフを満喫しながらの三人の子育てが落ち着いた今日、高山植物の植物画を描いています。)

佐治のまつりの思い出

鴻谷 正博 (横浜市)



文献の上で、わが故郷の名が記されたのは奈良初期の頃で、佐治郷と呼ばれ、平安朝時代には宿駅として佐治の名が見られ

る。鎌倉時代になると、足立遠政が遠阪山垣に築城し、この地を統括することになった。そして、織田信長の丹波攻めによるまで、遠政の支配下にあった

という――。

そんな輝かしい歴史はともかく、昭和三十年代の佐治の町は賑わいがあった。映画館があり、飲食店やパチンコ屋も何軒もあった。何より子供が多かった。太子まつり(中町)、

水神まつり(新町)、愛宕まつり(愛宕町)など、それぞれの町内ごとに夏まつりがあった。締めは八月下旬の佐治川べりでの川裾まつり(二十四日盆)で、佐治の町全体が大きく揺れた。夜店



中町の太子まつり(筆者は神興前の丸刈り頭、左下に元プロ野球監督の佐々木君)

が立ち並び、子供たちは浴衣姿でそぞろ歩きし、金魚すくいなどに興じたものだ。花火大会がフィナーレを飾ったが、神楽橋の上は身動きできないほどだった。

佐治の氏神様は八柱神社。晩秋の祭礼の時には幟が立ち、笛や太鼓の先導のもとに、立派な神輿が町内を練り歩き、子供は小躍りして後を追った。烏帽子



最近の佐治の
氏神様八柱神社

命の神 熊野神社由緒

宮司 金子峰代（青垣町）

鎮座地 兵庫県丹波市青垣町遠阪

御祭神 伊弉册命いそのみこと

熊野神社は、通称「今出熊野権現」ともよばれて
おります。

昭和三十年、佐治町と神楽・遠阪・芦田の3村が合併して青垣町となったが（古事記から命名）、当時の人口は1万1千人と記憶している。昭和三十九年には町内の3中学が合併して青垣中となる。私の学年は6クラスで270名ほどだった。

星霜移り、奇しくも本年四月、町内の4小学校が合併して青垣小学校が誕生、1学年2クラスほどだろうか。本号で柳田国男著「故郷七十年」を紹介させていたが、柳田（播州出身）は巻頭で「故郷というのは五十年が行き止まり」と述懐していた。私自身、上京以来そんな年数になるのか、何となく理解できるような心境になってきた。

（昭和24年青垣町佐治生）

社伝には、亀山天皇（一二五九～一二七四）の時、今の社より二km奥（位知山ともいう）の神籠り滝と言う所へ紀州の熊野神社（熊野権現）から分霊を勧請し其の後長祿三年（一四五九）九月十八日現在の地に遷座す。故に今出権現とも称す。

今も、井尻谷より上がる山八分のところに岩のお洞があり、お社が祭つてあります。

命の神とも崇められ、往古は、遠阪・山垣・中佐治の三ヶ村はじめ神楽谷の四ヶ村・柴村（兵庫県朝来市山東町）からも健康長寿を願う参詣が多かった。現在においても、各地より病氣平癒をご祈願に参詣される。

丹波のまつり

丹波市の指定文化財として、十一月三日に斎行される秋季例大祭「裸祭」、室町時代の作といわれる「木の彫りの狛犬」一対、「石造狛犬」一対、明治の初め工さんが寄進した「数理の額」がある。

祭儀

一月一日 元旦祭

二月三日 節分祭

四月十八日 春季例大祭 桜まつり

六月三十日 夏越なごしの祓はらえ・茅の輪くぐり

十一月三日 秋季例大祭 裸祭り

裸祭り

十一月三日の熊野神社秋季例大祭で奉納される。

昭和四十八年七月青垣町（現、丹波市）の無形民俗文化財に指定された。

各地から加護をうける人や、うけた人々がお礼祭りをする。

神事は、裸になり腰に晒しを巻「ヨイサ」「オイサ」の掛け声勇ましく、本殿と舞堂の間を足踏み鳴らしながら七回半駆け足で往復し、続いて神宝奉還の神事の後を追い舞堂を三回めぐり、のち御幣を奪い合

い身の守りとして持ち帰る。

その起源は明らかではないが、所作の中に「田踏み」を思わせるしぐさがあることからして鎌倉時代と考えられる。

裸祭り神事の後引続き「こけら御供」をやぐらの上から参拜者に撒き頒つ。

（こけら御供）

御神饌の赤飯を栗の木でつくった御神札（3×4cm）に挟んだもの。煎じお茶としていただくと、頭痛・風邪などに効き長生きするという謂れがある。

（熊野神社宮司）

はだか祭り今昔

山中利樹（青垣町）



はだか祭りは「いのちの神」を称する今出熊野神社の一大行事です。私達が小さい頃は、十月十八日がはだか祭りとなっていました。近年は十一月三日に行われるようになって

りました。

昔は、氏子だけでなく夜久野町、朝来町の方からも健康長寿を願う参詣が多く訪れていて、山林、農作業の道具、おもちゃ、食べ物等多くの出店が来ていましたが、今は出店に出していただく店にお願いに行くのも仕事のひとつとなりました。祭りの内容も、神事を除いては昔と大変変わって来ました。朝八時より遠阪校区の子供達が太鼓をたたいて触れ太鼓から始まり、十一時三十分より子供相撲（昔は大人相撲もありましたが、今は、大人は相撲をとる人がいません）、午後1時より今出の公民館より今出川でお清め、裸衆が第1団（8〜10名）〜第5団位まで神社に向かいます。「ヨイサ」「オイサ」の掛け声勇ましく、本殿と舞堂の間を踏み鳴らしながら7回半駆け足で往復します。（その間、宮司と羽織袴の村人が神殿で神事を行っています。）後を追いつ、舞堂を3回巡った後、御幣の奪い合いをし、身の守り



として持ち帰ります。今日は、その御幣に1番、2番、3番と順位をつけて、商品を渡しています。その起源は明らかではありませんが、所作の中に「田踏み」を思わせる仕草がある事から、鎌倉時代と考えられています。私達の小さい頃は相撲も「子供達」「大人達」と多くの方が参加していましたが、今日では地域の子供達だけになっています。また、裸衆も大変少なくなり、高齢化して、若い人達が少なくなり大変です。神事の後に「こけら御供」をやぐらの上から参拜者に撒きます。「こけら御供」とは、赤飯を栗の木で作った「御神札3〜4cm」に挟んだものです。

昔は、それを煎じ、お茶としていただと頭痛、風邪などに効き長生きするといういわれがあり、また、地域で前夜当番で用意をします。栗の木は、夏頃より準備して置いておきます。近頃では、それを持ち帰って飲ませることはありませんが、神棚と一緒に祀りしていただく人もありますが、なかなか



丹波のまつり



青垣町神楽地区は加古川の源の郷です。七つの谷から流れ出た川が寄り集まって佐治川となり水上・山南・加古川へつなが

神楽しぐらの祭り

下野 美彦（青垣町）

理解していただけなく、粗末に扱われる事が多いです。最後に餅撒きを行い、行事が終了となります。餅撒きは景品が当たりますので、皆さん大変盛り上がり、拾っていただけます。はだか祭りは、私達は小さい頃は地域の一大行事で、何とか色々工夫して盛り上げようと思いますが、少子高齢化が進む地域において継続していく難しさを感じている今日この頃です。

皆様も一度機会があればお参りしていただき、地域を、祭りを盛り上げてほしいと思います。

（山中掬水緑化 代表取締役、農事組合法人 今出せせらぎ園 理事長）

ります。七つの谷にはそれぞれ集落があり自治会をつくり産土神が祀られ、お祭り行事が行われてきました。昔の例祭日は自治会・神社ごとに違いましたが、今では大名草と稲土が十月の第二日曜、他の自治会は翌日の体育の日（祭日）と決められています。祭祀はいずれも佐治神社宮司が執り行います。自治会・神社ごとの御祭り行事を簡単に紹介しましょう。

桧倉自治会 【若宮神社わかみや】

祭神は誉田別命です。古くは王子大明神と呼ばれ、山神社（大山岷命）八幡神社（応神天皇）稲荷神社（保食神）を合祀しています。祭祀の後、当番による餅つきが行われ、子どもによる榊神輿が集落を巡り祭り気分を盛り上げます。

大名草自治会 【鹿野馬神社かのま】

祭神は、須佐廼男神 伊弉册尊 保食神で、明治末に、鹿野馬、愛宕、稲荷の各神社を合祀しました。神楽地区内では最も賑やかな祭りでしょう。祭祀の後、三つの神輿が集落を練り歩きます。先ず子ども神輿、続いて太鼓神輿、可愛く化粧した子どもが太

鼓を叩きます。最後に御神霊が移された神輿が氏子に曳かれ続きます。巡行後御頭渡しが行われ祝宴となります。

大碑自治会 【皇大神宮】

祭神は大日靈貴命です。明治までは十六社熊野権現といわれ、帝釈天、天照大神、春日大社を祀っていました。ご神体は四体ずつ四箱に入っている小さい美しい人形で「十六体さん」と呼ばれています。

こども祭祀の後、こども神輿が集落を巡行します。

小碑自治会 【八阪神社】

祭神は素盞鳴命です。江戸時代は牛頭天王と呼ばれていたようです。祭祀の後、子ども相撲が奉納されます。近年子どもが少なくなり幼児や氏子の親類縁者の子どもも招かれるので村人の倍以上の人々が集い賑わいます。休憩時間には御神酒におにぎり、煮物、枝豆、久保柿が配られ和やかな時間が流れます。餅撒きもあります。午後は子ども神輿が集落を巡行します。太鼓の音と子どもの掛け声が祭りの情緒を醸し出します。

惣持自治会 【胸腹神社】

祭神は須佐甕男命です。江戸時代は牛頭天王社といわれていました。神楽神社（天宇受売命）秋葉神社（火之具土命）稲荷神社（保食神）が合祀されています。祭祀の後、餅や枝豆が配られます。厳しいのは、当番の主になった人は祭祀前一週間他人の料理した品を口にしてはならず、身を清めて過ごさなければならぬとされています。

文室自治会 【産霊神社】

祭神は皇産霊神です。妙見堂とも言われます。祭祀の後、子ども神輿が巡行します。また、天童子社もあります。

稲土自治会 【八幡神社】

稲土は菅原、西山、日向、明号に分かれ八幡神社は西山にあります。祭神は菅田別命です。祭祀の後、子ども神輿が各地区を巡行します。

ほかに明号に浄丸神社があり、豊玉姫命を祀っています。古来弁財天として祈雨、止雨の神として信仰されました。稲土川の上流浄丸の滝に鎮座します。例祭は七月十五日です。また、菅原には天満神社があり菅原道真を祭ります。例祭は七月二十五日です。

丹波のまつり

神楽地区には特に変わった祭りはありません。古来より伝わった産土神をしきたりに従って祀ってきました。先祖を敬い郷土を愛し保存していかうという気持ちの表れでしょう。ただ過疎化という悲しい現状があり、氏子に担がれた神輿も引く神輿に変わります。子ども神輿へと引き継がれ、その維持さえ困難になっているのも現実です。

(元小学校勤務、ボランティア観光ガイド、趣味 謡曲・古文書)

* * * * *

年一回程度の帰丹の際、丹波出身ながら、これまで訪問した事の無い、青垣町を姉と姪が車で案内してくれ家内と共に訪問した。昨年「春日町のまつり」で、お世話になった同級生の高見勘逸さんに「青垣道の駅」でお会いし、青垣町事情等をお聞きし、又、何人かの方を紹介頂いた。隣接の丹波布伝承館を見学。雨の中、直ぐ傍の佐地神社に詣で、もう一か所程度見ておこうと思ひ、観光案内所で勧められた「はだかまつり」で知られる遠阪地区熊野神社に参詣した。三年前「丹波のまつり」でお世話になった柏原

の方より元職場の同僚の小寺様の御紹介を受けた。小寺様は青垣町を中心に丹波市の様々な地域振興活動をされており、丹波の歴史に憧憬が深く、神戸大学のサポートも受け、学術面からの検証もされており、其々地域の事に精通されておられる。小寺様より、青垣町内の宮司様、伝統の三番叟保存会会長の方等をご紹介頂いた。又、奇しくも本年四月一日開校の新青垣小学校の開校に御腐心された小田前丹波市教育長にもご原稿を頂戴し、青垣町の方々のご知見の高邁さと地「元愛の熱意に感動しました。

人口減少の中、今後も、様々な困難に遭遇される事と思われませんが、若い人達は丹波市の将来を担う人材として、温故知新の精神で、丹波の神社やまつり等歴史・伝統に想いを馳せながら、世界の動向に目を向け、地域間協業も含め、丹波の新しい行く手を探って頂けたらと思う所です。又、関東在住の方や新潟在住の方よりも、ご自身の精神基盤を育んだ幼少年時代のまつりの状況を思い返しながら、素晴らしいご寄稿を頂きました。

(当欄編集担当 大野義昭 山南町出身 埼玉県在住)



■郷土について書かれた本

芦田均著

第二次世界大戦外交史（上下）

岩波文庫（2015年12月刊）

定価本体各1200円

本書は1959年に時事通信社で刊行したのを、戦後70年の節目の年に、手に取りやすい文庫版として世に問うたものである。

昨年冬、「現職総理初の真珠湾訪問」として囃した報道（後日訂正）や、「真珠湾奇襲と原爆投下、どちらが悪いか」というトークもあったようだが、悲惨な結果を招いた開戦の背景やなぜ回避できなかったという視点のものは皆無に近かった。

学者や作家による大戦史にも見るべきものが多いが、本書は外交官や政治家にして学究であった芦田均が膨大な外交資料やチャーチル回顧録等を渉獵して描いた壮大な同時代ドキュメントで、冷徹な視点での精緻な描写には驚嘆するばかりである。

冒頭、1939年9月1日未明のドイツ軍によるポーランド侵攻（欧州での開戦）に関して、「ドイツにとつて忍ぶことのできない東部国境問題を平和的に処理するすべての政治的可能性がなくなったので、実力による解決を決意した」とするヒトラーの「戦争行動指令第一号」発動を引き出し、芦田は、「あたかも日本の軍閥政府が東亜共栄圏の確保のために四囲の国々を敵とすることをあえてしたのと同様である」と断じる。

不可逆な三国同盟に猛進した近衛文麿や松岡洋右への批判は厳しく、開戦に至る背景として、芦田は、揺籃してきた軍閥に呼応して政権保持の手掛かりとした政党政治、危うくなった満州の権益を護持するためのファシズム

の台頭等を挙げる。満州事変を契機として、日本は国家意思を失い、軍が一つの武装した強力な政治団体として出現し、いわゆる統帥権独立の名のもとに軍の行動はすべて他の関与を許さぬものとなっていく。

開戦前から日本降伏までが臨場感をもって描かれている。海軍中将大西瀧治郎自決に敷衍しているのはやや違和感があるが、同郷の縁（旧制柏原中の同窓）によるものか。芦田は最後をこ

う結んでいる。「この大戦に飛び込むことによって、日本人は、永年積み重ねてきた政治、外交、経済の信用を破壊し、国を亡ぼすことになった。原因はいうまでもなく国の政治外交を渡すべからず人の手に渡し、その国政と外交を誤った方向に導き、しかも軍閥の執権後に登場した外交家は極めて僅少の例外を除きその資質すこぶる粗悪であった。これが歴史のわれわれに教うるどころである。」





■郷土について書かれた本
柳田国男著

故郷七十年

講談社学術文庫（2016年11月刊）
定価本体1400円

起筆の言葉で「それは単なる郷愁や回顧の物語に終わるものでないことをお約束しておきたい」と叙述しているが（初出は1989年「のじぎく文庫」、至高の民俗学者柳田国男が自らの故郷をどう描写しているのか、また丹波が出ては来ぬかとの興味で一気に読んだ。

柳田は播州の神東郡田原町辻川（現神崎郡福崎町）の生まれ。13才で茨城県の大兄に預けられ、東京帝国大学を卒業後に農商務省に入省。内閣法制局に転じ、貴族院書記官長を経て新渡戸稲造の勧めで国際連盟委任統治委員に就任。やがて退官して朝日新聞社論説顧問となる。柳田の膨大な民俗学の著作の大半は56歳で新聞社を退いた後のものである。

本書の構成は、「故郷を離れたところ」に始まり、国木田独歩や田山花袋などとの「文学の思い出」や「交友録」「私の学問」など、多岐に亘って民俗学的な洞察に満ち溢れる。最晩年の著書ゆえ柳田民俗学の集大成ともいわれ、日本人にとつて「故郷」とは何なのかを問いかけていよう。

それでは、わが郷土が登場する珠玉のような場面を抜粋して紹介したい。「いまも人に生国を尋ねて多紀・氷上だと答えられると同郷人のような懐かしさを覚えるのである」

「学士院の安藤広太郎君が氷上の出身であり、柏原の名家の出身田艇吉君の三男、園田寛君もこの成城の近所に住んでいて、いつも花山椒の佃煮を貰うのであるが、それは昔から有名なもの



であるらしい」

「もう一つ丹波地方への思い出として、播州の金持は遠隔の地から娶るのが例となっていた：竹馬の友の三木拙二翁の細君は先妻、後妻とも丹波の人であり、そうした関係から丹波のよさが種々伝えられ、私の中に植え付けられたのであった。例えば丹波の黒豆の大きさは、そのふつくらとしたよさは全く素晴らしいものと思う。山国であるため：」

「私が丹波を通過したことは二度ばかりあったが、もつと頻繁に訪れておけばよかったと悔やまれることである」

「福知山の方から二人曳きの人力車で杉原谷（現加美町）を経て多可郡を横切り、帰郷したことがあったが、それは昭和6年丹波に美しく桜の咲く頃であった。忘れもしないのは、山の高みに寺があり、その周囲に枝垂桜が乱れ咲いており、そのような美しい風景は二度と見たことのない印象であった」

生野峠を通過したのかと想像するだけで郷愁がそそられる。（鴻谷正博）



■郷土について書かれた本

滝川秀行著

拳堂という生き方

天竺山西楽寺発行

昭和30年前後のこと。柏原の街中で

松井拳堂（明治10年～昭和45年）とい

う仙人のような老人によく出会った。

「中学教師だったが日露戦争が始まると志願して福知山連隊から出征し、金鷄勲章をもらった勇士」「丹波史や丹波人物史を幾つも刊行した丹波文化人」「卒業式に招かれて訓戒を垂れる老人」というのが我々の共通認識であったが、明治元年生まれの祖母などは「ゴロツキ文化人」としてボロクソにこき下ろしていた。

何しろ新妻が一人で留守番している知人宅へ上がりこみ、「うどん取れえ」と出前を要求する。親戚の老人かと思いい、言われた通りにすると無銭飲食し

て出ていく。そのような奇行は、せまい氷上郡の中を直ちに伝播するし、一度しか行わなくても習性のように言われる。この奇人、変人ぶりは本書でも十分に紹介されているが、この稚氣満々の異才の生き方を著者は暖かく描く。必ず拳堂翁と敬称をつけて。

評者が教えられたのは、郷土の歴史研究だけでなく、力強い達磨図のアーチストとしても拳堂は全国的に有名だったという事実である。交際相手も全国的で、彼の達磨図に喜んで賛した名士は、首相犬養剛、永平寺管長日置黙仙、臨濟宗天龍寺派管長関精拙、乃木希典や児玉源太郎も参禅した禅僧南天棒鄭州、俳人高浜虚子と多士済々であ



る。本欄で紹介する本は、基本的には会員が一般書店で購入できるものに限られ、仲良しだけが贈呈を受ける私費出版は除外している。ところが本書は、「希望される方には贈呈します」とのことであるし、全国的名士の拳堂を描いた書籍など「未曾有」なので取り上げた。

著者は柏原・八幡宮前の西楽寺住職であるが、篠山で住職を務める父が拳堂翁遺墨集の編纂を依頼されたことから数多くの達磨図を通じて拳堂翁を知り、傾倒するようになった。昭和60年には丹波新聞に「奇行聖人・松井拳堂逸話評伝」を34回に亘り連載する。それ以降も膨大な数の原稿や手紙を収集し集約していった。拳堂を越えたのではないだろうか。（徳田八郎衛）

■郷土について書かれた本

田健治郎著

田健治郎日記5 (大正十年〜十二年)

尚友倶楽部・季武嘉也編 芙蓉書房出版
定価7200円(税別)

安政2年に柏原下小倉で生まれ昭和5年に東京上野毛で没するまで、官僚・政治家・貴族院議員として明治・大正時代を駆け抜けた郷里の大先輩、田健治郎の名を知らぬ郷党はいない。本誌40号で紹介した日誌は第1巻明治39年〜43年であったが、この第5巻は、台湾総督2年目の元旦で始まる。4年目の夏に任を終えて帰国した途端に大震災に遇い、「通信機関・交通機関全部閉塞、火災益々拡大」の状況で組閣する山本権兵衛首相に請われ、農相兼法相で入閣する。

復興に向け会議や閣議が続く年末で第5巻は閉じるが、気象状況をマメに記すのが面白い。寒い年末で屋内でも

結氷している。終戦の年の正月は、丹波の家でも屋内結氷したが、当時の東京も寒かったのだ。台湾総督になってから気温も記し始めるが、何と華氏である。

庶民ではなく高官の、それも総督の日記もそれなりに面白い。武官も文官もみだりに任地を離れることはできないはずだが、元通信相の大物総督のせいか、毎年公務で1か月以上も帰国している。それも横浜へ向かう便ではなく門司を経て神戸へ向かう便である。神戸では兄の田艇吉等の郷友が迎える。神戸発夜行で上京するが三宮・大阪・京都でも送迎者がいるし、国府津から記者や官僚が乗車してくるから眠る暇



もないようだ。

4年目、すなわち大正12年などは、夏の帰国が予定されているのに5月3日から6月15日まで不在である。明治末期とは違って治安も安定していたからだろう。だが、この年だけは離京して神戸へ向かう序に帰省するという公私混同ツアアは遠慮している。

健康の苦勞も多い。当時の台湾は未だ不健康地だったようだ。最後の年の4月、東宮台湾行啓の最終日なのに「午前1時半、腸痛。暴瀉5回嘔吐2回。医官を招致し魔薬、止下剤を求む。体温38度」と記す。モルヒネ注射だろうか。だが東宮主催の晩餐会があるから夕方には礼装で駆けつけている。この他に寄生虫駆除治療の記述も多い。ご苦勞様。(徳田八郎衛)

■ 会員が書いた本

清水雅子著

句集『熟れ麦』

角川書店・2700円＋税

数年前、月刊誌『文藝春秋』の詩歌
コラム窓に辻恵美子氏の俳句があった。

修道院隣に住みて鯉幟

五月の風が吹き渡る爽やかな情景と
結句への展開が面白くて切り抜き保存
していたのだが、清水雅子さんの句集
『熟れ麦』を賜り、序文があつた。辻恵美
子氏であることに真底驚いた。

晩夏なるオルガンの音に涙ぐみ

清水さんの句のオルガンは教会から
流れる賛美歌とも思い、師系を大事に
される作者と辻氏の呼応のようだ。丹
波の偉大なる俳人細見綾子氏も師系と
書かれており、脈脈と俳人魂が流れ続
いていることに誇らしさも覚える。

筆頭は八十五歳女正月

巻頭句である。詠み初めて間もなく

の岐阜支部大会で講師の特選句に推挙
され、誰だ誰だと結社がてんやわんや
したという、清水さんの傑物振りを示
す句である。漢詩のような固さながら、
奥深い伝統行事が醸す柔らかさもある。

花冷やポマード匂ふ父の椅子

黒豆の転がり母の初笑

熟れ麦を見に来よと言ふ夫若し

こつぼりの下ろしたてなり螢狩

花八手怖くて行けぬ外廁

お父様を詠まれた一句目、鼻の奥に
残るポマードの匂いが椅子に座ってい
る。二句目、箸ではなく黒豆が齢も居
場所も時季をも語りお母様を囲んだ新
春が溢れくる。夫君を詠んだ三句目は、
辻恵美子氏の命で標題となっている。



序文に「熟れ麦」に原初的な色彩や
暮らしが感じられて懐かしく、「夫若
し」に愛情が迸っている。万葉的で、
雅子さんの一大相聞歌と言えよう。一
と賛されている。四句目、こつぼり下

駄の音は螢を誘う。回想と記された五
句目、八手の花鞠に祖母に付き添って
貰ったぬばたまの夜が甦り、ポマード
に光る父の櫛や雑煮餅の数を聞く母の
声や、畳表のぼつこりの鈴の音やと懐
かしいあの日この時が渦巻き始めた。

居待月夫が煙草を吸ひに出る

新涼や幾度も星を見に出づる

露けて夜空何度も見に出づる

坐して月を待ちきれなくなった夫君
を眼で追うて、また、秋初めの涼しさ
につけ露置く夜気の冷えてくるにつけ、
星や夜空を見に外に出られる雅子さん。
それは、日々の忙しさから己を解き放
ち、見つめ直して居られるのだろうと、
その夜夜をご一緒させて戴いた。

(原谷洋美)

◆芦田 重秋さん

都合により欠席いたします。会長以下幹部各位のご努力の程感銘いたしております。ご盛会を祈りつつ……

◆芦田 行雄さん

いつもお世話様です。持病で何とか残り人生を楽しんでおります。皆様様も今後とも元気で楽しんでください。

◆吾妻 廣美さん

ようやく秋らしくなつてまいりました。いつもご通知ありがとうございます。残念ながらも参加できる状態ではありませんので以後ご連絡は無用になさつて下さいますようお願いいたします。

◆足立 美都子さん

長く歩けなくて、残念ですが欠席いたします。歳には勝てません

◆足立 正美さん

高齢となり電車等での外出が苦痛となりました、残念です。会の益々の発展をお祈りいたします。

◆足立 明子さん

立派な「やまざる」誌 楽しく拝読させていだいております。またこのたびは「ふるさとの会」にご招待いただきまして厚く御礼申し上げます。今年是小中の同窓会、柏高の同窓会と楽しく過ごしております。

◆足立 啓介さん

「ふるさとの会」は参加できませんが『山ざる』拝読しております。最近は内容が充実しているように思います。今後も活動に期待しております。

◆飯田 光雄さん

20日と23日に所属する合唱団の演奏があるため準備や練習で時間が取れず欠席させていただきます。

◆井出 恭子さん

「やまざる」47号ありがとうございます。表紙とても素敵です、ゆつくり拝読いたします

◆伊藤 富士子さん

「山ざる」誌ご送付ありがとうございます。丹波の様子今も昔も変わらざることを懐かしくまた嬉しく拝読させていただきます。歳を重ねる度に思いは入です。「ふるさとの会」もご案内いただきつつ出席できず残念です。皆様のご健康とご盛会を祈念しております。

◆植木 十和子さん

「ふるさとの会」と「山ざる」をご送付いただき有り難うございます。いつものしみにしております。お忙しい中お世話下さる方々に深く感謝申し上げます。

◆植田 茂樹さん

九州勤務のため欠席させていただきました。盛会をお祈りしています。

◆上村 愛子さん

いつもお誘いありがとうございます。当日は市川市の合唱祭に出演予定で目下練習・暗譜にがんばっております。ご盛会をお祈りいたします。

◆白井 元弘さん

亡兄の三回忌法要の為田舎に帰りましてので欠席させていただきます。

◆大塚 秀式さん

いつもご連絡感謝致します。「山ざる」には2回掲載して頂きましたが、15才迄（柏高1年生）しか出生地には居ませんでしたので、お話出来る方ももういらつしやらないでしょうし……：：：に出席するのは躊躇しています、申しわけありません。

◆大坪 則夫さん

「山ざる」を毎年楽しみにしております。今年の号は特に多くの方が執筆され内容も自分にとつて興味深いものが多く一気に拝読しました。ありがとうございます。

◆大野 富士夫さん

元気で暮らしています。4月から9月にかけては週に二〜三日四時間くらい畑にいました。

◆岡田 充利さん

元気ですが膝を痛めてプール通いの毎日です。ご盛会をお祈りしています。

◆金出 一郎さん

当日先約のため残念ながら欠席いたします。本年度も「ふるさとのかい」が盛況でありますよう祈念いたします。

◆菊池 洋子さん

音大勤務時代の生徒たちと年に1度東京北区民の為に無料コンサートを開いています。今年は10月23日を予定しております、今丁度その為に忙しくしております。欠席申しわけありません、ご盛会をお祈りしております。

◆木呂子 恵美子さん

日ごろ大変お世話になりありがとうございます。素敵な表紙とても読み応えのある内容、立派な「山ざる」を送り下さって有り難うございました。長い間皆様のお仲間に入れて頂き感謝でいっぱいです。

◆久呉 道子さん

各界の名士の集い「山ざる」誌に加えていただき忝い思いにて、昭和15年3月にいただいた関西水上郷友会賞の裁縫箱はここ熱海にも持参し、「戦争さえなければ」と思いつつ密かに己を励ましつつ今日の1日を終わります。

ありがとうございました。

◆葛谷 理俊さん

北海道は例年より冬の訪れが早いよう
うで、すでに初雪を見ました。残念な
がら今回欠席とさせていただきました。
つい先日白内障の手術をしましたがそ
れ以外は何とかつつがなく過ごして
おります。皆様によろしく。

◆小西 允子さん

毎回のご通知ありがとうございます
す。大変お世話になりました。ご
います。おかげさまで元気に絵画制
作・中央展、地方展等々活動してい
ます。

◆坂上 豊さん

陰ながら郷友会の発展を心からご祈
念申し上げます。「老いて学ばば即ち
死して朽ちず」(佐藤一斉)を座右の
銘に囲碁と読書三昧の日々「百歳を生
きる」が目標です。事務局の諸兄の

ご健勝とご精励を心よりご祈念申し上
げます。

◆笹倉 鉄平さん

当日は以前より終日用事が入って
り残念ですが伺うことが出来ないま
せん。ご盛会を心より祈っております。

◆正呂地 悟さん

ご盛会をお祈りしています。75歳と
なって動きが鈍くなり毎日の散歩と猫
4匹の世話に追われています。会員の
皆様のご健勝を心よりお祈り申し上
げます。

◆杉岡 昇さん

いつもご連絡ありがとうございます
す。今回も都合がつかず失礼致しま
す。ご盛会でありますようお祈り申し
上げます。

◆杉岡 明美さん

「山ざる」有り難うございました。い

つも楽しく読ませていただいております。
11月9日10日は私たち柏高卒60周
年記念同窓会、続いて阪神間にいます
兄弟達との姉弟会です。みんなみんな
「これが最後かも」と思う歳になりま
した。ご盛会を！

◆勢川 雅弘さん

62歳で会社を定年退職しました後20
年間の特許法律事務所勤めて82歳で
無職になりました。85歳の現在は毎日
が日曜日です。

◆田中 一美さん

「ふるさとの会」のご案内有り難うご
ざいます。出席できませんがご盛会で
ありますように！立派な会報誌「山
ざる」を楽しみに読ませていただいで
おります。

◆谷 敬三さん

当日は社会保険労務士の業務と重な
ってしまい、どうしても調整がつかま

せん。申し訳ありませんが欠席させていただきます。ご容赦ください。

◆谷垣 邦夫さん

今回は出席して近藤さんのお話を聞きたかったのですが先約と重なっており出席できません、どうか皆様によりしくお伝えください。

◆辻 英子さん

何時も素晴らしい「山ざる」誌をお送りいただき嬉しくそして懐かしく拝見致しております。益々のご盛会をお祈り申し上げます。

◆十倉 忠司さん

何時も「山ざる」有り難うございます。楽しく読ませて頂いております。

◆西川 宣孝さん

「山ざる」47号楽しく拝読致しました。加齢に伴い丹波路への足が遠のいていますが、郷里への郷愁がますます

つる今日この頃です。

◆葉山 勝さん

今回家事都合により欠席させていただきます。又の機会によりしく、丹波の香りを感じておりました、タテ・ヨコ・ナナメさん……

◆平田 岳史さん

いつも「山ざる」楽しく拝見させて頂いています。本年より又関東に戻って参りました。皆様のご活躍がとても刺激になっています。

◆廣瀬 安伸さん

いつもお世話様になりまことにありがとうございます。10月29日は柏原「喜作」にて卒業50周年記念同窓会(商業科)に出席してきます。11月12日から 知人ご夫妻と旅行が決定しております。今回は残念ながら「ふるさとの会」は欠席となります申し訳ございません。

◆福田 治子さん

足腰が弱い為、遠出が億劫で不義理ばかりして申しわけございません。ご盛会を祈っております。

◆藤田 徹さん

すばらしい「山ざる」を送っていただきました。ありがとうございます。皆様のご努力が伝わってきます。

◆堀井 隆川さん

当寺は高尾山、多摩御料、武蔵野陵にも近く緑の多いところです。丹波の山々や田舎の風景を思い出すような所もあります。境内には竜宮門をくぐって頂きますとリセットパワースポット仏足石が在り、皆々若者も希望の目標を叶える為お参り頂いております。

◆森田 宏さん

この春左耳を中心に左顔面の癌の手術を受けました。その際左足と胴体の付け根付近の皮膚を左顔面に移植した

しました。顔面は概ね回復いたしました。左足の付け根付近の皮膚はまだ十分に回復しておりません。そのうえ耳も完全に治らず、他人の言葉もよく聞こえません。その為「ふるさと」の会」は欠席といたします。「ふるさと」の会」のご盛会をお祈り申し上げます。

◆八木 信行さん

残念ながら当日は南米のチリに出張中で欠席せざるをえません。チリ行きは1年ほど前から決まっていた学会で、1つの部会では議長をすることになっており、そちらに出席しなければならぬという次第です。

◆竹安 正伸さん

何時もお世話になり有り難うございます。毎年「山ざる」を楽しみにしております。

◆山本 述子さん

「山ざる」毎号 楽しみにしております。懐かしく郷愁を覚えながら読ませていただいています。丹波人の地道ながら底力のある生き様を多く見せてもらい勇気を頂いています。

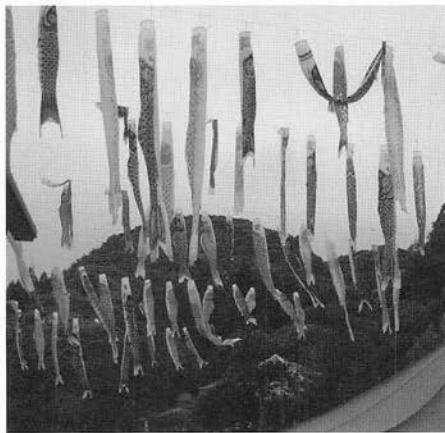
◆横谷 逸子さん

何時も有り難うございます。孫の世

話に明け暮れる毎日です、申しわけありません。

◆吉田 素子さん

母親（95歳）が大腿骨を折りリハビリ中です。面白そうな催しが目白押しの中残念ですが今回は欠席になります。盛会を祈っています、来年は参加致します！



撮影・岡田昌子

平成29年度柏陵同窓会 東京支部総会・懇親会開く

母校創立120周年を迎えた今年の総会・懇親会は平成29年7月8日(土)11時から、昨年と同じ「学士会館」にて開催されました。

当日は、竹内同窓会長始め足立・村上・松井各副会長、大西母校校長、昨



総会風景

年11月就任された谷口丹波市長、仁藤阪神・山名京滋・西野現、畑前東海各支部長、植杉兵庫東京事務所課長、井口東京兵庫県人会幹事、荻野丹波新聞社社長、今年も日本酒の差し入れを戴いた西山酒造場会長の計15名のご来賓、他支部からの参加者を含め145名の参加で大盛会でした。

総会では会務報告、会計報告、創立120周年記念事業寄附(東京支部として30万円)報告が承認されました。

ご来賓のうち竹内同窓会長、大西校長、谷口丹波市長からご挨拶を頂きました。谷口新市長は今年の当番学年



谷口市長

と同じ23回生、ご自身作成のペーパーに基づき今後4年間で市長として何をやるか

について熱く語られました。

今年の担当幹事は昭和46年卒・23回の皆様。前後に較べて東京支部会員が少ない年次で偶々谷口市長が同期ということもあり本部・他支部から7名の応援を得て合計16名、加えて副支部長等の受付応援もあり見事に対応頂きました。今年も総会・懇親会の横断幕を書道師範の21回生藤原ひさ子さんに力強い見事な字で作成いただきました。

恒例の柏陵セミナーは幹事学年23回生米村(旧姓天野)克彦さんの「なぜ、地域医療は崩壊したか」と題する講演。丹波市でも話題になった医師不足による地域医療の崩壊。その要因は臨床研修医が東京等大都市に集中し、従来地域医療病院への医師派遣を担っていた地方医大に医師が残らなくなったことによるもので、現行制度の下ではこの流れは止められないとご自身の大学院、地域病院経営の経験を踏まえてお話しいただきました。

浅倉23回生代表の開演挨拶、山名京



挨拶代表幹事
柏校母による撮影
中高、懇親会中
による撮影

滋支部長の乾杯の音頭で始まった懇親会は途中にソプラノ歌手足立さつきさん、丹波新聞荻野社長に加えて「たんばコミュニティネットワーク」理事長足立宣孝さんから「805たんばエフエム放送」の紹介と支援依頼を挟んで、時を忘れた4時間の最後は校歌・応援歌・仁藤阪神支部長の音頭による万歳三唱。恒例のテーブル毎記念写真を手に解散となり



米村氏によるセミナー風景

原高校の今を前方スクリーンに投影しました。

来年度の総会・懇親会は今年と同じ学士会館にて7月8日(日)の開催です。久しぶりの日曜日開催です。多くの皆様のご参加をお待ちしています。近年関東に来られたご友人・お知り合いがおられましたら事務局までお知らせください。

柏陵同窓会東京支部のホームページに総会風景等アップされておりますので、是非ご覧ください。

(支部長・谷口浩章 15回生 氷上町出身 記)

東京支部総会「学年幹事」に寄せて

昨年の夏、23回生の3年5組と6組合同のクラス会が、恩師の出席のもと柏原駅前前の「喜作」であった。帰り際、

地元にいる級友から、次回の東京支部総会の「学年幹事」が、我々23回生であることを知らされた。又、昨年の東

京支部総会には、23回生の代表として浅倉君が参加し、例年150名規模の総会になることや、前年度からの申し送り事項を聞かされ、日頃、柏陵同窓会と疎遠にしている我々にとつて、「これは大変だ」という思いで一杯になった。

元々、関東地区に在住する23回生は多くなく、取り敢えず学年世話役の4名で、9月から毎月のように都内某所で密会を重ね、同志を募ることから始めることにした。人集めのほか、当日のセミナー講師を誰が引き受けてくれるか、今回は柏高創立120周年の記念の年であり、何かイベントが企画出来ないか、丹波からの「ビデオメッセージ」が良いのでは等、無い知恵を絞り出してみたものの、思いと現実の狭間で迷走するばかり。

そして、今年7月8日に総会当日を迎え、丹波をはじめ関西地区の級友が多数応援に駆けつけてくれた。又、先輩学年諸氏の強力な支援を受けて、何

とか総会を無事完遂することができ、「学年幹事」の大役を乗りきれた思いで23回生一同ホットした。

東京駅近くでの二次会には、昨春秋に丹波市長になった谷口君、セミナー講師を引き受けてくれた米村君ほか十数名が参加し、高校時代の楽しい思い出話に花を咲かせ、「今度は時間に追われずに会おう!」と言って散会した。

翌日、妻を誘って浅草の「ほおずき市」に行った。夕暮れの浅草寺境内には、「丹波ほおずき」を売る屋台が数多く並び、この日は四万六千日の縁日とのことで、この日参拝すると46000日分の功德があると言う。同じ柏高時代を過ごし、何十年ぶりかで当時と変わらず再会できた級友、事情により参加できなかった級友に思いを馳せ、これからも皆と一緒にゆっくりとした時間を過ごしに行ければと願うばかりである。

(山内芳彦/23回生 市島町出身)

インフォメーション

●本会会長岸本勲氏が囲碁2段へ

多忙を極めておられる、岸本勲氏(三協運輸(株)会長)がこのほど日本棋院から、めでたく2段を免許されました。郷友の中には囲碁に興味をお持ちの方も多かろうと思いますが、まずは目出度いお知らせでした。師匠は小林千寿6段。免状授与には、かねて親しくしておられる大竹英雄九段(日本棋院理事長)も駆けつけ、祝杯を挙げていただいた由。羨ましい次第です。(S)

支援協力

●映画 恐竜の詩 - YAMASATO NO

JTA -

—丹波が舞台の映画を成功させるために支援協力をお願い—

丹波新聞会長の小田晋作さん、映画

監督の近兼拓史さんから

七七頁「ふるさとトピックス」に記載されていますように、丹波市が舞台の映画製作は来年春の公開予定で進んでいます。映画製作には多額の経費がかかるものですが、丹波の山奥で日々不足する制作費に腐心しておられるとのことですので、協賛ご希望の方は協賛申込書とともに指定口座にお振込みください。



振込指定口座

三井住友銀行

世田谷支店 (788) 普通5589026有限会社ダカーポ

ゆうちょ銀行

◆インフォメーション

記号14280 番号3434111 有限会社
ダカーポ

映画「恐竜の詩」製作委員会事務局
(有限会社ダカーポ内)

〒六六二-0916 西宮市戸田町5

1-31 セレニテ西宮一番館2F

TEL: 0798(22)0913

FAX: 0798(22)0910

e-mail: laluz@uramus.dine.jp

担当: 荒谷やよい

展覧会

●笹倉鉄平氏の版画展

平成二十八年十一月初旬、秋たけな
わに誘われJR茅ヶ崎駅へ行き、改札
を出て正面に位置するビル「ラスカ茅
ヶ崎」へ入ってみた。全面リニューア
ル増築なった同ビル6Fで開催中の展
示即売会へ行ってみると、そこには笹
倉鉄平画伯のヨーロッパを中心にした
「旅の情景画展」が開催されていた。

係の人の説明では「笹倉先生は、丹波
市山南町の御出身で版画の分野の第一
人者です。精緻で明るい画風は最近と
みに好評を博しています」と申され、

誇りに思うと同時に展示されている風
景画の点数の多さと号の大きさに圧倒
されました。何よりも「山ざる」の表
紙絵を飾っていたいただき、山ざるの表
紙と価値ある本になりました。

笹倉鉄平画伯の常設美術館は、次の
とおり開設されており是非鑑賞をお薦
めしたい。

1 〒662-0838 兵庫県西宮

市能登町11-17 笹倉鉄平ちいさ

な絵画館(原画を展示) ☎07

98-75-2401

2 〒242-0014 神奈川県大

和市上和田1777 笹倉鉄平版

画ミュージアム(複製画を展示)

☎046-267-8085

なお、平成二九年春には、「笹倉鉄
平画集 ヨーロッパやすらぎの時間」
が発刊されている。〈求龍堂/定価〉

五〇〇〇円十税) (文責 足立敏晴)

●可部美智子氏の陶彫展

本欄では、すっかりお馴染みになり
ましたが、可部美智子氏の出展される
陶彫展が、今年も銀座6丁目のサロ
ン・ド・Gで催されました。6月28日
の初日には、朝から出品作品の搬入・
展示に、可部氏は大忙し。未だなお衰
えぬ制作意欲と作品への深い愛情には、
頭がさがります。今年第64回目の展
示会で、制作者達に新旧交代の流れが
垣間見えて、斬新な発想の作品が多く
見られました。(S)



演奏会

◎ブルク・バツ八室内合唱団公演



笹倉強氏主宰

のブルク・バツ
八室内合唱団の
演奏会が、4月
8日(土)に浜

離宮の朝日ホールで開かれました。この演奏会は、隔年で行われており、今回が6回目。本誌47号の本欄に予告記



事を掲載いたしました。素晴らしいハイモニーと、ウイットに富んだ笹倉氏の語り口に、ほぼ満席の聴衆は暫し時を忘れました。

(S)

著作紹介

小竹政孝(鎌倉市)

此の度、ペンネーム比埜庸甚(ひのようじん)でアマゾンから「明治七十八年生れの山猿」を電子出版しました。これは、昭和二十年という実は大変な年に丹波に生まれた男の勝手気ままな随想記です。

昭和二十年は明治七十八年に当たり、今年(昭和百五十年)に当たります。「明治は遠い昔」とは思えないような歳になりました。子や孫に読んでもらおうと、失敗談やヤンチャ話、忘れたい記憶などをこの一年半ほどの間にランダムに書き溜めたものです。



明治七十八年生れの山猿

比埜庸甚

山・川・近所の路上などで、家の農業の手伝い

に明け暮れた在郷時代を第一部「丹波の山猿」としました(昭和二十年代前半から三十年代後半頃の話です)。十八歳で離郷してから現在までの五十年は第二部「丹波を出た山猿」としています。

私自身の実話に基づいていますが、記憶違いなどもあるはずですので、実名ではなく、比埜庸甚というペンネームを用いました(「火の用心」をもじったものです)。なお、固有名詞は、丹波の地名や学校名などのほかは、ほとんど全てをイニシャルで表記しています。定価は無料でもよいのですが、アマゾンのルールで九十九円以上に設定しなければならぬということ、で、百円に設定しました。

電子出版は探しくいのが難点ですが、GoogleやYahooで「比埜庸甚」または「明治七十八年生れ」と入力していただくとたどり着きやすいと思います。

(昭和20年生、柏原町出身)

同好会

◎氷上ゴルフ同好会

休会のお知らせ

長らく皆様のご厚意で続けてきました氷上会も残念ながら一旦休会とさせて頂くことになりました。昨今の報道でも高齢者の自動車事故が多発しております。我が氷上会でも常磐道での開催では神奈川、埼玉方面、埼玉や多摩・神奈川での開催では千葉、茨城方面の会員の皆様より、「高速を使う遠い会場では……」と参加者の運転に対する不安を多数お聞きしてきました。せつかく無理しての例会参加途次の事故も恐ろしく……そんな中、ここ数年は高齢による退会者も多く出てきておりました。

140回を超える歴史を誇るこの会ですが、143回例会をもって一旦休

会とし、例えば各お住いの地区だけで同好の方同士で開催したり、時には車で温泉地などで旅行開催をするとか……皆さんのご要望が合意を得たところでの開催など考えるところです。



第143回大会の参加者

若い方が多く参加を望まれました折には、また再開されるよう期待しております。

尚、最終回のパーティでのご意見で残余の会費繰越金(2万4千余円)については、氷上郷友会に寄付をさせて頂きました。

○第142回 28年9月

森林公園ゴルフ倶楽部

優勝 塚口 智

2位 大野 邦江

3位 荻野 智司

○第143回 28年12月

取手国際ゴルフ倶楽部

優勝 大里 崇

2位 藤田 純

3位 大賀 勝恵

関東氷上郷友会 ゴルフ同好会

事務担当 岡吉明

◎寄附者芳名 (平成28年度)

兵庫県東京事務所次長

大角 真一殿 (ふるさと会御祝儀)

一〇、〇〇〇円

東京兵庫県人会幹事

平谷 英明殿 (ふるさと会御祝儀)

一〇、〇〇〇円

前丹波市市長

辻 重五郎殿 (ふるさと会御祝儀)

一〇、〇〇〇円

神戸新聞社東京社長

沖永 朝裕殿 (ふるさと会御祝儀)

一〇、〇〇〇円

丹波新聞社社長

小田 晋作殿 (ふるさと会御祝儀)

一〇、〇〇〇円

柏陵同窓会会長

竹内 牧人殿

一〇、〇〇〇円

柏陵同窓会前会長

谷水 克巳殿

五、〇〇〇円

水上ゴルフ同好会殿

鶴田 宏・ゆき子殿

二四、五一四円

菊池 洋子殿

岸本 勳殿

一〇、〇〇〇円

中居 篤子殿

廣内 卓生殿

一〇、〇〇〇円

山口 敏之殿

三輪 香子殿

一〇、〇〇〇円

吉見 弘文殿

若松 操殿

八、〇〇〇円

大野 義昭殿

五、〇〇〇円

荻野 武殿

五、〇〇〇円

梶原 やす子殿

五、〇〇〇円

金出 一郎殿

五、〇〇〇円

近藤 輝雄殿

五、〇〇〇円

笹倉 強殿

五、〇〇〇円

谷口 捷殿

五、〇〇〇円

谷口 浩章殿

五、〇〇〇円

堀井 隆川殿

五、〇〇〇円

赤井 正洋殿

三、〇〇〇円

足立 和孝殿

三、〇〇〇円

足立 啓介殿

三、〇〇〇円

足立 義雄殿

三、〇〇〇円

大坪 則夫殿

三、〇〇〇円

絹川 正殿

三、〇〇〇円

坂上 登殿

三、〇〇〇円

笹倉 鉄平殿

三、〇〇〇円

高見 嘉都司殿

三、〇〇〇円

高見 秀史殿

三、〇〇〇円

谷垣 邦夫殿

三、〇〇〇円

千葉 淳子殿

三、〇〇〇円

林 孝男殿

三、〇〇〇円

藤田 純殿

一、〇〇〇円

藤田 千治殿

一、〇〇〇円

山田 良一殿

一、〇〇〇円

若森 敏郎殿

三、〇〇〇円

渡辺 昌彦殿

三、〇〇〇円

足立 美都子殿

二、〇〇〇円

柿原 康一郎殿

二、〇〇〇円

直田 正殿

二、〇〇〇円

富田 貞子殿

二、〇〇〇円

廣瀬 安伸殿

二、〇〇〇円

前田 武彦殿

二、〇〇〇円

三浦 和子殿

二、〇〇〇円

安井 孝之殿

二、〇〇〇円

本城 英明殿

一、五〇〇円

足立 さつき殿

一、〇〇〇円

足立 武夫殿

一、〇〇〇円

足立 東一郎殿

一、〇〇〇円

井出 恭子殿

一、〇〇〇円

井徳 正吾殿

一、〇〇〇円

稲岡 俊一殿

一、〇〇〇円

植田 茂樹殿

一、〇〇〇円

上野 忠明殿

一、〇〇〇円

岡田 充利殿

一、〇〇〇円

久呉 道子殿

一、〇〇〇円

小中 克巳殿

一、〇〇〇円

坂上 豊殿

一、〇〇〇円

山岸 幸子殿

一、〇〇〇円

余田 幸夫殿

一、〇〇〇円

❖ 本誌にご協力有難うございます



SOMPO
ホールディングス

保険の先へ、挑む。

損保ジャパン日本興亜

保険の 先へ、挑む。

変化の時代にも、揺らぐことのない確かな明日をお届けしたい。
その想いをカタチにするために、私たちは進化します。お客さまの
「安心・安全・健康」な暮らしをひとつなぎで支えるグループへ。
保険の先へ、挑む。

日本の「損保」から、世界で伍していく「SOMPO」へ。

損保ジャパン日本興亜はSOMPOホールディングスの一員です。

損害保険ジャパン日本興亜株式会社

南東京支店 品川第一支社

〒108-0075 東京都港区港南 1-6-31

Tel:03-5781-8041 <http://www.sjnk.co.jp/>

すべての
働く人のために、
タイヤは強く
進化した。

優れたロングライフ、より確かな耐摩耗性能、
さらに向上した性能が働く人たちをサポート。

よりタフになった、ヨコハマのライトトラック用タイヤ、LT151R。

イテグロートチーブル

このタイヤには、プロに選ばれる理由があります。

LT151R

New High Performance Radial Tire for LIGHT TRUCK

 **YOKOHAMA**

❖ 本誌にご協力有難うございます


あなたの
「出会い」→「結婚」を
兵庫県がサポートします!

兵庫県では平成11年以来「ひょうご出会い支援事業」を推進しており、この事業による成婚カップルは1,300組を超えています。結婚を希望される独身の方は、兵庫県内に10ヵ所ある出会いサポートセンター及び東京センターで1対1のお見合いをすることができます。

費用は登録手数料**5,000円/年**(20代の方は3,000円/年)のみ!
メールとインターネットの出来るパソコンまたはスマートフォン、全身写真1枚が必要になります。

ひょうご出会いサポート東京センター

ひょうご出会いサポートセンターのホームページから
「仮登録」と「初回来所予約」をされた上でお願いします。

ひょうご出会いサポートセンター  検索
<https://www.msc-hyogo.jp/>

TEL: 03-6262-3035
開館時間: 火・水・金 10:00~18:30 / 土 10:00~17:30
東京都千代田区大手町2-6-2 パソナグループ本部ビル3F
公益財団法人 兵庫県青少年本部・兵庫県



JR東京駅 日本橋口 徒歩2分 / 地下鉄大手町駅B3a出口直結

認定NPO法人アジアの新しい風 理事
<http://www.npo-asia.org>

上 高 子 (氷上町出身)

〒154-0016 東京都世田谷区弦巻2-18-22-414
TEL / FAX 03-5426-6714
e-mail takako-ue@t05.itscom.net

アジアの有名大学で日本語を学ぶ学生を支援する NPO です。

交流大学は中国・清華大学、タイ・タマサート大学、ベトナム・貿易大学、インドネシア・パジャジャラン大学。

東京都によって認定 NPO に認定され、当 NPO への寄附金は、確定申告をすることで、税額控除の対象になります。すなわち、寄付総額から 2000 円を差し引いた金額の 40% が税額より差し引かれます。ご支援をよろしくお願いいたします。

時代を経ても変わらない
深い味わいと穏やかな香りの純米酒
そして、現代の
酒造りの粋を極めた
純米吟醸酒・純米大吟醸酒を
中心に仕込んでいます

奥丹波

丹州氷上之地酒

地元兵庫県産の酒米と神地寺山伏流水を用いた
古式和釜、三段仕込み、槽搾りの創業以来
ほとんどスタイルを変えない伝統的な
仕込み方法と、江戸時代より続く
寒仕込みにこだわる



創業江戸享保元年

山名酒造株式会社

TEL 0795-85-0015
<http://www.okutamba.co.jp>

❖ 本誌にご協力有難うございます

関東氷上郷友会の益々のご発展を
祈念いたします。

 **埼玉りそな銀行**
RESONA

丹波新聞



伝えたい
届けたい

厄払いの伝統行事「鬼ごそ」

常勝寺(山南町谷川)で行われる「追儺(ついな)式」。鬼4匹が、足を踏みながら回廊を歩くと、見物客らはしきりにカメラのシャッターを押していた。(本紙・今年2月16日号より)

無料お試し購読受付中!!

丹波新聞社 〒669-3309 丹波市柏原町柏原201 丹波新聞 検索 
tel.0795-72-0530 fax.0795-72-1956 週2回(日・木)発行 1ヶ月1,255円(郵送料205円)

あなたの町の「石屋さん」
そんな石屋をめざしています!!

墓石・霊園・建築石材・造園石材

(株) 丹波総合石材

代表取締役 堀 公二 柏高 昭和36年卒

いしやは ここよ

 **0120-1480-54**



工場・事務所 〒669-3311 丹波市柏原町母坪425

TEL 0795-72-3032

FAX 0795-72-4343

<http://www.tanba-sekizai.com>



筑波東急ゴルフクラブ

〒300-4204 茨城県つくば市作谷 862-1

TEL029-869-0109 FAX029-869-0568

<http://www.tokyu-golf-resort.com/tsukuba/>

株式会社東急リゾートサービス

今、求められている

新しいスタイルの物流トータルサービスをあなたに

情報誌・SP販促物などの梱包・発送管理、DM発送
データ入力等の情報処理、コールセンター、
事務局代行、在庫管理など一連業務を代行いたします

——— いつでもよりよいサービスを ———

BSS

株式会社ベターサービス

代表取締役 絹川 正 (山南町池谷)

本社：〒262-0003 千葉市花見川区宇那谷町 1501-2
TEL：043-257-0414 FAX：043-257-2865
<http://www.betterservice.co.jp>
e-mail：kinugawat@betterservice.co.jp

関西丹波市郷友会会報

たんば

 第2号

(10月発行予定)

郵送料のみご負担にて配布致します。

[申し込み先] 関西丹波市郷友会
[事務局] 大阪市西区新町2-15-27
サンキン内 (tel.06-6539-3201)

平成29年度総会

11月19日(日)午後1時より
柏原町「たんば黎明館」内
レストラン「ル・クロ丹波邸」

これに先立って…… 午前10時半より
地域医療講演会 開催


講師：邊見公雄氏
(全国自治体病院協議会会長)
会場：柏陵同窓会会館(柏原高校内)

たんば

関西丹波市郷友会会報
第2号 2017.11.1

くすの木14

14回生部会



足立 悦雄	高田 温美
足立 義雄	西野 裕
井上 巖	仁藤 欽嗣
上田 道代	松田 恵子
岡 洋子	三觜 洋子
岡田 昌子	山名 靖英
岸本 敏子	山本 喜則
木下 寛爾	

足立 静雄

足立 知佳子

株式会社ナレッジリンク
足立国際会計事務所
代表取締役
税理士・米国公認会計士 (Certificate)
〒152-0035 東京都目黒区自由が丘1-13-4 U11 自由が丘ビル602
TEL 〇三三七八〇四七 FAX 〇三三七二八一四七
E-mail : cadachi@aia.gr.jp

医療法人社団 順孝会 理事長 / 医学博士
順天堂大学眼科 非常勤講師

足立 和孝

〒347-0015 埼玉県加須市南大桑一六八二〇一
TEL 〇四八〇六五二五九八八
FAX 〇四八〇六五二六〇九七
E-mail : kazu358@pastei.ocn.ne.jp

モンテッソーリ・スクール ひまわりこどもの家
NPO法人小学生モンテッソーリ・スクール
理事長・園長

池田 和子

行徳校 〒272 0137 市川市福栄二丁目一六〇一
本八幡校 〒272 0823 市川市東菅野一丁目三三三

池田 忍

〒247 0005 横浜市栄区桂町一丁目一〇一
TEL 〇四五 一八九五 二七二二

石橋 順子
藤原 ひさ子

PCC大洋

岡 吉明

〒351 0014 朝霞市膝折町四丁目一三〇
TEL 〇四八 一四六 〇一六〇一
FAX 〇四八 一四六 〇一三九七
<http://www.pcc-taiyo.co.jp>

岡田 昌子

金出 一郎

岸
田

勇

上
武

正
次

木
呂
子

恵
美
子

坂
上

勝
朗

近
藤

仁
司

栗
田

功

坂
上

豊

坂
山
仲
口
上
泰
登
男
聰
登
仙
台
市
在
住

合唱指揮者

笹
倉

強

〒 352 | 0014 新座市栄四一五一二五
TEL・FAX 〇四八―四七七―五六四〇

高
見
秀
史

谷 社会保険労務士・CFP事務所
年金・保険・労務・ライフプランの談話室

谷 敬 三

東京都 豊島区池袋本町四一三二一十七
TEL 〇三―三九七―七八二六
E-mail: rani_finance@a.toshima.ne.jp

谷
口
浩
章

「柏陵同窓会東京支部」で検索いただくと
東京支部ホームページがご覧いただけます。

鶴田宏

エネクスフリースト株式会社
西日本支店 支店長

土井聖司

〒813-0018 福岡県福岡市東区香椎浜ふ頭三―一―一四
電話 〇九二―六八一―六八〇二

日本舞踊
西崎祥
端唄
根岸妙

〒224-0032 横浜市都筑区茅ヶ崎中央五六―九―七二二
電話 〇九〇―九九七七―七七九三

西山裕三

〒669-4302 兵庫県丹波市市島町
中竹田一―七―一

原谷洋美

株式会社
メイク

代表取締役
広瀬寿和

〒160-0003 東京都新宿区本塩町二十三第一田中ビル
電話 〇三―三三五四―〇二二一
FAX 〇三―三三五四―二三二一

エネクスフリースト株式会社
関東支店 支店長

細川 貴志

〒347-0046 埼玉県加須市大字平永五三七
電話 〇四八〇—六二—二四〇〇

青葉山 真照寺 都立八王子霊園隣り
八王子 青葉霊苑 第二期墓地分譲案内中
和合廟（永代供養墓）受付中

住職 堀井 隆川

〒193-0821 東京都八王子市川町四九三—二
電話 〇四二—六五—二〇一一
FAX 〇四二—六五—二一〇三三

Gemba Lab 株式会社

代表 安井 孝之

〒101-0026 東京都千代田区神田佐久間河岸七〇
第二田中ビル三八号室

若森 敏郎

〒302-0023 茨城県取手市白山五—四—一三
電話 〇二九七—七二—〇九〇七

山田 良一

〒277-0054 柏市南増尾一—七—四

渡邊 隆男

集 編 後 記

★既に日本は移民国家との新聞記事を見た。東京の外国人住民は、4%近い水準で、在住市でも2・6%である。ポラン

ティアとしてサポートしている日本語教室でも、国籍は、時代背景を反映し、確実に増加。最近までは、中国人のIT技術者、留学生家族、周辺国よりの流入時期から、近年ベトナムのIT技術者、東南アジアよりの技術人材の名目での若手の現業ワーカーの流入も増えている。現在、世界的な問題として、4年前の家内との欧州訪問時、見聞した移民の急増で欧州社会の不安定化がある。異文化共生につき、我々も真剣に考える時期となっている。

(大野)
★谷川を3回訪れましたが、地点や山河の名称を確認するには、旧久下村出身というだけでなく、やはり谷川の人でない駄目でした。

(徳田)
★今年資格の年と決め英検1級目指して精進したかいありこの度無事に合格しました。何かに集中すると此事は忘れ(時には寝食も)、老後の生き方として悪くないと思えました。燃え尽き症候群を癒

するためのロシア旅行はハラショーでした。

(石橋)

★4月に新聞社を定年で退職し、フリー記者になりました。少しは余裕が生まれるだろうと「山ざる」の編集のお手伝いをさせていただいたのですが、豈図らぬや。会社勤めのころよりも馬車馬のように原稿を書く日々になりました。仕事のお声をかけてもらえるうちが花と思うことに致しました。今号では「簡単レシピ」を書く羽目になり、夏の盛りにとろろ汁をつくりました。初めての料理記事の執筆、これもまた楽しからんや。

(安井)

★七月末、富士川サーブスエリアの櫛からは熊蟬の音が湧いていた。録音ではなかるうかと疑う程の声また声で、葉群から繁みへ夏を謳歌せんと飛び交っていた。数日後、杉並りでも、朝のひとときにあの蟬声を耳にした。蟬の世界にも箱根越えは始まっていると聞く。顧みれば、この私達『山ざる』人も箱根越えの先駆者である。古里丹波を源にした、心地良い声が湧き響く冊子であると嬉しい。皆様の投稿をお待ちしております。

(原谷)

★家族や友人に呆れられながら、古書店巡りを続け、「山ざる」に役立たないか

と氷上丹波に關する本や雑誌を今も買い続けています。

(本城)

★今年の蒸し暑さは特別と憂える日々なれどチームワークは絶好調。早々に準備万端整えて下さり今年も読み応えのある内容になりました。毎年のことながら編集委員始め寄稿者皆様の才能の豊かさ、行動力、ポランティア精神に学ぶことばかり。広告・寄付を提供下さった皆様にも感謝。隅から隅までお楽しみいただければ編集長冥利に尽きます。

(岡田)

山ざる 第48号 定価500円

平成二十九年十一月一日発行

委員 井徳省吾 石橋順子 上高子
大野義昭 岡吉明 岡田昌子
坂上勝朗 徳田八郎衛 原谷洋美
編集 藤原ひさ子 本城英明 安井孝之

発行者 関東水上郷友会会長岸本 勲

〒351-0014 埼玉県朝霞市膝折町4-4-30

関東水上郷友会事務局(岡吉明)

☎〇四八(四六〇)一六〇一
振替〇〇一〇一三二二三三三〇

製 作 株式会社ニ社
編集協力 ダイワコムス



HINO
RANGER

社長、こいつに乗せてくれ！



HINO
PROFIA

東京日野自動車株式会社

本社：東京都港区新橋5丁目18-1
TEL 03-3578-3955 (代表)

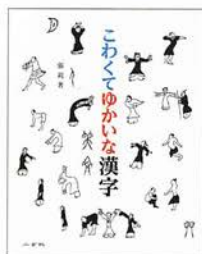
漢字は太古の思いを詰めた玉手箱。

こわくて ゆかいな漢字

張 莉 著

A5判変型・320頁 ● 2000円+税

漢字の故郷、中国から日本に留学した才媛が、白川静、阿辻哲次の両大家に学んだ漢字学の知識を元にして書き上げた、漢字をめぐるエッセイ集。日常見慣れた文字の意外な字源を取り上げて行く。



小学校で学んだ漢字を、きれいなくずし字で！

大人が学ぶ小学校の漢字 [なぞり書き練習帳]

宮澤正明 著

B5判・160頁 ● 1500円+税

教育漢字1006字について楷・行・草書の三書体をマスター。小学校レベルの漢字を練習するだけで、キレイなくずし字が気軽に身に付く練習帳。

常用漢字を楷・行・草でマスター！

大人が学ぶ中学校の漢字 [なぞり書き練習帳]

宮澤正明 著

B5判・178頁 ● 1800円+税

中学校で学ぶ漢字1130字について、楷・行・草書の三書体を網羅。ポイントを学びながら、キレイなくずし字が実用レベルで使えるようになる練習帳。

書写指導の第一人者による書き込み式練習帳の決定版！

きれいな文字の書きかた [書き込み式練習帳]

宮澤正明 著

B5判・160頁 ● 1500円+税

なぞり書きを交えながら実際に鉛筆やペンで反復練習。ひらがな・漢字の練習から、ハガキ・手紙の書き方まで、きれいな文字が身につく練習帳。



株式会社二玄社 会長 渡邊隆男



〒113-0021 東京都文京区本駒込 6-2-1 Tel.03-5395-0511 Fax.03-5395-0515 <http://nigensha.co.jp>